社団法人

北海道観光連盟20周年記念誌

昭和57年10月

北海道親先連盟創立廿年記念に寄せて

谷城俊作

設立志高已廿年　創基大道今猶伝
夢成歓溢国際化　祝福降々頂盛宴

二〇〇〇年

歴　代　会　長

町　村　金　五

昭和37年５月25日就任

広　瀬　経　一

昭和40年５月21日就任

舟　橋　　要

昭和45年12月１日就任

中　原　哲　男

昭和49年５月15日就任

社団法人

北海道観光連盟20周年記念誌

目次

発刊にあたり……1

発刊に寄せて……2

北海道のあらまし……3

自然のふるさと概観

雄大な自然のふるさと北海道

北海道の沿革

北海道観光レクリエーションの現状

戦後の観光関係年表……17

関係者が思い出を語る座談会・手記……27

道観連の歩み……35

結成からその後の経過

(社)北海道観光連盟設立趣意書

創立当時の定款

創立当時の役員

昭和37年度事業計画と収支予算

20年の事業活動……45

各年度事業活動

事務局の移り変わり……86

東京案内所今昔……87

創立20年を迎えた道観連……89

定款

役員名簿

昭和57年度事業計画と収支予算

あとがき……101

発刊にあたり

社団法人北海道観光連盟

会長　中　原　哲　男

昭和21年４月に結成された北海道観光連盟が，その後，観光客の増加に伴い当面する課題も多くなったことから，昭和37年社団法人に改組してその基盤を充実強化し，新体制のもとに運営されてから20年を迎えることになりました。

顧みますと，この20年，観光レクリェーション活動の増大に対応し，多様化する内容や旅行志向の変化など見究めながら，宣伝誘致活動と受け入れ体制の整備を二本の柱として，観光の通年化を進め，全道的な団体としてしだいに事業を拡大しながら，観光産業の健全な発展を図って参りました。

お陰にて，今日を迎えるに至りましたことは，ひとえに，道はじめ関係機関の適切なご指導とご援助，会員および関係各位の絶大なご協力によるものと，深く感謝と敬意を表するしだいであります。

申すまでもなく，観光レク活動は，直接の消費額に加え波及効果も大きいことから，特に本道においてはきわめて重要な産業として発展する可能性をもっております。ここ数年，低迷する経済情勢を背景に，その影響などから観光事情も厳しい環境下にありますが，観光産業の振興と活性化を促すことは私どもの責務であり，新しい発想のもとにこれまで以上の努力を傾注しなければならないものと考えます。

このたび，〝20年の歩み〟をまとめた記念誌を発刊いたしますが，これまでの足跡をしのぶとともに，重要な目的達成のため，道観連が将来さらに飛躍的に発展することを念願としておりますので，これを契機に今後とも一層のご指導ご協力賜わりますようお願い申し上げます。

なお，本誌の発行にあたり，数々の助言や貴重な資料の提供，あるいは手記を寄せられるなど，多大なご協力いただいた各位に対し心から感謝申し上げます。

〝発刊に寄せて〟

北海道知事　堂垣内　尚　弘

社団法人北海道観光連盟が創立20周年を迎えられましたことを，心からお祝い申し上げます。

当連盟は，戦後間もない昭和21年に誕生したのでありますが，その後，道内観光事業の健全な発展と振興を図って本道経済の発展に資するため，昭和37年に社団法人として改組し，以来今日まで20年にわたり，本道における観光の中枢的団体として観光客の誘致や観光宣伝，観光地美化運動の推進等，各般にわたる観光事業を実施し，本道観光の振興に多大の貢献をしてこられました。その御努力に対し，心から敬意を表する次第であります。

御承知のとおり，近年の観光レクリェーション活動は，生活水準の向上や都市化の進展などに伴う複雑化した社会経済環境の中にあって，健康の増進や人間性の回復などに欠くことのできないものとして，国民生活のなかに定着しつつあります。また，他方において，この活動による観光消費は，観光に直接関連する産業はもとより，他の産業にも広く波及効果をもたらすなど，地域経済の発展に大きく寄与しており，道民生活向上のうえに観光の果たす役割は，逐年大きくなってきております。

最近は，国民の生活意識やレクリェーション志向の変化から，観光レクリェーション活動も質的・量的に多様化の傾向を顕著にしてきております。これらに適切に対処して，本道観光の振興を図るため，当連盟の今後の活躍に寄せる道民の期待は大きなものがあります。どうか，これまでのすぐれた実績と豊かな経験を生かして，この期待に十分こたえられますよう，なお一層の御精進を切望する次第であります。

終わりに，当連盟のますますの御発展を心から祈念し，お祝いのことばと致します。

北海道のあらまし

—自然のふるさと概観—

雄大な自然のふるさと北海道

わが国最北の島である北海道は，日本でいまだに原始の姿を数多く残している唯一の場所でもある。見渡す限りの原始の樹海，アイヌの伝説を秘めた神秘の湖，広大な原野と原生花園，海鳥群れなす断崖の孤島，いたるところに湧き出る温泉，北海道はまさに雄大な自然のふるさとである。

本州ではみられぬ原始景観や雄大な自然は，四季に応じ，趣きを変えては旅人の目を楽しませ，開拓者精神によって形づくられた開放的な明るい社会環境は，訪れる人に安らぎといこいを与えている。

森と湖　雄大な自然景観は，北海道総面積の10％を占める５国立公園，４国定公園，14道立自然公園によって代表されるが，なかでも重要な地位を占めているのが森林と湖である。北海道の森林面積は全国対比で約22％に達しているが，さらにその66％は天然生林であり，その大部分が自然公園内において原始林のまま現存している。開発の進んだ今日，原始林は次第に人里から姿を消しつつあるが，いまなお札幌市内の藻岩山，円山，近郊の野幌，および登別に天然記念物として保護されているし，北海道の代表的な針葉樹，エゾマツ，トドマツの原始林も，大雪山や阿寒国立公園内で容易にみることができる。

森の緑，火山と湖，これらの組み合わせは北海道の典型的な自然の姿である。その代表的なもののひとつは，阿寒湖であるが，樽前山，有珠山，昭和新山を擁する支笏湖，洞爺湖もほぼ同質のものであり，摩周湖，大沼，然別湖も，その美しさには定評がある。

原野と原生花園　火山灰地，湿地帯が広く分布する北海道の平原部では，土地改良が進められているものの，いまなお広範囲にわたり未開発地が残り，本州では全くみられない，原野，湿原のひろびろと展開している場所がある。国鉄千歳線の沼ノ端付近の勇払原野，

宗谷本線幌延付近のサロベツ原野などは，家一軒ない不毛の広野である。しかし6月頃ともなると，この地にも，いっせいに野花が咲き競う一大花園となる。いわゆる原生花園である。

原生花園としては，オホーツク沿岸のベニヤ原生花園，北見小清水海岸，網走の能取岬，斜里以久科原生花園，豊頃町の大津原生花園，霧多布原生花園などがある。

温泉　北海道の温泉は，泉源，湧出量，泉質とも極めて豊富，多種であり，かつ，道内のいたるところから湧き出している。その数は約110カ所におよび，道央，道南地区では，定山渓，登別，洞爺湖，湯の川が有名である。大雪山地区には層雲峡，天人峡，旭岳，白金，十勝川，然別湖畔，糖平があり，道東地区には阿寒湖畔，摩周，川湯，羅臼，温根湯などの諸温泉がある。さらに道北地区には豊富温泉がある。登別温泉の地獄谷は，地底から白煙を噴き上げ，湯だまりには熱湯がにえたぎっている。その様相は地獄谷の名にふさわしく，自然の驚異そのものである。

1.　北海道の位置・面積

本道は，わが国の最北端に位置し東経139度20分から148度53分，北緯41度21分から45度33分におよんでおり，四方海に囲まれていて，本州とは津軽海峡でへだてられ，西は日本海，北はオホーツク海，南は太平洋に面している。

この日本最北端という位置は，中欧諸国とほぼ同位置にあたり，最北端の宗谷岬が，フランスのパリよりも遥か南であるといえば意外に感ずる人も多いであろうし，また，札幌市は南フランスのマルセイユと同緯度上にあり，旭川市はニューヨークよりわずか北になっていることを知る人も少ないであろう。それというのも，カラフトとともに，シベリアに最も近いので，寒風吹きすさぶ厳寒の地として，本州に住む人々に深く思い込まれていたからであろう。

また，北海道の面積は83,517㎢（北方領土4島を含む）で全国面積の22.1％を占め，東北6県に新潟県を加えた広さより大きい。ちなみに，観光国スイスは北海道の半分くらいの面積である。全国地図をみても，それほど広大に感じさせないのは，北海道を別掲にしていることや，本州より縮尺を小さくしていることが多いのに気付かないからである。

これだけ広い土地なのに，住んでいる人はわずか約5,632,000人（56年9月末現在「住民基本台帳人口」による）に過ぎない。だから約1,413,000人（同）の札幌市は別格としても，一部の都市を除いて，ほとんどの市町村の人口は減りつつあり，本道でも大都市に集中する都市化現象が顕著である。

2.　北海道の四季

春（4～5月）　暖かな日ざしにフクジュソウやミズバショウが春の訪れを告げ，梅，桜，ツツジなどがいっせいに花を開く。

気温	札幌	函館	旭川	釧路	網走	稚内	東京	大阪	福岡
4月	5.2	5.7	3.2	2.9	3.2	3.6	13.5	13.9	13.9
5月	11.2	11.0	10.7	6.4	8.1	8.0	18.0	18.6	18.1

夏（6～8月）　梅雨のない，さわやかなこの季節は，こころゆくまで緑の香りが味わえる。高山植物や原生花園の花々が美しい。

気温	札幌	函館	旭川	釧路	網走	稚内	東京	大阪	福岡
6月	15.9	14.8	16.3	10.7	12.8	11.9	21.3	22.5	21.7
7月	21.3	20.4	21.8	17.0	18.9	18.2	25.2	26.8	26.5
8月	20.3	20.4	19.2	17.1	17.7	19.1	26.7	28.0	27.2

秋（9～11月）　紅や黄に染まった山々の眺めはすばらしく，大自然の秋を満喫できる。また，トウキビやジャガイモ，毛ガニなどの新鮮な味覚も楽しめる。

気温	札幌	函館	旭川	釧路	網走	稚内	東京	大阪	福岡
9月	17.4	17.6	15.6	16.0	16.3	17.4	23.0	23.9	23.3
10月	11.3	11.8	8.7	9.9	10.5	11.4	16.9	17.6	17.3
11月	5.2	6.1	2.8	4.7	4.2	4.5	11.7	12.1	12.5

冬（12～3月）　厳冬の湿原や湖沼にタンチョウ，ハクチョウの白い花が咲き，オホーツク海沿岸に接岸した流氷は朝夕の陽を浴び

て美しく輝く。冬まつりやウインタースポーツが各地でにぎやかに開催される。

気温	札幌	函館	旭川	釧路	網走	稚内	東京	大阪	福岡
12月	−0.6	0.4	−4.4	−2.1	−2.5	−1.8	6.6	7.0	7.8
1月	−7.5	−6.1	−12.2	−9.2	−9.9	−8.3	4.1	4.5	5.3
2月	−5.5	−3.9	−10.3	−8.4	−10.8	−7.1	4.8	4.9	6.0
3月	−0.1	0.9	−2.6	−2.4	−2.6	−1.0	7.9	8.0	9.0

（注） 数字は各地の平均気温を示す。

3. 北海道の自然公園

雄大な自然のふるさと北海道。美しい森と湖と海岸線，これらを代表する5国立公園，4国定公園，14道立自然公園は842,721haに及び北海道全面積の約10%を占めている。

阿寒国立公園

千古斧鉞を知らぬ密林におおわれた屈斜路湖，神秘なまでに美しい摩周湖，噴煙たなびく雌阿寒岳の麓にマリモを抱き横たわる阿寒湖，眺望のすばらしい阿寒横断道路，美幌峠のパノラマ，阿寒湖，川湯，摩周の温泉，秘境に語り伝えられる伝説の数々は旅の思い出に欠かせぬ存在である。

（昭和9年12月4日指定）

大雪山国立公園

わが国最大の国立公園で，北海道の屋根といわれる大雪山連峰，十勝連峰，それらをおおう大原始林，散在する高山植物群や北海道の母なる川・石狩川の渓谷の奇観、層雲峡は典型的な柱状節理の絶壁といくつかの飛瀑を誇り，幽すいな然別湖，天人峡など多くのひなびた温泉郷がある。

（昭和9年12月4日指定）

支笏洞爺国立公園

樽前山，恵庭岳，有珠山，昭和新山の特異な山容の火山群と，その山麓に静かに横たわる三つのカルデラ湖，支笏湖，洞爺湖，倶多楽湖と定山渓，洞爺湖，登別の3大温泉，秀麗な姿を洞爺の湖面にうつす羊蹄山などがあり，これらを結ぶルートにある中山峠，オロフレ峠，美笛峠の景観は雄大そのものである。

（昭和24年5月16日指定）

知床国立公園

オホーツク海に突出した幅25km，長さ65kmの半島。日本の秘境と呼ぶにふさわしく，その西岸は高さ100〜200mの海蝕断崖が10kmも

続き，海鳥やオジロワシの楽園をなし，原始林におおわれた知床連山の夏は美しい高山植物の開花がみられ，眼前には国後島がよく見える。　（昭和39年６月１日指定）

利尻礼文サロベツ国立公園

海面からすっきり立ちあがる美しい山容の利尻岳のある利尻島。礼文島の高山植物の名所，桃岩は，僅か標高249ｍで婦女子でも簡単に登れ，対岸にある，美しい海岸線を連ねる北海道本島のサロベツ原野は，荒涼たる一大湿原である。　（昭和49年９月20日指定）

大沼国定公園

大沼，小沼，蓴菜沼の３湖には32の湾と美しい緑の木々におおわれた126の島々があり，その湖岸からそそり立つ駒ケ岳の異様な山容と渇ききった山肌は，当時の噴火の物すごさを語るようで，静かでやわらかく繊細な水郷を一層美しいものとしている。

（昭和33年７月１日指定）

網走国定公園

オホーツクの海辺のゆるやかな砂丘に花ひらく原生植物の群落，のどかな放牧風景，砂丘の発達によってできた網走，能取，佐呂間の３湖，それらは６月下旬から９月上旬にかけて北海道を代表するおおらかな風景である。名勝天都山からは，知床，大雪山，阿寒の３国立公園が望まれる。

（昭和33年７月１日指定）

ニセコ積丹小樽海岸国定公園

山のニセコは1,000ｍ級のニセコアンヌプリ，イワオヌプリなどと麓を取り巻くニセコ，昆布，雷電，比羅夫などの温泉郷がある。海の積丹半島は日本海に突出し断崖と岩礁の織りたす景勝地で，小樽海岸には有名な追分節にある忍路，高島があり海岸線の美しさと昔を物語るにしん御殿が旅人の目をひく。

（昭和38年７月24日指定）

日高山脈襟裳国定公園

北海道を北から南へ走っている日高山脈が太平洋に突き出した襟裳岬，荒海に幾万年も削りとられた断崖の続く黄金道路，荒涼たる百人浜，北海道の開拓の厳しさを物語る一石一字の塔，渓谷美の幌満川，高山植物の宝庫アポイ岳がある。また，えりも町の庶野は，桜の名所として親しまれている。

（昭和56年10月１日指定）

富良野芦別道立自然公園

男性的な山容の芦別岳，夕張岳をはじめとする高原地帯で夏には多くの登山客が訪れる。また，大夕張，二股桂沢のダムは人造湖として春から秋にかけては行楽客でにぎわう。このほかトナシベツ渓谷，滝里の渓流が美しい趣きを添え，富良野には設備の充実したスキー場がある。（昭和30年４月19日指定）

厚岸道立自然公園

厚岸湾，琵琶瀬湾，浜中湾と大黒島，その他の小島と厚岸湖，火散布沼，藻散布沼など

の湖沼からなる美しい海岸と湖の公園である。また，特色として厚岸湖にはアッケシソウなどの塩性植物群落，大黒島の海鳥繁殖地，浜中町霧多布の泥炭形成植物群落＜天然記念物＞がある。　（昭和30年４月19日指定）

桧山道立自然公園

海の孤島，奥尻島は北海道のれい明期を物語る幾つもの遺跡があり，江差は民謡江差追分の発祥の地で，かつてニシン漁の華やかなりしころは，このエゾ地の経済的な中心をなしたとともある。かもめ島や五厘沢慶喜温泉などがあり，また延長80kmの桧山の海岸線は豪壮な海の景勝地となっている。

（昭和35年４月20日指定）

恵山道立自然公園

函館の東南約60km，太平洋に突出した亀田半島の先端にある二重式鐘状火山・恵山(648m）は春のツツジが美しく，山頂からは津軽の海のかなたに下北半島，西北には羊蹄山，有珠山が望見される。日浦海岸は荒浪に削りとられた断崖の美，恵山，川汲などはひなびた温泉郷である。（昭和36年６年１日指定）

暑寒別道立自然公園

山頂に百数種の高山植物の咲き競う暑寒別岳，その山頂からは眼下の青い日本海の海原に天売，焼尻の両島が，遥か遠くには利尻岳大雪山，十勝の連峰が眺望できる。また，奇岩，断崖絶壁の連なる雄冬海岸，高原の湿原地帯にできた雨龍沼などがあり，未開の観光地である。　（昭和37年４月10日指定）

野付風蓮道立自然公園

長い尾のような野付半島は根室海峡の潮の流れが形成した砂州で，白骨のように枯れ果てた樹木が人目をひく。春から秋の野付湾では名物の〝北海しまえび〟がとれ，三角帆のエビ漁舟が浮かぶ湾の風景は一幅の墨絵の感がある。風蓮湖に白鳥が訪れるのは11月から４月にあけてである。

（昭和37年12月27日指定）

天売焼尻道立自然公園

日本海に浮かぶ二つの島。焼尻島は全島がうっそうたるオンコの密林におおわれた緑の島で，天売島の西岸は断崖絶壁と，海辺にそそり立つ奇岩怪石の絶景，その岩棚に群れ集うオロロン鳥，ウミウ，ケイマフリ，ウミネコなど無慮数万羽，海鳥の楽園で天然記念物に指定されている。（昭和39年２月10日指定）

松前矢越道立自然公園

渡島半島の西南部，知内，福島，松前町にまたがり海蝕崖，岩礁などを含む海岸地域および大島，小島からなる地域である。白神岬，矢越岬，松前海岸，知内温泉などの興味深い地点を含み，植物は北海道としては珍しい暖地系のものもあり，小島にはコジマエンレイソウなど分布的に貴重な種類がある。離島の利用は現在のところ不便であるが，海岸地域には函館から国道228号線が通じている。

（昭和43年５月15日指定）

北オホーツク道立自然公園

北海道北部オホーツク海に面する国道238号線沿線地域で，猿払，浜頓別，枝幸の町村にまたがり，沖積世の湖沼とこれに近接する丘陵地帯，海岸景観およびこれらを彩る北方植物群落を特色とする。クッチャロ湖，カムイト沼，ベニヤ原生花園，ウスタイベ千畳岩斜内山道などの，北方的な茫洋とした風景地である。　（昭和43年５月15日指定）

道立自然公園野幌森林公園

北海道百年を記念し，札幌市，江別市，広島町にまたがる約2,000haの区域を定め，都市周辺の大緑地を確保し，北海道開拓当時を想起させるような貴重な天然林を保護育成しつつ，自然に親しむ野外休養の場として整備された，きわめて特殊な道立自然公園。

公園内の一部には北海道百年記念塔，開拓記念館があり，開拓の村が建設中である。

（昭和43年５月15日指定）

狩場茂津多道立自然公園

日本海に面し，奇岩，怪石の連なる景勝地として知られている。秀峰狩場山，茂津多岬，賀老の滝など〝最後に残された日本唯一の秘境〟として脚光を浴びると同時に海水浴，海釣りの客にも人気がある新生の観光地である。

（昭和47年６月23日指定）

朱鞠内道立自然公園

朱鞠内湖は，昭和18年に完成した道内初の発電用人造湖で，湾の入り込みや島の多い変化に富んだ景観がすばらしい。区域は，空知管内幌加内町を中心に，一部留萌管内羽幌町・遠別町，士別市にまたがる地域で，公園の中心となる朱鞠内湖とピヤシリ山の高山帯，渓谷美をほこる釜ケ洲などがある。

（昭和49年４月30日指定）

天塩岳道立自然公園

公園区域は，上川管内朝日町・下川町，網走管内滝上町・西興部村の２支庁４カ町村にまたがる。特色は，道北地域の中でも，とりわけ原始性に優れていて，とくに天塩岳，渚滑岳，ウエンシリ岳には高山植物が群生し，山ろく部ではクマゲラ，フクロウ，キツネなどの野生動物が多く生息。また，天塩川源流にはオショロコマが，さらに，天然記念物のカラフトルリシジミ（チョウ）など珍しいこん虫類も多数生息する。

（昭和53年１月６日指定）

斜里岳道立自然公園

斜里岳（1,545ｍ）は，千島火山帯に属し知床半島の基部にそびえる円錐形の旧火山で男性的な山容が特徴的。公園は斜里岳を中心にした約3,000haで，多くの滝やダケガンバの美林など，優れた山岳景観や豊富な高山植物群落が分布している。（昭和55年11月13日指定）

4. 北海道の文化財

本道は歴史が浅く，文化財もあまりないように思われがちだが，決してそうではない。広大な原始自然を背景とする天然記念物をはじめ，本州にはみられぬアイヌ文化，先住民族の遺跡，埋蔵文化財など世界的に貴重なものが多く現存している。また，開道以来110年の足跡を残す明治時代の建造物をはじめ，本道開拓に関する生活文化の記念物には貴重なものが多い。

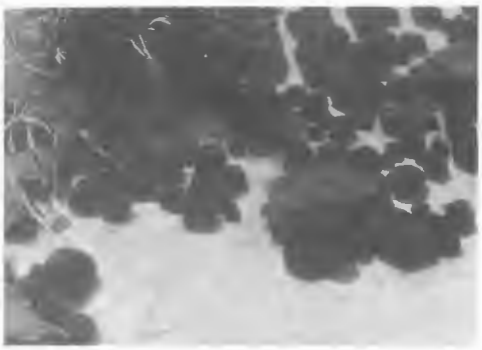
有形文化財　建造物，絵画，彫刻，工芸品，書籍，古文書その他有形の文化的所産で歴史上，芸術上価値の高いもの及び考古資料をいうが，特に重要なものは国宝または重要文化財に指定されている。本道におけるその数は重要文化財21，有形文化財49である。

無形文化財　演劇，音楽，工芸技術，その他無形の文化的所産で，歴史上，芸術上価値の高いものをいうが，本道では松前神楽がある。

民俗資料　衣食住，生業，信仰，年中行事等に関する風俗習慣及びこれに用いられる衣服，器具，家屋，その他の物件で，わが国民生活の推移を理解する上に必要なものをいうが，本道におけるその数は，重要民俗資料（アイヌの丸木舟など）2.民俗資料4.無形の民俗資料4である。

記念物　貝塚，古墳，都城跡，旧宅，その

他の遺跡（埋蔵文化財包蔵地を含む）で，歴史上または学術上価値の高いものを史跡といい，庭園，橋りょう，峡谷，海浜，山岳その他名勝地で芸術上，観賞上価値の高いものを名勝，また，動物（生息地，繁殖地，渡来地を含む），植物(自生地を含む)，地質鉱物(特異な自然現象の生じている土地を含む）で学術上価値の高いものを天然記念物というが，本道におけるその数は特別史跡（五稜郭）1.史跡62，名勝３，特別天然記念物（阿寒湖のマリモほか）6.天然記念物66である。



5. 北海道の動植物

植　物

北海道は日本のもっとも北にあって，その大部分が亜寒帯的気候の影響下にあるため，植物の種類も景観も本州方面とはかなり違った様相を示している。北海道南部では東北地方の延長的色彩が濃いが北海道中央部の海抜０～100mの地帯は，本州中南部の1,500mに相当すると考えられ，シラカバやトドマツに似た，コメツガが見られる本州の高山地帯や高原が，北海道の低山地帯の景観によく似ているといわれるのはこのためである。マイヅルソウやゴゼンタチバナも北海道では珍しくないし，尾瀬ケ原で有名なミズバショウなどは，どこでもよく見かけるのである。

北海道らしさを代表するものといえば，やはりトドマツ，エゾマツの林であろう。うっそうとしたこれらの森林は，北海道の雄大さ，自然のきびしさを思わせ，特に「北海道の木」に指定されたエゾマツの姿は，この自然に敢然と立ち向かった開拓者たちの根性をしのばせる。これらの針葉樹にたいして，北海道のおおらかさを感じさせるのは，カツラ，ハリギリ，ハルニレ，エゾイタヤ，カシワ，ホウ，ヤチダモ，ナナカマドなどの広葉樹であろう。これらがエゾマツやトドマツと混交するさまも，またみごとである。これにポプラ，アカシアの外来樹種も加わって，北海道の植物景観は，冷厳，雄大，多彩，異国的などの評価が生まれるのであろう。

北海道では，標高1,000m前後が森林限界であり，この付近に特に多いのがダケカンバである。やがてハイマツがあらわれ，お花畑の世界となる。一般に高山植物と呼ばれる種類は数多いが，北海道にはその大半がある。ユウバリソウ，リシリヒナゲシなどの特産種も多く，概して色あざやかである。コマクサ，キバナシャクナゲ，エゾツカザクラ，コケモモ，ガンコウラン，エゾコザクラ，チングルマ，ハクサンイチゲなど，特に北海道の場合は単一なものが広がりをもつ場合が多く，それが植物景観の特色ともなっている。

北海道の低地帯には広大な原野が広がり，ここにはワタスゲ，エゾイソツツジ，ツルコケモモ，クシロハナシノブなどの湿性植物，「北海道の花」に指定されたハマナス，エゾキスゲ，エゾスカシユリ，ハマフウロ，ヒオウギアヤメなどの海浜性植物や，アッケシソウ，ウミミドリ，シバナなどの塩性植物が大群落をなして生育している。６月から７月にかけては，この荒漠とした原野が豪華，絢爛に彩られる。

森林景観の代表的なものとして比較的目につきやすい地方は，大雪山，阿寒国立公園地域，あるいは北見，宗谷地方であり，さらに湿性植物群としては，宗谷のサロベツ原野，網走，根室地方の湿原が観察に便利である。また，高原植物については，大雪山一帯をはじめ，恵山，ニセコ，アポイ岳，利尻岳，礼文島などの群生地が見やすい。

なお，自然公園特別地域および国有林内の高山植物については，自然公園法および国有林野管理規程にもとづき知事および国が管理し，また，羊蹄山，アポイ岳などは文化財保護法による天然記念物に指定されているが最近，自然の山野に対する国民の利用は逐年増加し，入山者による高山植物の荒廃も目だっているので，その保護および育成に努めているものの，これらの保護は利用者一人ひとりの愛護心にまつところが大きい。

動　物

北海道の動物分布は，津軽海峡を境にして本州と異なっている。北海道のヒグマは本州のツキノワグマと異なりアジア大陸系のものであり，すでに絶滅したオオカミもそうであった。そのほかエゾシカ，ナキウサギ，シマリスなども本州には生息していない動物である。一方，サルは北海道には生息していない。

このように，津軽海峡が動物分布上，重要な境界線となっていることを主張したのは，イギリス人のトーマス・ライト・ブラキストンであった。それいらい，津軽海峡を生物学上〝ブラキストン線〟といっている。

広大な森林と原野のある北海道には，多くの野性動物がすんでいる。獣類としては，特によく知られているのはヒグマで，全道の山地にすみ，時折出没して被害を与えることがある。本州にいるツキノワグマとは比較にならぬほど大きく，どうもうなこの獣は，大雪山あたりで登山者の弁当などを求めて近づくことがあるが，決して人に馴れることのない動物だけに，山を歩くときは常に用心が肝要である。

エゾシカは，最近，日高，十勝，北見地方に増えているので目につく機会が多く，また，キツネ，タヌキ，イタチ，リスなども各地で見られる。北海道以北のみにすんでいる珍しいナキウサギは大雪山，日高山脈，十勝岳，北見地方などの山地の岩場にいて，よほど運がよくなければ登山者も会えないが，よく注意して歩けば，その鳴き声をきくことはできる。

海岸の岩礁地帯には，トド，アザラシが群遊していて，北の海らしいムードを漂わしている。

鳥　類

300種をこえる鳥類は，道内至るところでその美しい姿を見せ，鳴き声を聞かせてくれる。北海道は緯度が高いので，本州では高地にしか見られぬ鳥が原野に現われ，専門的にみてもきわめて重要なところである。もっとも有名なのは「北海道の鳥」に指定されたタンチョウである。この日本の伝統につながる気品

高き鳥は釧路，根室の原野で繁殖し，この地方で一年中を暮らしている。冬の間は阿寒町や鶴居村を中心とする農耕地付近で，保護会や地元の人々のあたえる餌をついばんでいるから容易に姿が見られ，夏も近年は時々繁殖地から飛来するものが目に入ることがある。

秋の終わりにはオオハクチョウが北方から渡来し，根室の風蓮湖，尾岱沼，網走のトウフツ湖などを中心に集まるが，その数は1万羽をこえ壮観を呈する。厳冬期にはこの地方ばかりでなく，道内各地の湖沼地帯にも分散渡来するので，なじみが深いが，春のはじめには再びシベリアに戻ってゆく。

冬になるとオオワシやオジロワシがそのたけだけしい姿を現わす。オジロワシは道東地方で繁殖しているので夏でも知床半島あたりで飛んでいるが，その数は少ない。

キツツキの中で最も大きく，全身黒色で，頭に赤い毛のあるクマゲラは，阿寒，大雪山国立公園あたりで見ることができ，トドマツ林の上をゆうゆうと飛ぶ姿はいかにも北海道の鳥らしい。釧路，北見の沼沢地帯や札幌近郊野幌国有林などのアオサギの集団繁殖地も北海道ならではのものである。

北海道の特質は海鳥の繁殖地が多く，しかも比較的らくに行ける島にあるということにあり，日本海の天売島や，津軽海峡の小島などは，日本でも珍しい集団繁殖地になっている。数万羽のウミネコをはじめ，ウミガラス，ウトウ，ケイマフリなどの大群が，狭い島の一角に群せいし，繁殖する4月から7月に至る間の情景は筆舌に尽くしがたいものがある。

これらの野生動物のうち，ヒグマのように直接人畜に危害を加える危険性のあるもの，また，トドのように水産資源を荒廃させるものについては，積極的な駆除策がとられているが，これら以外のいわゆる有益野生鳥獣については，農林業の発展をはかる上からもこの保護が必要であるため，毎年，有益鳥獣保護施策の拡充がおこなわれている。また，これは野生動物ではないが，南極観測に活躍した樺太犬のほか，北海道犬も全国的に有名である。

北海道の沿革

＜えぞの昔＞

◇寛政4年（1792）ロシア人ラックスマンが根室に来航し，交易を要求。

◇同　11年（1799）幕府，えぞ地を仮直轄，亨和2年（1802），本直轄。

◇文化4年（1807）幕府，えぞ全島を直轄。

◇同　6年（1809）間宮林蔵，樺太を探険＜間宮海峡の発見＞。

◇文政4年（1821）幕府，えぞ島を松前氏に返還。

◇安政2年（1855）幕府，松前・江差地方を除く全島を再直轄。箱館＜函館＞を貿易のため開港。

◇同　3年（1856）幕府，西えぞ地の神威岬以北に女性の渡航を解禁。漁民等の入地増加。

◇慶応3年（1867）樺太南部での日露両国民

の雑居を決める。

＜開拓使・3県1局のころ＞

◇明治元年（1868）新政府，箱館裁判所を設置。のち箱館府と改称。

◇同　2年（1869）開拓使設置。初代開拓使長官に鍋島直正が就任。北海道と名づけ，11国，86郡を設定。

◇同　3年（1870）開拓使，石狩平野開拓のため，移民規則を定め，開拓民の扶助を決める。

◇同　4年（1871）開拓使庁を札幌に置く。明治6年札幌本庁舎を完成。米国農務局長H・ケプロン開拓顧問として来日，開拓意見書を提出。

◇同　5年（1872）開拓使の10カ年間で定額1,000万円による開拓計画実施に入る。地所規則，土地売貸規則を制定。

◇同　6年（1873）外国人技師の指導で，全道三角測量事業，地質鉱床調査を開始。札幌本道が開通＜函館―室蘭―札幌間の馬車道＞。

◇同　7年（1874）屯田兵例則を制定。

◇同　8年（1875）最初の屯田兵193戸，琴似に入殖。樺太，千島交換条約を締結。道内最初の公立小学校開校＜福山公立小学校―いまの松前町立松城小学校＞。

◇同　12年（1879）道内の大小区画を廃し，郡区役所，戸長役場を設置。

◇同　13年（1880）手宮―札幌間，鉄道が開通。

◇同　15年（1882）開拓使10年計画終了，開拓使廃止。函館，札幌，根室の3県を設置。

◇同　19年（1886）3県1局を廃止。北海道庁を設置。初代北海道庁長官に岩村通俊が就任。

＜北海道庁設置以後＞

◇明治21年（1888）道庁，〝赤れんが庁舎〟を新築落成。

◇同　23年（1890）屯田兵制度改革，族籍を問わず召集＜平民屯田始まる＞。

◇同　26年（1893）道庁長官北垣国道，内務大臣に開拓意見書を提出＜年次開拓計画の始め＞。

◇同　31年（1898）札幌―旭川間鉄道が全通。

◇同　33年（1900）農会令により，北海道農会令ができる。下部に郡区，町村の農会。1級町村制施行。明治35年，2級町村制施行。

◇同　34年（1901）北海道会法，地方費法を公布。北海道10年計画が発足。第1期道会議員選挙。

◇同　35年（1920）北海道土功組合法を制定。小樽―札幌―旭川間，電話の通信を開始。札幌等3区で衆議院議員選挙。定員3名＜道内初めての国会議員選挙＞。

◇同　37年（1904）屯田兵解隊，屯田兵制度を廃止。函館―小樽間鉄道が開通。

◇同　40年（1907）旭川―釧路間鉄道が開通。

◇同　43年（1910）第1期拓殖15カ年計画が発足，のち2カ年延長。

＜大正から昭和期へ＞

◇大正2年（1913）函館に市街電車が走る＜道内最初＞。

◇同　5年（1916）北海道鉄道1,000マイル記念祝賀会を札幌で挙行。

◇同　7年（1918）開道50周年記念式を挙行。本道初のブラジル移住46人。

◇同　9年（1920）第1回勢勢調査による本道の人口235万9,183人。

◇同　11年（1922）札幌，函館，小樽，旭川室蘭，釧路に市制を施行。宗谷本線全通。

◇同　12年（1923）地方自治制度の大改革。市6，1級町村99，2級町村155となる。

◇昭和元年（1926）十勝岳が大爆発。札幌―東京間の電話開通。道庁立図書館が開館。

◇同　2年（1927）第2期拓殖20年計画が発足。

＜戦時体制のもとで＞

◇昭和9年（1934）函館大火，焼失家屋2万4,000戸，死者2,000余人。

◇同　11年（1936）陸軍特別大演習，天皇陛下本道に行幸。

◇同　12年（1937）札幌－東京間，民間の定期航路が開設。北海道漁業組合連合会設立。

◇同　14年（1939）国民徴用令施行，8月，道庁徴用令書を出す。

◇同　19年（1944）食糧増産のため土地改良5カ年計画始まる。

◇同　20年（1945）開拓移民緊急入殖を開始。

＜新しい出発＞

◇昭和20年（1945）労働組合復活，結成あいつぐ，北方領土返還運動起きる。

◇同　21年（1946）緊急開拓事業実施要領により，道内の実施決まる。道内の農地改革始まる。昭和27年10月に終わる。

◇同　22年（1947）地方自治法を施行，北海道庁を廃止。北海道を設置。

◇同　25年（1950）北海道開発法が成立，北海道開発庁が発足，翌年，開発局を設置。

◇同　27年（1952）第1期北海道総合開発計画第1次5カ年計画が発足。道東一帯に大地震＜十勝沖地震＞。

◇同　31年（1956）根釧機械開墾地区の開発に着手＜パイロットファーム＞。

◇同　33年（1958）第1期北海道総合開発計画第2次5カ年計画が発足。青函トンネルのボーリングが始まる。

◇同　36年（1961）農業構造改善事業が始まる。

◇同　38年（1963）第2期北海道総合開発計画＜8カ年＞が発足。

◇同　39年（1964）道央地区を新産業都市に指定。

◇同　40年（1965）小樽－旭川間電化工事起工。昭和44年10月開通。

◇同　43年（1968）北海道百年記念祝典を挙行。北海道庁新庁舎落成。

◇同　44年（1969）北海道新幹線建設期成会が発足。

◇同　45年（1970）北海道百年記念塔完成。

◇同　46年（1971）第3期北海道総合開発計画＜10カ年＞が発足。

◇同　47年（1972）第11回冬期オリンピック札幌大会開催。

◇同　49年（1974）北方圏環境会議札幌市で開催。

◇同　50年（1975）第12回国勢調査による本道人口5,288,206人。

◇同　51年（1976）道庁爆破事件＜死者2名負傷者95名＞。

◇同　52年（1977）有珠山噴火＜被害総額約317億円＞。

◇同　53年（1979）北海道発展計画（10カ年）が発足。

◇同　54年（1979）札幌市の人口全国第6位となる。＜11月1日現在1,374,715人＞

◇同　55年（1980）第13回勢調査による本道人口5,575,989人。冷害史上2位＜被害総額約863億円＞。

◇同　56年（1981）1月の閣議で北方領土の日＜2月7日＞を制定。国鉄石勝線の開業。

◇同　57年（1982）札幌で「'82北海道博覧会」，帯広で「十勝博」＜北方圏農林博覧会＞開催。

北海道観光レクリエーションの現状

1. 観光資源

(1) 自然系観光資源

本道の自然公園は，国立公園5カ所，国定公園4カ所，道立自然公園14カ所が指定されており，公園総面積は84.3万haで，総じてスケールが大きく，森林，湖沼，山岳など多様性に富んだ雄大な自然景観を有している。また，豊富な湯量と多様な泉質を誇る温泉が各所に湧出している。

更に，特別天然記念物はマリモやタンチョウなど6件，天然記念物は野幌原始林，アポイ岳高山植物群落，昭和新山など66件が指定されており，本道の豊かな自然を象徴している。

(2) 人文系観光資源

本道の史跡は，国指定の特別史跡である函館市の五稜郭跡をはじめ63件が指定されており，このうち，先史時代の遺跡が35件と数多く指定されているのが特色となっている。

また，本道の主要都市内にみられる明治時代のおもかげを残す洋風建築物は，札幌の北海道庁旧本庁舎，時計台（旧札幌農学校演武場），函館の旧函館区公会堂などがあり，近代的な都市建築物とあいまって特色ある都市景観となっている。

2. 観光施設

(1) 宿泊施設

昭和55年度末における宿泊施設は，合計5,733軒で，その構成は次表のとおり旅館81%，簡易宿所（民宿等）17%，ホテル2%と，旅館の軒数が最も多い。

道内の分布状況では，全道のホテル軒数の36%が札幌市に集中しており，その他のホテル，旅館は主要温泉地などへ分布している。

宿泊施設数　（単位:軒、%）

区分 / 宿泊施設	北海道(A)	札幌市内(B)	B/A
ホテル	137（2）	50	36
旅館	4,627（81）	539	12
簡易宿所(民宿等)	969（17）	22	2
計	5,733（100）	611	11

（注）（　）内は、施設別構成比
道衛生部調べによる。

(2) 観光レクリェーション施設

ア　公的施設

公的な観光レクリェーション施設は，それぞれの目的をもち，しかも立地条件を活かして道内各市町村に整備配置されている。その主なものは，「大沼大規模年金保養基地」「北海道子どもの国」「青少年の森」「国民休暇村」「国立日高少年自然の家（仮称）」があるが，そのほか国民保養温泉地12カ所，緑の村6カ所，勤労者野外活動施設7カ所，自然休養村10カ所，青少年旅行村8カ所がある。また「滝野すずらん国営公園」の整備が進められているほか，家族旅行村としての「東積丹・古平海岸地区中規模観光レクリェーション地区」の整備が始まった。

一方，キャンプ場，サイクリングロード，ハイキング・オリエンテーリングコースなど豊かな自然を活用した山岳，高原レクリェーション施設，海洋性レクリェーション施設，河川周辺レクリェーション施設等が道内各地域に点在している。

イ　民間施設

観光レクリェーション施設として，民間施設が重要な役割を果たしており，その種類も自然型施設，都市型施設と多様である。

本道の場合，民間施設の代表的なものとしてスキー場があげられ，特に手稲オリンピア，札幌国際，ニセコ国際ひらふ，富良野などが国際的施設を備えている。

3. 交通網

(1) 道路

昭和56年4月現在における道路（国道・道道・市町村道）の実延長は77,615㎞で，その舗装率は，次表のとおり国道93.4%，道道69.0%となっているが，市町村道は17.0%である。

北海道高速自動車道は，横断自動車道である小樽～札幌間がすでに供用されている。また，縦貫自動車道では札幌～苫小牧間が供用されており，引き続き札幌～旭川間，苫小牧～虻田間の整備が進められている。

道路状況　（単位:㎞、%）

区分	実延長	改良		舗装	
		延長	率	延長	率
一般国道	5,457	5,189	95.1	5,097	93.4
道道	11,339	8,411	74.2	7,822	69.0
市町村道	60,819	19,723	32.4	10,310	17.0
全道	77,615	33,323	42.9	23,229	29.9

（注）道道路課調べによる。

(2) 鉄道

本道の国鉄の営業キロ数は4,041km(青函航路113kmを含む)で，このうち幹線系線区は，6線1,258km，地方交通線は31線2,670kmである。

主なる新線建設計画では，青函トンネルが昭和59年度完成に向けて建設が進められているが，待望の石勝線は56年10月開通の運びとなった。

(3) 航路

本道の旅客輸送航路は，本州と連絡する9航路と津軽海峡フェリーの7航路のほか，離島航路，沿岸，湖沼航路がある。

このうち，昭和55年から小樽〜新潟航路，苫小牧〜八戸航路がそれぞれ増便されるなど，逐次輸送体制が強化されている。

(4) 空港

本道の空港は，第2種空港が6空港(新千歳<建設中>，稚内，釧路，新帯広，旭川，函館)，第3種空港が6空港(女満別，中標津，紋別，利尻，奥尻，礼文)で，その他防衛庁の設置・管理する飛行場が2飛行場(丘珠，千歳)がある。これらの空港が各路線でネットワークされており，このうち道外との路線を有しているのは，千歳，函館，釧路，旭川，新帯広，女満別の6空港である。なお，昭和56年3月から千歳〜ホノルル間の国際路線が開設された。

4. 観光客の入込み状況

昭和56年度における観光客の入込み数は延べ約80,902千人と推定され，前年度の82,659千人に対し2.1%の減少となっている。

最近5年間の入込み数は次表のとおりで，昭和52年度から2〜5%とわずかながら増加をみてきたが，56年度は，夏季の集中豪雨や冷害，神戸ポートピア博の影響などもあり，前年度に比べ若干減少した。

なお，これら観光客が消費した観光消費額は，約3,000億円近いものと推計され，その経済的波及効果は，ホテル，旅館，運輸業者等の観光関連業界のみならず，大きく他産業に及んでいる。

(1) 道内客，道外客の入込み状況

56年度の道内客，道外客別をみると，道内客は56,164千人で前年度比1.3%，道外客は24,739千人で同4%とそれぞれ減少しており，道内客に比べ道外客の減少率が高い。また，その構成比では道内客は69.4%，道外客は30.6%となっている。

なお，最近5カ年間の推移は，次表のように55年度までは，道内客はやや増加しているものの，道外客は伸び悩みの状況にある。

(2) 日帰り客，宿泊客別の入込み状況

日帰り客，宿泊客別でみると，日帰り客は64,596千人で前年度比2.1%，宿泊客は16,306千人で同2.1%とそれぞれ同率で減少しており，また，その構成比では日帰り客が79.8%宿泊客は20.2%である。

なお，最近5カ年の推移は次表のように，55年度までは，伸び率に若干差があるが，いずれもわずかながら上向き傾向を示している。

観光客の入込み状況　　(単位:千人、%)

区分＼年度		52	53	54	55	56	56/52
総入込み数(A)		72,640	76,488	78,310	82,659	80,902	111
道内客数(B)		49,253	52,109	52,996	56,895	56,164	114
	B/A	67.8	68.1	67.7	68.8	69.4	
道外客数(C)		23,387	24,379	25,314	25,765	24,739	106
	C/A	32.2	31.9	32.3	31.2	30.6	
日帰り客数(D)		57,773	60,660	62,120	66,008	64,596	112
	D/A	79.5	79.3	79.3	79.9	79.8	
宿泊客数E		14,867	15,808	16,190	16,651	16,306	110
	E/A	20.5	20.7	20.7	20.1	20.2	

(3) 観光圏別入込み状況

観光客総入込み数の観光圏別割合は次表のとおりであるが，多様な観光資源を有し，また本道の交通拠点である道央観

光圏が49.3％で最も多く，次いで道東観光圏19.6％，大雪山観光圏16.7％，道南観光圏9.8％，道北観光圏4.6％の順となっている。

一方，入込み数の52年度からの推移をみると，年平均伸び率では道南観光圏が3.2％でトップだが，他の観光圏とそれほど差はない。

観光圏別入込み状況　（単位：千人、％）

観光圏＼年度	52	53	54	55	56	56/52
道南	7,017 (9.7)	7,735 (10.0)	7,978 (10.2)	8,222 (9.9)	7,915 (9.8)	113
道央	35,649 (49.1)	38,443 (50.3)	39,846 (50.9)	41,348 (50.0)	39,899 (49.3)	112
大雪山	12,243 (16.9)	12,354 (16.2)	12,595 (16.1)	13,278 (16.1)	13,484 (16.7)	110
道東	14,345 (19.7)	14,406 (18.8)	14,346 (18.3)	15,827 (19.2)	15,888 (19.6)	111
道北	3,386 (4.6)	3,551 (4.7)	3,544 (4.5)	3,985 (4.8)	3,716 (4.6	110

（注）（　）内は、観光圏別の割合

(4)　季節別入込み状況

春（4月～5月），夏（6月～9月），秋（10月～11月），冬（12月～3月）の季節別入込み割合をみると，次表のように夏が約60％を占める一季型観光といえる。

しかし，52年度からの年平均伸び率をみると，夏が1.8％であるのに対し，冬は，各種冬まつりの開催や冬季スポーツ志向の高まりにより5.3％と，夏ばかりでなく他のシーズンより上回っており，冬季観光振興の効果が現われてきている。

季節別入込み状況　（単位：千人、％）

季節別＼年度	52	53	54	55	56	56/52
春	8,129 (11.2)	8,575 (11.2)	8,938 (11.4)	9,563 (11.6)	9,425 (11.6)	116
夏	45,119 (62.1)	47,587 (62.2)	47,796 (61.0)	50,084 (60.6)	48,311 (59.7)	107
秋	7,823 (10.8)	8,029 (10.5)	8,385 (10.7)	9,133 (11.0)	8,967 (11.1)	115
冬	11,569 (15.9)	12,297 (16.1)	13,190 (16.9)	13,879 (16.8)	14,200 (17.6)	123

（注）（　）内は、季節別割合

(5)　来道観光客の交通機関別の利用状況

昭和56年度の来道観光客は，実数で前年度比3.5％減の2,232千人と推定され，利用した交通機関別では次表のようになっている。

交通機関別利用状況の推移をみると，国鉄は昭和52年度32.3％から56年度24.8％とシェアーが低下した反面，航空機は38.3％から48.2％と拡大してきており，52年度からの年平均伸び率も6.6％とそのことを裏付けている。なお，フェリーの利用状況は，53年度をピークに漸減傾向にある。

交通機関別利用状況　（単位：千人、％）

交通機関＼年度	52	53	54	55	56	56/52
国鉄	708 (32.3)	683 (30.1)	624 (27.1)	631 (27.3)	555 (24.8)	78
航空機	838 (38.3)	917 (40.5)	1,021 (44.2)	1,035 (44.7)	1,076 (48.2)	128
フェリー	644 (29.4)	665 (29.4)	662 (28.7)	647 (28.0)	601 (27.0)	94
合計	2,190	2,265	2,307	2,313	2,232	102

（注）（　）内は、機関別割合
数字は、道観光振興室調べによる。

戦後の観光関係年表

昭和20年

運輸省設置(5月)，ポツダム宣言受諾(8月)，GHQ対日初期占領方針発表(9月)，㈶日本交通公社設立(同)，幣原内閣成立(10月)，第1回宝くじ発売(同)，衆議院議員選挙法改正公布(12月)。

GHQ民主化指令(10月)，米軍，函館・札幌・旭川に進駐(同)，三井芦別労働組合はじめ労働組合続々結成(同)，石炭緊急措置指令(12月)。

昭和21年

天皇の人間宣言(1月)，NHKのど自慢素人音楽会放送開始(同)，新円発行(2月)，新選挙による衆議院総選挙(4月)，第1次吉田内閣成立(5月)，プロ野球再開(同)，運輸省観光課設置<～24年>(6月)，全日本観光連盟設立<～34年>(同)，第1回国民体育大会開催(8月，11月)，㈶日本レクリエーション協会設立(10月)，文部省共学実施を指令<22年より実施>(同)，日本国憲法公布(11月)，文部省6・3・3制決定を発表(12月)，㈶国立公園協会設立(同)。

ソ連，千島と南樺太をハバロフスク地方に編入と布告(2月)，北海道観光連盟設立<37年9月社団法人>(4月)，月末，札幌の食糧欠配70.8日に達する(10月)。

昭和22年

GHQ 2・1ゼネスト中止を命令(1月)，初のストリップ額縁ショー出現<東京新宿・帝都座>(同)，初のトレーラバス登場<東京>(2月)，教育基本法公布(3月)，労働基準法公布(4月)，独占禁止法公布(同)，第1回衆議院議員選挙(同)，片山内閣成立(6月)，食品衛生法制定(12月)。

初の北海道長官選挙，田中敏文<社会党>当選(4月)，道議会議員，市町村長，市町村会議員選挙(同)，地方自治法施行により，本道も初めて府県同様の地方自治体となる(5月)，北海道の人口385万人(12月)。

昭和23年

国民の一般参賀<23年ぶりに二重橋開放>(1月)，芦田内閣成立(3月)，NHK第1回のど自慢全国コンクール開催(同)，新制高校発足(4月)，軽犯罪法公布(5月)，国民の祝日制定(7月)，国際観光の再開<観光目的の外客の入国許可>(同)，厚生省公園部設置(同)，㈳日本乗合自動車協会設立<後の日本バス協会>(7月)，旅館業法制定(同)，温泉法制定(同)，公衆浴場法制定(同)，風俗営業取締法制定(同)，第2次吉田内閣成立(10月)，国際観光旅館連盟設立<28年3月社団法人>(12月)。

全道食糧不供出農家に司法権発動(2月)，札幌―米国間国際電話開通(同)。

昭和24年

GHQ，1ドル360円の単一為替レート設定(4月)，国土美化運動開始(同)，通商産業省設置(5月)，大臣官房観光部設置<～30年>(6月)，日本国有鉄道設立(同)，通訳案内業法制定(同)，屋外広告物法制定(同)，国際観光ホテル整備法制定(12月)，国際観光事業の助成に関する法律制定(同)。

支笏洞爺国立公園指定＜道内では戦後初めて＞（５月），松前城焼失（６月）。

昭和25年

満年齢の数え方実施（１月），千円札発行（同），㈶国立公園協会設立（４月），国鉄，特急「はと」運転開始＜東京―大阪間＞（５月），文化財保護法制定（同），国土総合開発法制定（同），朝鮮戦争勃発（６月），国鉄推薦旅館全国連盟設立＜後に㈳日本観光旅館連盟＞（同），ホテルの政府登録始まる＜第１号，帝国ホテル＞（９月），日本観光百選実施（11月），地方公務員法公布（12月），旅館の政府登録始まる＜第１号，加茂免旅館・名古屋＞（同）。○特需景気の年。

第１回さっぽろ雪まつり開催（２月），福山城＜松前城＞本丸御門を国の重要文化財に，松前藩公歴代墓所を北海道史跡に指定（４月），北海道開発庁発足（６月），北海道開発大博覧会を旭川で開催（７月），警察予備隊を札幌に設置（８月），ニセコ，襟裳，網走，利尻を道立公園に指定（同），国勢調査，北海道の人口429万567人。

昭和26年

第１回ＮＨＫ紅白歌合戦放送（１月），初の特殊浴場開業＜東京温泉＞（４月），日本航空設立（８月），日米講和・日米安全保障条約調印（９月），民営のユースホステル設置始まる（10月），日本航空，国内線運航開始（同），日本ユースホステル協会設立＜31年７月財団法人＞（同），国際観光土産品協会設立＜35年12月社団法人＞（11月），旅券法制定（同）。

樽前山噴火（１月），増毛，留萌，利尻でニシン好漁（４月），北海道知事選挙で田中敏文再選（同），札幌に北海道開発局設置（７月），羽衣の滝，小清水海岸を北海道名勝に指定（９月），札幌市立動物園開園（同），民間航空再開，日本航空東京―札幌間空路開設（10月）。

昭和27年

ＮＨＫ「君の名は」放送開始（４月），戦後初の空の事故発生＜日航機もくせい号三原山で遭難＞（同），旅行斡旋業法制定（６月），羽田空港返還，東京国際空港としてスタート（７月），ラジオ受信契約1,000万突破（8月），㈶日本修学旅行協会設立（10月），初のボウリング場開業＜東京ボウリングセンター・東京青山＞（12月），日本ヘリコプター輸送設立＜32年12月，全日本空輸＞（同）。

十勝沖地震＜M8.3＞（３月），民間放送の北海道放送が本放送開始（同），五稜郭を国の特別史跡に，阿寒のマリモ，タンチョウを国の特別天然記念物に指定（同），北洋漁業再開で，船団函館出港（５月），北海道総合開発第１次５カ年計画発足（６月），春ニシン総漁獲32万1,000石（同）。

昭和28年

ＮＨＫ，テレビ本放送開始（２月），中国からの引揚開始（３月），㈳日本旅客船協会設立（同），朝鮮休戦協定調印（７月），離島振興法制定（同），初の民間テレビ放送開始＜日本テレビ＞（８月），町村合併促進法公布（９月），日本航空，国際線運航開始（同），初のスーパーマーケット開業＜紀ノ国屋・東京青山＞（11月），在ソ同胞第１次帰還（12月），初の有料道路開通＜参宮道路，松阪―宇治山田間＞（同）。

北日本航空創立（６月），青函連絡船の夜間運航開始（９月），国鉄湧網線20年ぶりに全通（10月），札幌―千歳間弾丸道路開通（11月），国鉄札沼線浦臼―雨竜間再開，同松前線開通（11月）。○この年冷害凶作，農作物被害240億円。

昭和29年

戦後初の地下鉄開業<丸の内線，池袋―お茶の水間>(1月)，テレビ受信契約1万突破(2月)，都道府県花決定(3月)，初のフェリー<明石フェリー・明石―岩屋間，鳴門フェリー・福良―鳴門間>(4月)，防衛庁設置，陸海空自衛隊発足(7月)，ラジオ受信契約1,200万突破(8月)，国際観光会館開設<東京八重洲>(9月)，国民保養温泉地指定始まる(10月)，第1次鳩山内閣成立(12月)。○パチンコブームおきる。

1954年男子スピード・スケート世界選手権大会を札幌で開催(1月)，幌泉村<現えりも町>で日本初のマンモス象臼歯確認(6月)，北洋漁業再開記念大博覧会を函館で開催(7月)，第9回国体秋季大会を札幌ほか各地で開催，天皇，皇后両陛下ご来道(8月)，駐留軍北海道から撤退開始(同)，台風15号本道襲来で連絡船洞爺丸，七重浜沖で沈没<ほかに4連絡船沈没，死者1,440人>(9月)，岩内町で大火<町の8割焼失>(同)。○5月以来の風倒木総被害6,400万石，100億円。○この年，冷害風水害で凶作，産米120万石。

昭和30年

国鉄，一般周遊券発売(2月)，第2次鳩山内閣成立(3月)，初の統一地方選挙(4月)，国際観光協会設立<～34年>(6月)，初のマリーナー開業<油壺ポートサービス>(7月)，東海通信工業<ソニー>トランジスタラジオ発売(8月)，運輸省観光部，観光局に昇格<～43年>(同)，第3次鳩山内閣成立(11月)，初のヘルスセンター開業<船橋ヘルスセンター>(同)。

第10回国体スキーを旭川で開催(3月)，道，クマ祭りの禁止通達(同)，北海道知事選挙で田中敏文3選(4月)，厚岸と富良野・芦別地区を道立自然公園に指定(同)，戦後最大の豪雨禍，死者27人(7月)，道東に暴風雨禍，37人行方不明(10月)，○この年大豊作。国勢調査，北海道の人口447万3,087人。

昭和31年

「週刊新潮」創刊で出版社系週刊誌ブームに口火(2月)，全国的な映画館建設ブーム，東京では終戦時の4倍452館に(3月)，国民宿舎設置始まる(4月)，日本道路公団設立(同)，都市公園法制定(同)，空港整備法制定(同)，売春防止法制定(5月)，国鉄，均一<現在のワイド>周遊券発売(7月)，日ソ国交回復共同宣言(10月)，日本モンキーセンター開業<愛知県犬山市>(同)，東海道本線電化完成(11月)，日本の国連加盟承認(12月)，石橋内閣成立(同)，昭和32年度を初年度とする「観光事業振興5カ年計画」策定(同)。○神武景気<～32年>。

北日本航空，道内航空路開設(6月)，北海道開発公庫発足(同)，国鉄札沼線復元，12年ぶりに全通(11月)，冷害による被害額約396億円。○原田康子の「挽歌」ベストセラーとなる。

昭和32年

国鉄，団体乗車券代売制度実施<日本交通公社・日本旅行会・近畿日本ツーリスト・全日本観光>(1月)，第1次岸内閣成立(2月)，駐車場法制定(5月)，自然公園法制定<国立公園法を改正>(6月)，5千円札発行(10月)，全国観光土産品連盟設立(同)，初のモノレール開通<上野動物園―同分園間>(同)，百円硬貨発行(12月)。

さっぽろテレビ塔完成<147.2m>(8月)，登別市のカルルス温泉，国民保養温泉に指定<道内では初>(9月)，大雪国道開通(10月)，札幌―仙台―東京間の即時通話開通(12月)。

昭和33年

関門国道トンネル開通(3月)，公営ユースホステルの設置始まる(4月)，売春防止法施行(4月)，テレビ受信契約100万突破(5月)，第3回アジア競技大会を東京で開催(同)，第2次岸内閣成立(6月)，全国旅館環境衛生同業組合連合会設立(9月)，ラジオ普及率82.5%に達するが，以後逓減しテレビ急激に増加(11月)，1万円札発行(12月)，東京タワー完成(同)，

第13回国体スキーを札幌で開催(3月)，北海道総合開発第2次5カ年計画発足(4月)，網走，大沼両道立公園を国定公園に指定(7月)，釧路にタンチョウヅル自然公園完成(8月)，青函トンネルの海底ボーリングを始める(同)，千歳空港の航空管制権，米軍から日本側に返還される(9月)，国鉄羽幌線開通(10月)。

昭和34年

メートル法施行(1月)，NHK教育テレビ放送開始(同)，初の有料駐車場開業(同)，皇太子ご成婚(4月)，国鉄，修学旅行専用電車「ひので」「きぼう」運転開始<東京一大阪間>(4月)，㈳日本観光協会設立<～39年>(同)，国鉄，ことぶき周遊券発売(6月)，国際旅行業者協会設立<後の㈳日本旅行業協会>(同)，日産自動車，ダットサン・ブルーバード発売<マイカー時代の先がけ>(8月)，初のモーテル開業<モテル箱根>(9月)，全日空，東京一千歳線開設(10月)，初の個人タクシー営業認可(12月)。○岩戸景気<～36年>

第14回国体スケート，第8回全国高校スケート大会を帯広で開催(1月)，民放札幌テレビ放送開始(4月)，北海道知事選で町村金五<自民党>当選(同)，雌阿寒岳爆発(8月)，運輸省，丘珠飛行場を民間航空基地に決定(同)，オロフレ荘<登別カルルス温泉>道内初の公営国民宿舎として開業(10月)。

昭和35年

ソニー，世界で初のポータブルトランジスターテレビ発売(4月)，日本観光学会設立(5月)，ダッコちゃん人形ブーム(6月)，第1次池田内閣成立(7月)，国鉄，列車の1・2・3等級を1・2等級制に改正(同)，㈶日本自然保護協会設立(同)，テレビ受信契約500万突破(8月)，NHK・民放4局，カラーテレビ本放送開始(9月)，第2次池田内閣成立(12月)，閣議で国民所得倍増計画を正式決定(同)，全国国民宿舎運営協議会設立(同)。

道央・道東で猛吹雪<死者7人，行方不明15人>(1月)，桧山道立自然公園指定(4月)，チリ地震津波で道東に被害<死者・行方不明52人>(5月)，国勢調査，北海道の人口503万9,206人(10月)，道営札幌競輪廃止(11月)。

昭和36年

国立ユースホステルセンター開設<大津>(4月)，料理飲食等消費税法制定(同)，国鉄，大規模なダイヤ改正<全国に特急網形成>(10月)，国民休暇村設置始まる(12月)，㈶国民休暇村協会設立(同)。。

北海道文化財保護協会設立(3月)，知事の諮問機関として北海道観光審議会設置(4月)，道に観光課設置<後に観光振興課，観光振興室に>(同)，恵山，川汲地帯を恵山道立自然公園に指定(6月)，道南・道東に豪雨禍<死者・行方不明24人>(7月)，函館一旭川間に北海道初のディーゼル特急「おおぞら号」走る(10月)。

昭和37年

テレビ受信契約1,000万突破(2月)，北陸ト

ンネル開通(6月)，初の水中翼船就航<神戸―白浜間>(7月)，政府，全国総合開発計画決定(10月)，㈶日本船舶振興会設立(同)，日本観光協会，東京有楽町に観光総合案内所開設(12月)。

陸上自衛隊，北海道に第2，5，11師団設置<8月に第7師団増置>(1月)，暑寒別を道立自然公園に指定(4月)，十勝岳大爆発<5人死亡12人重軽傷>(6月)，北海道全域に未曽有の豪雨禍<死者・行方不明33人>(8月)，㈳北海道観光連盟創立(9月)，観光審議会，「本道における観光事業振興策とくに当面措置すべき施策」について中間答申(11月)，野付・風蓮を道立自然公園に指定(12月)。○この年道内の炭鉱閉山18鉱。

昭和38年

自然休養林設置始まる(4月)，政府，地方公共団体に助成金を交付し，有料休憩所及び案内地図板の整備開始<～42年度>(同)，観光基本法公布(6月)，総理府に観光政策審議会設置(同)，第3次池田内閣成立(12月)，㈱日本交通公社設立<財団法人より分離>(12月)。○ホテルの建設ブーム。

第18回国体スケートを帯広で開催(1月)，福島町で青函トンネル調査坑着工式(2月)，北海道知事選挙で町村金五再選(同)，苫小牧工業港入船式(同)，札幌神社，北海道神宮に昇格改称(6月)，ニセコ・積丹・小樽海岸を国定公園に指定(7月)。○この年，21炭鉱閉山。○第2期北海道総合開発計画<8カ年>が発足。

昭和39年

よみうりランド開業<川崎市>(3月)，海外旅行の自由化(4月)，㈳日本観光協会設立(同)，㈶国際観光振興会設立(同)，総理府，第1回観光白書発表(同)，ノーチップ制徹底について運輸省観光局長通達(5月)，厚生省国立公園部設置(7月)，東京モノレール開業(9月)，東海道新幹線開通(10月)，オリンピック東京大会開催(10月)，第1次佐藤内閣成立(11月)。

天売・焼尻を道立自然公園に指定(2月)，北日本，富士，日東3社合併して日本国内航空発足(4月)，知床半島，国立公園に指定(6月)，函館―大間間に最初のカーフェリー就航(7月)，新狩勝トンネル貫通(8月)，クマの被害続発<11月まで死者5人，重傷者2人，家畜被害419頭，クマの捕獲540頭>(11月)，帯広空港開港(12月)，道産新連絡船「松前丸」就航(同)。

昭和40年

日本航空ジャルパック発売(1月)，全国旅行業協会設立(2月)，日本国内航空，東京―札幌線・東京―福岡線開設(3月)，明治村<犬山市>開業(同)，国産機YS11初就航(4月)，第1回観光週間実施(8月)，エレキ・ブームおこる(同)，国鉄，「みどりの窓口」設置(10月)，東海道新幹線，東京―新大阪間営業開始(11月)，観光対策連絡会議，昭和41年度を初年度とする国際観光地および国際観光ルート整備方針決定(12月)。

利尻・礼文国定公園に昇格(7月)，国勢調査，北海道の人口517万1,800人(10月)，観光審議会，「本道における観光資源の保護と産業開発の調整策とくに当面措置すべき方策」について中間答申(11月)，国鉄函館本線小樽―旭川間電化工事始まる(12月)。○この年，2年連続の凶作，ジャガイモだけは史上最高の豊作。○三浦綾子の「氷点」ベストセラーとなる。

昭和41年

常盤ハワイアンセンター<いわき市>開業

(1月)，千歳発の全日空機，雪まつり客らを乗せ羽田沖で墜落<133人全員死亡>(2月)，初のオリエンテーリング開催<東京高尾山>(6月)，日航・全日空，スカイメート制度東京―大阪間に設定(7月)，法務省，日本の総人口1億人突破と発表(同)，初のオートキャンプ場開業<芦ノ湖国際モビレージ>(同)，第21回国連総会，1967年を「国際観光年」と指定(11月)，観光政策審議会,「観光に関する税制の改善」について意見具申(12月)。

第21回国体スキーを旭川で開催(2月),「北海道の木」にエゾマツが決定(9月),国鉄根室本線切り替えによる狩勝新線完成(10月)，北海道100年スローガン「風雪百年，輝く未来」と決定(同)，○この年3年連続の冷害，農作物被害611億円。○炭鉱閉山7鉱。○美瑛町に国立青年の家設置。

昭和42年

国連，国際観光年のスローガン「観光は平和へのパスポート」とする(1月)，国鉄，エック<エコノミークーポン>発売(2月)，第2次佐藤内閣成立(同)，国民保養センター設置始まる(4月),㈳日本民宿協会設立(6月)，東海道新幹線利用客,開業以来1億人突破(7月)，初のホーバークラフト就航<熊本―本渡・島原間>(9月),国鉄,寝台電車特急「月光」運転開始<新大阪―博多間>(10月)，官設観光機関国際同盟<IUOTO>東京総会開催(同)，合歓の郷<三重県>開業(11月)，○ドライブ旅行の増加，旅行のセット化が進む。

道旗と道章決まる(3月)，北海道知事に町村金五3選(4月)，札幌に北海道立美術館開館(9月)，顕彰像4体<黒田清隆・ケプロン・岩村通俊・永山武四郎>の除幕式，札幌と旭川市で(10月)，開拓使札幌本庁舎跡および旧北海道庁本庁舎を国の史跡に指定(12月)。○この年,産米111万4,000トン<約743万石>，北海道の海面漁獲高152万5,300トン<大豊漁>，石炭産額2,170万トン，炭鉱閉山7鉱。

昭和43年

日本国内航空，深夜便「オーロラ」運航開始(1月)，㈳国民宿舎協会設立(4月)，簡易保険保養センター設置始まる(同)，運輸省観光局，大臣官房観光部となる(6月)，大臣官房国立公園部設置(同)，文化庁設置(同)，小笠原諸島正式に日本復帰(同)，郵便番号制開始(7月)，日本初の長距離フェリー就航<小倉―神戸間>(8月)，㈶観光資源保護財団設立(12月)。

第23回国体スケートを帯広で開催(1月)，北海道拓殖鉄道（本社・新得）の廃線決まる(3月)，松前・矢越，北オホーツク，野幌森林公園を道立自然公園に指定(5月)，札幌で北海道大博覧会開催(6～8月)，国鉄函館本線小樽―滝川間に電車スタート(8月)，北海道100年記念式典,札幌市円山競技場で開く。天皇，皇后両陛下ご出席(9月)。

昭和44年

自然休養林の整備始まる(4月)，観光政策審議会,「国民生活における観光の本質とその将来像」を答申(同)，国鉄1等車廃止，グリーン車設定(5月)，東名高速道路全線開通(同),好景気連続43カ月目入りで新記録(同)，新全国総合開発計画閣議決定(同)，経済企画庁，昭和43年度国民総生産は西独を抜き資本主義社会で第2位と発表(6月)。

旭川市の平和通りに「買い物公園」オープン(8月)，国鉄函館本線滝川―旭川間の電化完成(10月)，国道230号線の通称「定山渓ルート」開通(同),定山渓鉄道,電車廃業(同)。

昭和45年

第3次佐藤内閣成立(1月)，国内初のペンション開業<草津・綿貫ペンション>(2月)，アジア初の日本万国博覧会，大阪千里で開催(3～9月)，日航機「よど号」赤軍によりハイジャックされる(3月)，少年自然の家設置始まる(4月)，国民保養地の設置始まる(同)，海中公園の指定始まる(同)，観光レクリェーション地区の設置始まる(同)，東海道新幹線輸送人員，開業以来3億人突破(7月)，観光政策審議会，「望ましい観光の発展のために」答申(同)，国鉄「ディスカバー・ジャパン」キャンペーン開始(10月)，国鉄，ミニ周遊券発売(同)。○家族旅行の増加が目立つ。

第25回国体スキーを倶知安町で開催(2月)，雄別鉄道廃止(4月)，旧札幌農学校演武場<時計台>を国の重要文化財に指定(6月)，忠類村でナウマン象の化石全体を発掘(7月)，閣議，第3期北海道総合開発計画を決定(同)，小樽一舞鶴間に世界最大のカーフェリー「すずらん丸」就航(同)，北海道百年記念塔完成<野幌森林公園>(8月)，釧路でタンチョウの人工ふ化，飼育に成功(9月)，日航ジャンボ旅客機ボーイング747機，千歳空港に初乗り入れ(10月)，国勢調査，北海道の人口518万4,219人，世帯数142万7,783，札幌市の人口101万16人で百万都市になる(10月)，国鉄根北線<斜里一越川間>廃止(11月)。○この年，道内企業の倒産が激増806件。○北海道の交通事故死882人で全国一。

昭和46年

青少年旅行村の整備始まる(4月)，自然休養村の設置始まる(同)，日本国内・東亜両航空合併，東亜国内航空㈱設立(5月)，旅行業法制定<旅行あっ旋業法を改正>(同)，沖縄返還協定調印(6月)，天皇・皇后両陛下渡欧(9月)，㈶日本観光開発財団設立(10月)，全日本ビジネスホテル協会設立(同)，NHK総合テレビ番組全時間カラー化(同)，1ドル308円の新レート実施(12月)。

札幌国際冬季スポーツ大会<プレオリンピック>開催(2月)，北海道知事選で堂垣内尚弘<自民党>が当選(4月)，北海道開拓記念館開館(同)，北海道文化放送(UHB)発足(6月)，国鉄札幌一旭川間ノンストップ1時間30分の「さちかぜ」発車(7月)，丘珠発函館行きの東亜国内航空YS11機「ばんだい号」横津岳に激突，68人全員死亡(同)，道経済センターに「北海道商工観光センター」開設(10月)，〝幻の国道〟231号線のうち厚田一浜益間開通(11月)，札幌市新庁舎落成，東北以北最高の地上19階(同)，札幌地下街オープン(同)，本格的ハイウェー，道央自動車道の千歳一北広島間と札樽自動車道開通(12月)，札幌地下鉄<南北線12.6km>開通(同)，旧三戸部家住宅<伊達市>，旧花田家番屋<小平町>，旧下ヨイチ運上家<余市町>，旧中村家住宅<江差町>，大刀川家住宅店舗<函館市>を国の重要文化財に指定(同)，○第3期北海道総合開発計画<10カ年>が発足。

昭和47年

山陽新幹線開通<新大阪一岡山間>(3月)，㈶余暇開発センター設立(4月)，沖縄県発足(5月)，自然環境保全法制定(6月)，国鉄，ルート周遊券発売(7月)，田中新内閣成立(同)，日本ペンション協会設立(10月)，国鉄，百年記念式典挙行(同)，国鉄，エル特急運転開始(同)，旅行業法全面施行，旅行業取扱主任制度実施(11月)，観光政策審議会，「国際観光の意義及び政策の方向」について中間答申(12月)。○海外旅行者100万人突破<139万人>。

第11回冬季オリンピック札幌大会開催35カ国1,600人余参加(2月)，札幌市，政令都市となる(4月)，UHB本放送開始(同)，紋別発札幌行きの横浜航空セスナ機，月形町の山腹に激突10人死亡(5月)，神恵内村に本道初の青少年旅行村開設(同)，狩場茂津多道立自然公園指定(6月)，北海道最長の石狩河口橋開通<1,413m>(7月)，国鉄白糠線

の上茶路―北進間開通(９月)，道内初の海上橋，厚岸大橋完成<456.5m>(同)，十勝と上川・網走を結ぶ国道273号線開通(11月)，タンチョウの生息調査で222羽を確認。

昭和48年

自然環境保全審議会設置(４月)，初の交通ゼネスト(同)，勤労者いこいの村の設置始まる(同)，勤労者フレンドシップセンターの設置始まる(同)，レクリェーションエリアの設置始まる(同)，総合森林レクリェーションエリアの設置始まる(同)，地方公共団体に補助金を交付し，観光レクリェーション地区の整備開始(同)，大規模レクリェーション地区整備開始(6月)，観光政策審議会，「国際観光の意義及び政策」について答申(８月)，トイレットペーパー，パニック発生<以後，各地で買占め騒動>(10月)，オイルショックで盛り場のネオンなど消える(同)，石油危機でガソリンスタンドの日曜・祝日閉鎖実施(11月)，政府，石油緊急事態を宣言(12月)。○この年，石油危機と狂乱物価。○海外旅行者200万突破<239万人>。

道，自然公園内の建物の高さの基準を設ける(３月)，札幌地下鉄，東西線着工(同)，国労・勤労・私鉄総連ストで道内列車ベタ遅れ，私バス4,200本ストップ(４月)，国鉄千歳線の複線化が完成，新札幌駅誕生(９月)，北海道新幹線は北回り，苫小牧まで延長のＪ形ルートと決定(同)，建設省，北海道の自動車道基本計画決める(10月)。

昭和49年

燃料節減で国内線減便開始(２月)，㈱日本近距離航空設立(３月)，新関門トンネル開通(同)，史上最大のゼネスト決行<国労・動労・私鉄総連など81単産600万人>(４月)，運輸省，観光情報システム開発班設置(５月)，国土利用計画法制定(6月)，三木新内閣成立(12月)，経済対策閣僚会議，経済成長優先から安定成長への路線転換(同)，○景気の後退。

乱開発規制の北海道自然環境等保全条例施行(4月)，朱鞠内湖道立自然公園指定(同)，旧函館区公会堂<函館市>を国の重要文化財に，善光寺跡<伊達市>を国の史跡に指定(5月)，第45回都市対抗野球で大昭和北海道が優勝，関東以北初めて(８月)，北方圏会議を札幌で開催<６カ国19地域の代表参加>(９月)，利尻・礼文国定公園にサロベツ原野の一部を加え，利尻・礼文・サロベツ国立公園に昇格(同)，日本近距離航空のローカル線，札幌―函館―奥尻，札幌―中標津，札幌―紋別間の運航開始(10月)，支笏湖畔に道内初の勤労青少年フレンドシップセンター開設(11月)，○国鉄広尾線の幸福駅ブーム起こる。

昭和50年

IUOTO，世界観光機関<ＷＴＯ>に改組(1月)，東亜国内航空，東京―福岡・東京―千歳線開設，幹線の３社運航実現(3月)，新幹線，岡山―博多間開業(同)，運輸省，全日空の東京―釧路線を認可，ローカル線のダブルトラッキング化(４月)，自然環境保全地域の指定始まる(５月)，観光政策審議会，「観光レクリェーション地区の整備に関し政府のとるべき施策の方向」について意見具申(同)，経済企画庁，49年度の国民総生産が戦後初のマイナス成長<前年比0.6％減>と発表(６月)，沖縄海洋博開催(７月～51年１月)。○構造不況で，不況倒産２年続きの戦後最高を示す。

第30回国体スキーを富良野市で開催(2月)，北海道知事選で堂垣内尚弘再選(４月)，江差町，同町沖に沈没の幕末の軍艦開陽丸の発掘調査開始，大砲など揚がる(6月)，国勢調査，北海道の人口533万8,043人(10月)，北海道自然環境保全審議会，天売島を特別保護区に，８地区を鳥獣保護区に決める(11月)，新千歳空港着工(同)，ＳＬサヨナラ列車，室蘭―岩

見沢間を走り，103年の歴史に幕(12月)，タンチョウの生息調査で194羽確認<49年より59羽減少>(同)。

昭和51年

沖縄海洋博閉幕，入場者348万人で予想を100万人下回る（1月），ロッキード事件発覚（2月），国鉄，指定券発売方式簡素化<6カ月，1カ月，1週間前発売>（3月），新幹線，10億人の輸送達成（5月），東京地検，田中前首相を逮捕（7月），国鉄，私鉄と共同で「ビバ・ホリデー」キャンペーン開始（9月），日本観光協会，中央観光情報センターを新宿駅に開設(11月)，第1次福田内閣成立(12月)。○貿易収支の黒字過去最高，総合収支でも4年ぶりに黒字を示す。

道庁本庁舎1階ロビーで，出勤時に時限装置の消火器爆弾が爆発<道庁職員ら2名死亡，85人重軽傷>（3月），札幌・地下鉄の東西線が開通（6月），国道229号線の茂津多トンネル開通，着工から6年ぶり(11月)，本道の51年の倒産累計は1,300件<負債総額1,300億円>で史上最高（12月)。

昭和52年

国鉄，「1枚のキップから」のキャンペーン開始（1月），国鉄，料金値下げ<グリーン料金平均34.1%，A寝台料金同27.6%>（9月），国鉄，みどりの窓口の営業時間短縮<10時～17時>(11月)，第3次全国総合開発計画を閣議で決定(同)，観光政策審議会，「望ましい観光地づくりの方向」について中間報告(同)，第2次福田内閣成立(同)，○企業倒産過去最高を示す。○海外旅行者300万人突破<315万人>，外客数100万人突破。

道東・北中心に大雪<紋別29cm，5月としては最高の記録>（5月），東京以北で最高の〝美術の殿堂〟として，札幌市に道立近代美術館開館（7月），有珠山が爆発，降灰で農作物は伊達・壮瞥中心に被害甚大，洞爺湖温泉町など付近住民7,000人が避難<道の被害集計総額200億6,584万円>（8月），支笏湖畔に道内初の国民休暇村開設（9月），洞爺湖温泉，有珠山噴火以来47日ぶりで観光客受け入れ(同)，道教委，タンチョウヅルの生息調査で235羽確認<前年より15羽増>(12月)。

昭和53年

新東京国際空港<千葉県・成田>開港（5月)，日航国内線，東亜国内航空に初の禁煙席設置（6月），政府，世界観光機関<ＷＴＯ>に加盟（7月），日中平和条約調印（8月），運輸省，ＩＴＣ<包括旅行チャーター>導入決定（9月），日本交通公社，観光文化資料館開設(10月)，円高1ドル180円を突破(同)，国鉄，新キャンペーン「いい日旅立ち」開始(11月)，大平新内閣成立(12月)，観光政策審議会，「最近における情勢の変化に対応し当面講ずべき国際観光対策」について意見具申(同)。

天塩岳周辺を「天塩岳道立自然公園」に指定(1月)，観光審議会，「北海道の特性を生かした観光レクリェーション施設整備の推進方策」について答申（2月），樽前山，23年ぶりに小規模の噴火（5月），ハマナスが「北海道の花」に決まる（7月），小樽34.7度，留萌35度，札幌35.2度を記録<ともに8月としては観測以来最高の猛暑>（8月），有珠山が52年夏の大噴火以来最大級の水蒸気爆発（9月），札幌の時計台，創建百年記念式（9月），激しい雷雨で洞爺湖温泉街に有珠山の泥流襲う<2人死亡，1人不明，4人負傷>(10月)。

昭和54年

世界最長，上越新幹線大清水トンネル<全長22.2km>貫通（1月），全日空，東京ー札幌，東京ー福岡線にB-747SR就航(同)，運輸省，

公営ユースホステルの規制改正，門限，飲食時間延長（５月），国際観光振興会法の一部改正，日本人海外旅行客に対する情報提供業務を追加（５月），運転免許取得者 4,000万人突破（６月），国鉄，100～300㎞区間に旅客運賃割引制度新設（７月），ＳＬ列車「やまぐち号」が，国鉄山口線小郡―津和野間＜62.9㎞＞で３年８カ月ぶりに営業再開（８月），第２次大平内閣成立(11月)，国鉄観光開発第１号，岩手県八幡平リゾートホテル，東八幡平スキー場開業(12月)。

第34回体スキーを名寄市で開催(2月)，(社)北海道観光土産品協会設立(同)，全道的に大雪，札幌で40㎝を記録＜４月の降雪量としては観測史上最高＞（４月），札幌の豊平川で25年ぶりにサケのそ上を確認（９月），札幌市の11月１日の人口137万4,715人となり，神戸市を抜き全国６番目の大都市となる（11月）。

昭和55年

国鉄，「いい旅チャレンジ２万キロ」キャンペーン開始，実施期間10年間（３月），東海道新幹線，開業以来の乗車人員15億人を突破（４月），大平首相死去（６月），鈴木新内閣成立（７月），国鉄ダイヤ改正で「こだま」26本削減，「ひかり」に禁煙車新設（10月），新幹線「ひかり」普通車にリクライニングシート登場(11月)，日本の自動車生産台数 1,104万台で世界一となる(12月)。

第35回国体スキー小樽市で開催（２月），環境庁が２年がかりで進めてきた緑の国勢調査の中間報告で，湖沼の透明度では摩周湖が「世界で最も澄んだ湖」となったほかクッタラ湖，支笏湖が全国の２，３位を占める（６月），国鉄の新ダイヤで千歳・室蘭本線の電化と千歳空港駅開業＜これで空の便と列車が直結＞(10月)，斜里岳周辺を「斜里岳道立自然公園」に指定(11月)。

昭和56年

政府は閣議で，北方領土返還運動のシンボルとなる「北方領土の日」を２月７日と決める（１月），初の「北方領土の日」で政府主催の行事が東京，根室などで開かれる（２月），神戸ポートランド博覧会・ポートピア'81開催＜９月までの入場者は1,610万人＞（３月～），国鉄，赤字ローカル線として本道８線を含む全国地方40線の廃止を，当初案通り運輸省に申請（６月），航空３社，国内幹線に回数券制度実施（６月），新幹線，東北は57年６月，上越は同年11月大宮発で開業決定（８月），京都市が条例で空きかん追放を議会へ提案＜57年４月施行＞（９月），国鉄，２両連結のリニアモーターカーの浮上走行実験に成功(11月)。

道，札幌に３万人収容の屋根付き全天候スタジアムを建設する計画で，報告書まとめる（１月），国際スキー連盟ジャンプ・ワールドカップ第11戦札幌大会開催＜大倉山・12カ国の選手参加＞（２月），千歳空港へ国際線乗り入れ，日航千歳―成田―ホノルル線週一便運航開始（３月），「北海道観光圏別整備基本計画」策定さる(同)，ウトナイ湖バードサンクチュアリ＜野鳥の聖域＞がオープン（５月），小清水サンクチュアリ＜野性動植物の保護聖域＞開村（６月），「時計台の鐘百年を祝う集い」開く（８月），全道に記録的な豪雨（３～６日）と，台風15号の通過（23日）で暴風・豪雨のダブルパンチを受け大きな被害を受ける（８月），運輸省が青函トンネル接続ルート決定，本道側は出口の湯の里―木古内間14.6㎞＜トンネルを含め完成は59年度の予定＞(9月)，国鉄石勝線＜千歳空港―新得間＞開通(10月)，日高山脈襟裳国定公園指定(同)，11月全通したばかりの国道231号「雄冬岬トンネル」が大崩落(12月)，タンチョウの一斉調査で過去最高の295羽を確認。保護が実る(同)，ニセコ町に「ニセコいこいの村」オープン(同)。

戦後間もない
21年に結成された道観連
関係者が思い出を語る

北海道観光連盟が社団法人として認可されたのは昭和37年９月であるが，その母体となったのは，任意団体として昭和21年４月に結成された北海道観光連盟である。

公益法人として再スタートして以来，20周年を迎えた現在の道観連を語るには，どうしてもそれ以前の道観連のことに触れないわけにはいかない。戦後の混乱期に，しかも「観光」という言葉すらあまり使われなかった時代に，どのようにして道観連が誕生し，どのような動きをしてきたのか。

ここに，その辺の事情を知る４人の方にお集まり願い，フリートーキングで道観連の沿革などについて語っていただいた。皆さんは，いわば道観連の生みの親であり，幹事として，あるいは地方の会員として多彩な事業を推進してこられた方々である。

出　席　者（50音順）

○内田忠広氏　日本交通公社札幌支社職員として，創立当時から事務局の業務を担当。同社札幌支店長などを経て現在札幌全日空ホテル常務取締役。

○清水良邦氏　昭和25年道商工部商務課で初代の観光係長に就任いらい，幹事として業務を推進。40年道退任。現在江別市在住。

○楡金幸三氏　札鉄旅客課宣伝係長時代に創立に参画，いらい幹事として長年にわたり道観連をバックアップしてきた。国鉄退職のあと日本観光協会道支部事務局長で業界から勇退。札幌市在住。

○三浦吉太郎氏　小樽観光協会副会長として道観連の事業に協力。法人化後も常任理事として活躍する。
小樽市に在住。

☆他府県に先がけて，道観連が誕生したのは昭和21年４月である。ところでこの年は戦後間もない国内でどんな動きがあったのか。日本観光協会でまとめた「戦後観光関係年表」から主なことを拾ってみると，政治・経済関係では天皇人間宣言（１月），新円発行（２月），新選挙法による衆議院総選挙（４月），第１次吉田内閣成立（５月），日本国憲法公布（11月）。

社会・レジャー関係ではＮＨＫのど自慢素人音楽会放送開始（１月），プロ野球再開（５月），第１回国民体育大会開催（８月，11月）。観光組織・団体関係では運輸省観光課設置（６月），全日本観光連盟設立（６月），国立公園協会設立（12月）などが目につく。

この年に，任意団体として北海道観光連盟が結成されたのであるが，そのいきさつなどから語っていただく。ちなみに戦前，観光といえば国鉄がもっぱら観光客の誘致宣伝を行っており，資源保護の面では道の林務部がこれに当たっていた。

設立のいきさつなど

榆金　私は昭和12年から鉄道で宣伝関係の仕事していたせいか，終戦後は観光関係の指導連絡機関の必要性を痛感していましてね。指導うんぬんとなればどうしても道庁と手を組まねばならない。ところが，当時のＧＨＱの方針として「役所が指導性を持ってはいけない」ということだった。

そこで，道の林務課におられた田中順三さんと話し合った結果，「交通公社で事務局を引き受けていただきたい。私らが側面から支援しますから…」と，日本交通公社の札幌支社長だった後藤恒三郎さんに頼んでみた。当時公社に文化課という課があって宣伝や出版物を扱う仕事をしており課長が鈴木一男さん。こうして事務局は公社で引き受けていただき，仕事を進めてもらうようになったんです。

こんないきさつで，いわば観光施策の推進機関として道観連をつくることになり，これまでの関係から国鉄や道の担当者が幹事として，全面的にバックアップする体制をとったわけです。

内田　当時，観光団体の全国的組織として全観連（全日本観光連盟）結成の動きがあり北海道にも支部を，ということから「道観連をつくり，支部の性格を持たしたら」という話しがあったのでは。

榆金　全観連ができても，いわば中央の団体。中央の者に地方が動かされては大変だということ，それに道観連はすでに設立され，全観連はそのあと（６月）にできたものです。

しかし，あとでできた全観連の要請もあって道支部を設けねばならなかったが，本道では独自の性格を持つ道観連が必要であり，あくまでも道観連は道観連ということで，支部の看板と２枚かけたはずです。

内田　そういえば，道観連をつくるときも皆そう言ってましたね。「中央に支配されないいいものをつくろう」と。

榆金　それで，結成の準備はすべて交通公社の皆さんにやってもらいました。

内田　規約づくりや予算のことなど，みんな私どもでやりました。規約の草案は鈴木課長や同じ課の氏本さんらと相談してつくった

のだが，実に簡単なものでしたね。

榆金　とにかく「規則に縛られる面倒なものはつくるな，規約はできるだけ簡単に」というのが皆の意見だった。

内田　当初は会員も少なく，札幌，定山渓洞爺，登別，阿寒，層雲峡などの観光協会，それに道の商工，林務，土木の各部と，札鉄旅客課，交通公社ぐらいでしたでしょうか。

三浦　小樽の観光協会は終戦翌年の創立だから，入っていたのでは。

内田　ああ，小樽もそうでした。それにしても設立総会にはよく集まりましたね。たしか会場は札幌市役所だったと記憶していますが。

清水　会場は札幌市役所だったのですか。

榆金　当時は札幌グランドホテルはじめ，目ぼしい建物はほとんど進駐軍に接収されていましたからね。

☆設立総会は，４月25日午後１時から札幌市役所で開かれ，規約審議のあと事業計画や収支予算などを決め，理事長に日本交通公社札幌支社長の後藤恒三郎氏が選任された。規約や初年度の事業計画，収支予算など，設立当時の記録は何ひとつ残されていないが，道観連の結成を報じた北海道新聞（４月26日付）から，結成のねらいや当初計画した事業の内容などうかがうことができる。（32ページ）

こうして，北３条西３丁目にあった日本交通公社札幌支社内に事務局を置いた道観連は，道の関係各課，札鉄旅客課，交通公社の係長クラスが幹事となって，計画された事業を進めていった。そのひとつに観光ポスターの作成や，自然公園地域指定の陳情運動などがある。

それには，連合軍総司令部（ＧＨＱ）が，平和日本復興の旗印の一つとして観光産業を取り上げ，昭和21年夏には本道観光地開発指導のため同司令部の観光専門家ポーパム大尉を派遣。道は札鉄，日本交通公社の協力を求めて，この三者で同大尉の案内に当たり，阿寒，大雪山両国立公園並びに主要観光地の視察を受け，観光地としての開発価値有無の診断を受けるとともに，開発手法の指導を受けたことなどが背景となっている。

観光ポスターの作成
自然公園の指定陳情

内田　観光ポスターはいろいろつくりましたね。当時は今と違ってほとんど絵で，栗谷川さん（健一氏，札幌在住のグラフイックデザイナー）にはずい分お世話になった。

清水　私が道観連の仕事に関係した25年から，32年末までつくった観光ポスターの大半を持っていますが，国鉄がつくった分も含めて８年間で16種類も出していますよ。

ポスター「エルムの鐘」

ポスター「摩周湖とメノコ」

榆金　その中には受賞したのもあったのではないかな。

清水　そう，27年に作成の「エルムの鐘」は日本ポスターコンクールでナンバーワンになったし，28年に作成の「摩周湖とメノコ」はリスボンでの世界ポスターコンクールで，ベストスリーに入りました。

あの頃，北海道のポスターは人気がありましてね。いつかなど上野駅に行ったらどこにも見当たらない，聞いてみたら駅長室にはってあるんですね。ホームなんかではすぐ持って行かれたそうです。

内田　支笏洞爺国立公園の指定陳情も思い出ですね。運動したのは23年かな。私はまだ駆け出しのころで，一生懸命やったのは札幌観光協会の近藤さん（直人氏・故人），榆金さん，うちの鈴木課長，後藤さん，定山渓章月旅館の小須田治朗さん（故人）などですね。

榆金　とくに章月の小須田さんが一生懸命だった。あの人は身銭を切って運動を推進していましたからね。確かこの時の運動費は表面上は10万円くらいと記憶しているが，実際はもっと掛かったはずで，その大半は小須田さんが持ったのでは。

三浦　支笏洞爺の指定よりかなり後になるが，ニセコ積丹小樽海岸国定公園の指定もそうです。私は小樽なものだから「君ひとつやってくれ」と言われ，直接厚生省に乗り込んで陳情したものです。現地調査は大分あとになるというのを，しゃにむにお願いして，すでに予定していた場所を後回わしにして，翌週きてもらったことを覚えています。

内田　こうして指定された自然公園のことは，北海道景勝地協会がやっていましたね。

榆金　そう，道の林務課にあってね，国立公園とか温泉地のリストをのせたすばらしいパンフレットなどを出していましたよ。

清水　それは私も知っている。紙質も内容もかなりいいものだった。

内田　ところで，道観連は〝これからの観光地〟もずい分宣伝に努めましたね。

榆金　それで面白い話しがある。当時はあまり知られていない別海村の尾岱沼を宣伝しようと，現地調査に訪れたら，当時の村長さんが牛乳缶に入れたどぶろくで歓迎してくれましてね。

内田　ああ，その話しは私も聞いている。結構おもしろいこともありましたね。

事務局では機関紙も出しました。初め「連盟報」と考えたが，榆金さんから「そうしょっちゅう出せるわけないから〝随報〟としたら」ということで「北海道観光連盟随報」としました。ガリ版刷りで原稿もみな私らが書いたものです。年に５，６回も出しましたかね。

榆金　内田さん，そのうち事務局が道の方に移ることになるね。

内田　そうです，移ります。

☆やがて，事務局が交通公社から道庁に移ることになる。この時点では専従職員もいないので，事務局の業務は道職員がやってくれることになった。その辺の事情やその後の事務局の移り変わりなどについて語っていただく。

事務局の移り変わり

清水　事務局が道庁に移ったのは25年のことです。「観光」と名称の係が道に初めてできたのがこの年，私が初代の係長になって，間もなく私のところに〝道観連がやってきた〟わけです。

内田　道庁に移ったいきさつは榆金さんご存知でしたか。

榆金　それはね，交通公社の文化課が無くなって，「公社ではもうお世話できない」ということになったわけ。それで道庁へ持っていくか，国鉄へ持っていくか，と二つの意見が出た。私自身は，従来の関係もあり国鉄で引き受けてもよいと考えたが，当時の旅客課

長はなかなか「ウン」と言わない。それで止むなく「道庁さん，ぜひ引き受けていただきたい」ということになった。

道では林務や道路課もあるけど，「観光」と言えばやはり商務課が窓口で，それで清水さんのところにいったわけです。

清水　そういうことでしたか。新しくできた観光係の係長になったばかりの私に，「お前やってくれ」と言われ，いわば飛び込んできた道観連の仕事も兼ねることになりました。むろん専従の職員などおらず，職員を置いたのはしばらくしてからのことです。

榆金　初代の事務局長になったのは，確か桧山支庁長で道を勇退された近藤茂門さんで，この時初めて道の補助金が付いたはずだ。

２代目は北海タイムスの販売部におられた田島繁得さんでなかったかな。

清水　近藤さんが事務局長になられたのは何時のことかはっきりしませんが，27年には田島さんが事務局長になっております。たまたま，27年に全観連の全国総会を札幌でやることになって，その時おみやげに作った写真帳を見ると，産業会館内に事務局があり，発行人は事務局長・田島繁得とありますから。

内田　そうすると，27年には事務局は道庁を出ていた，ということになりますか。産業会館といえば，現在は札幌市役所の駐車場となっている場所ですが。

榆金　そうだが，とすれば私どもは何回も集まっているはずなのに，どうもよく思い出せないね。

内田　私は何となく記憶がある。では，その後また道庁に戻ったわけですか。

榆金　そうなるね，そのわけは何だろう。

内田　田島さんが辞められ，当分事務局長はおかない――，ということで道庁に戻ったのではないでしょうか。

田島さんが辞められた本当の理由は分からないが「皆さんの意見をまとめるのは，なかなか難しい」と述懐していたことを記憶しています。

榆金　われわれはいじめた覚えはないが，当時の幹事はそうそうたるメンバーがいたからね。言いたいことはどんどん言った。

池田一男さんが道路課長の時かな，当時，弟子屈から摩周へ，そしてまた弟子屈に戻って川湯へ行かねばならなかった道路事情を指摘し「こんな道路行政なんかない」と直言したことがあった。それが効いたかどうか分からないが，昭和26年弟子屈―摩周―川湯を結ぶ立派な道路がわずか１年でできている。

内田　「観光」のことなど，まだまだ認識されていない時代でしたからね。

榆金　だからこそ，われわれの意見もよく通ったのかも知れない。

昭和29年５月21日　第９回道観連総会　帯広市

内田　私らも勉強したし，そのためにあちこちよく歩きましたね。毎年の総会も各地の持ち回りだったし，エキスカーションも必ず参加した。

☆毎年の定例総会は，会員となっている各観光地の持ち回りだった。総会そのものはセレモニーみたいなもので，いわばどこでやっても内容はほとんど同じだが，開催地を毎年変えることにより，会議のあと周辺の観光地を見て回る，エスカーションが生きた観光の勉強になるので参加する会員が非常に多かった，という。

持ち回りの総会

内田　ところで，道観連の総会はどこどこで開催されたでしょうね。とても全部覚えていませんが。

清水　私がよく知っているのは27年函館，28年稚内，29年帯広ですが。

榆金　小樽，旭川，網走，洞爺湖，登別，阿寒などでもやりましたね。

三浦　室蘭でやって，登別温泉へ行ったこともありますよ。

内田　あちこち回れて，総会はいつも楽しかった。会議はともかく，よその土地を見ることも目的のひとつでしたからね。

清水　全観連の総会で本州の各観光地を，道観連の総会で道内各地を，これがずい分勉強になりました。

榆金　いまの道観連の総会は，ずっと札幌でやってるようだね。

内田　そうですか，面倒でないから札幌でやるのかな。地方でやれば金もかかるし，忙しいだろうけど，できたら持ち回りにしたいものですね。その土地の刺激にもなります。

三浦　「観光」とはよその土地を〝観る〟ことですからね，なるべく歩くようにしなければ，と思います。

榆金　なにより，参加する方も受け入れる方も喜ぶのではないかな。

内田　「観光」をどうとらえるかですね。すべてはそのことにかかっているのでないでしょうか。

☆総会のことから，話題は「観光」についての考え方，これからの課題についてまでおよんだ。

「観光」に取り組む姿勢
行政にも要望したいこと

榆金　どうだろう，「観光」という文句を何とかうまい言葉に変えられないものだろう

道観連の結成を報じた新聞記事

観光聯盟を結成

観光事業を積極化して貿易外の収入をあげようと日本交通公社の肝煎りで二十五日午後一時から札幌市役所に観光事業関係の各地団体および札幌鉄道局、道廳などの代表七十名が出席、北海道観光聯盟を結成した、聯盟は綜合聯絡機関となり観光に関する企画をなし健全な發達をはかるもので事務所を公通公社札幌支社に置く、なお事業内容左の如し

観光資源の調査開發保存、道路の調査開発促進、観光地の紹介ならびに観光客の誘致、郷土の文化の育成、宿泊施設の改善指導、機関紙、印刷物の刊行ならびに頒布、土産品の改善指導、および販賣の斡旋、従事員の資質向上、中央機関との連絡

☆これは，道観連の結成を報じた当時の新聞記事（４月26日付，北海道新聞）で，本文そのままである。わずか20行の記事だが，設立の趣旨やどんな事業を計画していたかなどを知ることができる。

当時の新聞は物資不足の時代だけに全部で２頁。ちなみにこの日の紙面には，１面には「次期政権の収拾策 / 論議沸騰まとまらず」，「道庁長官更迭 / 後任に増田甲子七氏」，「危機迫る食糧 / 配給米ありながら，本道は計画的な遅配」。また２面には「再び石炭危機か / 毎日の出炭下廻り続く」，「楽になる余市，岩見沢間 / 自由発売に近い量の乗車券発売」といった記事の見出しが目に付き，戦後間もない当時の世相がしのばれる。

か，いま「観光」と言うと，何にでも使用されているのでどうも誤解される面がある。しかつめらしい解釈はあるが，分かりずらいしね。

内田　私は，「観光」そのものは非常にいい言葉だと思いますよ。ただ，使い方が問題なのでは。

清水　そうですね，確かに乱用されている面がありますね。

内田　昔は観光の主流といえば，国鉄はさておいて，バスや旅館でした。ところが，大半の業者は力がないこともあって，どうも国や道のテコ入れが少なかったような気がします。どうでしょうか。

榆金　確かにそうだ。町村さんが知事になったとき，ＨＢＣで対談させられたことがあったが，観光について私が言ったのは，「北海道の開発には国民の認識が第一で，これには観光客として国民を誘致することが一番よいと思う。北海道の農業にしろ，漁業にしろ，林業にしろ，国や道からどれほど助成を受けてここまできたか分からない。〝観光〟が北海道にとっていかに大事であるか分かっていただいたら，観光事業に対し思い切った助成をして欲しい」ということだった。最近の状況をみても，この気持は少しも変わらない。

内田　「観光」はあらゆる産業に関係ありますからね。直接落ちる金もさることながら，波及効果も大変なものです。だから，国によっては総力をあげて取り組んでいます。これは国内でも同じことが言えるのではないでしょうか。

榆金　そのとおりだね，特に北海道ではそう言える。いずれにせよ行政としてもそのことをよく理解して欲しいし，今後の道観連にも大いに期待することにして，締めくくることにしましょうか。

（57年６月11日，札幌全日空ホテルにて）

☆こうして，昭和21年４月に設立された道観連は，結成いらい全道的な観光団体としてパイオニア的な役割を果たし，それなりの成果をあげてきたが，その半面，組織的にも財政的にもその基盤は強固なものといえず，年々観光客が増加する時代を迎え，その体制を一段と充実強化する必要に迫られたことから，37年５月25日登別温泉で開かれた第17回定期総会で，これまでの道観連を母体に「社団法人・北海道観光連盟」設立の件が提案され，満場一致で可決されて公益法人として新体制のもとに出発することになる。

なお，創立当時，日本交通公社札幌支社の文化課長だった鈴木一男氏は，同社を退職されて現在埼玉県与野市にお住まい。そのころをしのび，「道観連誕生の頃」の一文を寄せられたので，併せてご一読いただきたい。

また，座談中しばしば出てくる全観連（全日本観光連盟）は，34年４月に(特)日本観光協会が設立されたことに伴い発展的解消をとげ，以後，道観連は観光団体として全国的組織である，日本観光協会（39年４月社団法人）の会員となり今日に及んでいる。

道観連誕生の頃

鈴木一男

日本の再建を図るには，観光国スイスを目標にせよ，という声が高かった当時のことでした。幸い北海道は特色ある自然美と豊富な温泉に恵まれて，観光事業の基盤がそろっていることから，資金も物資もない時ではあるが，今から観光北海道としての整備計画を立てて推進しなければ，という意見が一致して21年の春に道観連の誕生となったものと思っています。

私が事務局長格ということで，毎月のように幹事の皆さんにお集まり願って，大いに意見をたたかわしたものでした。幹事のうちでも榆金さん，田中さん両ベテランには随分お世話になりました。私自身は室蘭出身で，登別や洞爺は子供の時からなじみがあるが，道全体となると知らないことばかりなので，できるだけ各地に出向いて実状を見て歩き，地元の皆さんと意見を交換したものでした。

自然の保護と開発という大きな問題については，各方面の識者先輩の意見を聞いて回わりましたが，今でも記憶にあるのは，北大の地質の鈴木先生，植物の館脇先生，動物の犬飼先生です。お三方とも北海道を愛すること一方ならずという風格のある先生たちで，専門の立場からのざっくばらんなお話しをしばしばしていただき，大いに啓発されたものです。

風格のある人といえば，札幌観光協会の近藤直人さんです。この方が中心となって推進した〝さっぽろ雪まつり〟が，やがては今日の大をなすなど，当時では想像もできないことでした。

支笏洞爺国立公園指定の運動を始めたころと思いますが，米国国立公園の監督官であるMr,Richeyが厚生省の担当官と一緒に来道して，阿寒，大雪両国立公園と支笏洞爺地域を視察されましたが，道観連としても地元の関係者と連携していろいろ尽力したものです。私もガイド役として全行程添乗しましたが，何しろ当時のことで道路も悪く，1，2時間も走ればエンストとなるオンボロ自動車での案内で苦労したものでした。

各地元ともなかなかの歓迎ぶりで，公園の保存と施設の拡充策に積極的意見を述べるなど熱意のあるところを示せば，リッチイさんも気持ちよく応待されていました。支笏洞爺国立公園が割りと早く指定されたのも，こうしたことが刺激となったのではないでしょうか。当時，地域の観光発展のため尽くされた方々の多くは，今は故人となられましたが，折にふれ面影をしのぶことがあります。

私は札幌は二度の勤務で，終戦後は4年間次は38年より5年間でしたが，特に後の5年間の宣伝誘致と観光客あっ旋時期に，副会長として道観連のお手伝いできたことを幸せに思っています。現在は，東北新幹線開通で沸き立っている始発駅大宮の近くに住んでおりますが，大変な東北観光ブームの現状をみるにつけ，いつになったら新幹線が津軽海峡を渡ることかと，わびしい思いです。

おわりになりましたが，北海道観光連盟のご発展を心からお祈り申し上げる次第です。

☆　鈴木氏は，昭和21年道観連設立のころ日本交通公社札幌支社の文化課長。転勤のあと38年から再び同社北海道支社長として勤務，社団法人となった道観連の副会長として活躍された。

道観連の歩み

―結成からの足跡を追う―

道観連の結成

昭和21年４月，任意団体として結成された北海道観光連盟は，当初は専従職員もいない事務局を，道や国鉄，日本交通公社などの職員が幹事としてバックアップ，いわば先駆者としての労苦と，会員の協力によって支えられ戦後間もないころ，すべてが不自由な時代にもかかわらずいろいろな事業を推進してきた。

残念なことに，それらの足跡を残した記録や資料は，現在ほとんど残されていないためその詳細を知ることができない。

しかし，結成当時から，あるいは間もなく道観連の運営に参画された方々による，〝当時の思い出を語る〟座談会や，やはりその一人である鈴木一男氏の手記などから，その概要をうかがうことができよう。

むろん，これらの人以外にも道観連の事業に関与された方は数多い。そのなかでも，道観連の運営について，あるいは多くの事業を計画するにしても，その原動力となったのは幹事であった。少ない資料の中に，36年から37年ころに活躍されていた幹事として，次の各氏の名があるので列記してみょう。

渡辺秋雄（国鉄道支社旅客課），新妻正一（札鉄旅客課宣伝係），松原健一（札幌陸運局総務課），津村彰（道都市計画課公園施設係），岩崎四郎（道林政課公園係），笹本洋三（同），楡金幸三（日本交通公社道支社），轟木義重(道商工部観光課長補佐),中真彰(道観光課企画係長)，斎藤公二（同課宣伝係長），会田尚顕（同課調査係長)。

法人化の動き

やがて戦後も30年代となり，高度経済成長期を迎えると，観光事業の発展期といわれ，前半は観光の大量化，後半は観光の大衆化がみられるようになった。

この後半期にあたる昭和37年に，道観連は社団法人となる。なぜ法人化を図ったのか，その理由は別稿の「社団法人北海道観光連盟設立趣意書」に言い尽くされているが，道内の33年度の観光客入込み数延べ約758万人が36年度まで平均30％近い伸びをみせており，こうした時代を迎え，本道の観光事業振興のため多くの課題を解決するには，組織的にも財政的にも，その体制を一段と充実強化する必要に迫られたからである。

そのころ事務局は，昭和36年４月に設置された道の観光課内におかれていた。任意団体の道観連を社団法人として人格を与え，事務局も独立させよう―という動きは，観光課ができてからすでに芽生えており，法人化の計画はすべて課の企画係が中心になって進められた。当時の係長は中真彰氏で係には渡辺慶衛，野屋敷道徳，松田肇，鈴木正明，福士愛子の各氏がおり，諸準備一切を整えたのである。

社団法人となる

５月25日登別温泉の登別国際会館で開かれた第17回定期総会でそのことが提案され満場一致で可決した。「７月25日運輸省に許可申請，９月27日付社団法人認可，11月26日登記完了」と記録にあるように，法人としての手続きはすべて終えた。

こうして，道の大きな支援もあって，新体制の北海道観光連盟が設立され，旧道観連に属する一切の権利義務，資産及び事業が引き継がれた。創立時の定款，初年度の事業計画及び収支予算，役員名簿を掲載したが，現在の道観連のそれらと比較して興味深い。

その後の経過

その後の経過については，「20年の事業活動」として，創立の37年度から各年度に実施した事業をつぶさに取り上げてみた。いうまでもないことだが，観光は政治・経済・社会環境の変化に大きく影響される。高度経済成長期では，観光の大量化・多様化・広域化現象が生じて，本道でも観光ブームが到来したことは周知の事実である。一方，オイルショック以降の低成長・安定成長期では，観光の大量化・広域化より，むしろ日常生活のレジャー活動の一環としてとらえられ，〝質素な観光〟が定着した。しかし，その半面海外旅行は増え，一部では観光のデラックス化も見のがすことはできない。

このように，観光をとりまく環境は複雑多岐にわたっており，その課程のなかで観光がどのように位置づけられたのか知る必要がある。「戦後の観光関係年表」はその動向を知るためのもので，これらの動きを背景にして道観連の事業も進められてきた。いってみれば，「20年の事業活動」は〝道観連の歩み〟そのものである。

社　団　法　人
北海道観光連盟設立趣意書

北海道における観光事業は，三国立，二国定及び八つの道立自然公園を主体とする優れた自然美と，地理的に亜寒帯に属することによる気象及び動植物等の特異性，そして本道独特の産業観光対象や文化財に富み，さらに開発途上にある活動的な雰囲気等が魅力となって，近年著しく発達し，昭和36年度における来道観光客延600万人，道民の観光を併せると延1,600万人となり，その消費額は160億円に達し，本道経済の発展と社会福祉の向上に大きな役割を果たすとともに，本道に対する内外の理解を深めて北海道総合開発の進展に貢献しているところであります。

しかしながら，本道観光事業の実情は，いまだ不備の点が多く

- 観光資源の保護と多角的な開発整備
- 受入施設と観光環境の整備促進
- 接遇の改善と観光観念の普及
- 宣伝方法及び資料情報の紹介
- 更には宿命的課題としてのシーズンオフの解消

等の改善すべき点もまた多い現況にありますので，これらの問題を解決し，本道を国際観光地として，また，国民の健全な憩いの場として，さらには四季を通じた美しい観光地に育て上げるためには，国及び道の施策は勿論観光事業関係者の協調と各界の協力支援の下に観光関係者をもって構成する指導連絡機関の強力な活動が切望されるところであります。

北海道観光連盟は元来かかる目的をもって昭和21年に設立され，今日まで相当の成果を納めてきたのでありますが，現実には各地の観光協会のほか観光事業者の申し合わせ団体であって，組織的にも財政的にも必ずしも強固な基盤を有するものとはいい難く，その活動も制約を受けざるを得ない実情であります。

従って，この際本道における観光関係機関は勿論，各産業界を網羅した強力な組織とし財政的にも会費及び補助金の増額によって，その体制を一段と充実強化して，諸般の活動を強力に実施することとし，ここに「社団法人北海道観光連盟」を設立しようとするものであります。

創立当時の定款

第1章　総　則

（名　称）

第1条　本会は，社団法人北海道観光連盟と称する。

（所在地）

第2条　本会は，事務所を札幌市に置く。

（支　部）

第3条　必要に応じて支部を設置することができる。

2　支部に関し必要な事項は別に規程をもって定める。

（目　的）

第4条　本会は北海道内における観光事業の健全な発達と振興を図り，国民一般の厚生，保健，文化生活の向上並びに経済の開発発展に資するとともに国際親善に寄与することを目的とする。

（事　業）

第5条　本会は，前条の目的を達成するため次の事業を行う。

(1)　観光宣伝
(2)　観光客誘致促進
(3)　接過の改善
(4)　観光資源の保護及び開発の促進
(5)　観光施設の整備促進
(6)　観光観念の普及向上
(7)　国土美化運動の推進
(8)　観光土産品の改善指導及び紹介宣伝
(9)　道内観光団体活動の促進
(10)　機関紙，印刷物の刊行と頒布
(11)　観光事業の調査研究
(12)　その他，本会の目的達成に必要な事業

第2章　会　員

（種類及び区分）

第6条　本会の会員は，正会員及び名誉会員とする。

2　会員の区分は，次のとおりとする。

(1)　正 会 員　観光関係団体，公共団体，その他本会の趣旨に賛同する者及びその団体
(2)　名誉会員　本会に功労ある者及び学識経験者であって，会長が推せんし，理事会の議決を経たもの

（加　入）

第7条　正会員になろうとする者は，書面をもって本会に申込み，理事会の承認を得なければならない。

（会費の納入）

第8条　正会員は，会費を納入しなければならない。

2　名誉会員は，会費の納入を必要としない。

3　会費の額は，総会の議決を経て別に定める。ただし，年度の途中において加入した会員の当該年度の会費の額については，理事会において定めることができる。

（脱　退）

第9条　会員は，本会を脱退しようとするときは，書面をもって会長に届出ななければならない。

（資格の喪失）

第10条　会員は次の各号の1に該当するときは，その資格を失う。

(1)　死亡したとき
(2)　解散したとき
(3)　除名されたとき
(4)　脱退の届出があったとき

（除　名）

第11条　会員が次の各号の1に該当するときは，総会の議決により除名することができる。

(1)　本会の名誉をき損し，または本会の趣旨に違背する行為があったとき
(2)　会費の納入を怠ったとき

第3章　役員，顧問及び参与

（役　員）

第12条　本会に次の役員を置く。

会　　長	1名
副 会 長	5名以内
常任理事	10名以内
理　　事	（会長，副会長及び常任理事を含む）45名以内
監　　事	2名

2　会長，副会長および常任理事は民法上の理事とし，監事は，民法上の監事とする。

（選　任）

第13条　会長，副会長，常任理事，理事及び監事は総会において会員並びに会員たる法人または団体の役員及び観光事業に関係の深い者のうちから選任する。

2　前項により選任された者のうち，その者の役職をもって選任されたものについては，その役職を離れたときは，本会の役員を退任したものとみなし，それらの職

についての後任者は本会の役員に選任されたものとみなす。

（任　期）

第14条　役員の任期は，いずれも就任後第２回目の通常総会終了の日において満了する。

2　役員は再任を妨げない。

3　補欠によって就任した役員の任期は前任者の残任期間とする。

4　役員は，任期が満了しても後任者が就任するまでは，その職務を行う。

（職　務）

第15条　役員の職務は次のとおりとする。

2　会長は，本会を代表し，会務を総理し，会議の議長となる。

3　副会長は，会長を補佐し，会長事故あるとき，または欠けたときは，あらかじめ会長の定めた順位によってその職務を行う。

4　常任理事は，会長の指揮を受け，常時会務に従事する。

5　会長，副会長ともに事故あるときはあらかじめ会長が定めた順位によって常任理事がその職務を代理する。

6　監事は，本会の財産及び会務執行の状況を監査する。

（役員の資格）

第16条　役員は，いずれも名誉職とする。ただし，常勤の理事は有給とすることができる。

（顧問，参与）

第17条　本会に，顧問及び参与若干人を置くことができる。

2　顧問は，学識経験者の中から理事会の議を経て，会長がこれを委嘱する。

3　参与は，関係官公庁の職員及び学職経験者の中から理事会の議を経て，会長がこれを委嘱する。

4　顧問は，本会の重要事項について，会長の諮問に応ずる。

5　参与は，本会の重要会務に参画し意見を述べることができる。

第４章　会　議

（会議の種類）

第18条　本会の会議は，総会及び理事会とし会長がそれぞれ招集する。

（総　会）

第19条　総会は，通常総会及び臨時総会とする。

2　通常総会は，毎事業年度終了後２カ月以内に招集する。

3　臨時総会は，会長が必要と認めたとき，または会員総数の３分の１以上から会議の目的たる事項を示して請求があったときに招集する。

（通　知）

第20条　会長は，総会を招集しようとするときは，その開催日の５日前までに，総会に付議する事項，日時及び場所を記載した書面をもって、その旨を会員に通知しなければならない。

（総会の議決事項）

第21条　総会においては，本定款に別段の定めあるものの外，次の事項を審議決定する。

(1)　毎年度の事業計画及び収支予算

(2)　毎年度の事業報告及び収支決算

(3)　会費の徴収に関する事項

(4)　定款の変更，解散及び解散に伴う残余財産の処分

(5)　前各号のほか，会長において必要と認めた重要事項

（議決権）

第22条　会員は，総会において各１個の議決権を有する。

2　会員は，委任状により，代理人をもって総会の議決権を行使することができる。

3　前項の代理人は，本会の会員でなければならない。この場合代理人によって議決権を行使する会員は，総会の出席者とみなす。

4　総会は会員総数の２分の１以上の出席をもって成立する。

（議　決）

第23条　総会の議決は，出席会員の過半数により決し，可否同数のときは議長が決する。

（議事録）

第24条　総会の議事については，議事録を作らなければならない。

2　議事録は，議長が作成し，少なくとも次に掲げる事項を記載し，議長及び出席会員２名以上がこれに記名捺印する。

(1)　開会の日時及び場所

(2) 会員数及びその出席者数
(3) 議事の経過要領
(4) 議決した事項及び賛否の議決権数

(理事会)

第25条 理事会は，随時開催し，別に定めるもののほか，次の事項を審議決定する。
(1) 総会に提出する議案
(2) 総会の議決によって委任された事項
(3) 本会の運営に関する重要な事項

2 監事は，理事会に出席して意見を述べることができる。

3 第22条，第23条及び第24条の規定は理事会についても準用する。

4 あらかじめ書面表決によることができる旨を定めて通知した場合は，書面表決することができる。この場合は出席とみなす。

第5章 事務局及び職員

(事務局及び職員)

第26条 本会に，事務局を設け，次の職員をおく。
(1) 事務局長 1名
(2) 主事 若干名
(3) 書記 若干名

2 職員は，会長がこれを任免する。

3 事務局長は，会長の命を受け，局務を掌理する。

4 主事及び書記は上司の指揮を受け庶務に従事する。

5 前各項に規定するもののほか，事務局及び職員に関して必要な事項は，別に規程をもって定める。

(幹事)

第27条 本会に幹事若干名をおき，会長が委嘱する。

2 幹事は局務に参画する。

第6章 会計

(経費)

第28条 本会の経費は，会費，補助金，寄付金及びその他の収入をもってこれにあてる。

(会費の返還)

第29条 既納会費は，いかなる場合においてもこれを返還しない。

(年度)

第30条 本会の事業年度は，毎年4月1日に始まり，翌年3月31日に終わる。

(剰余金)

第31条 毎事業年度の決算において，剰余金が生じたときは，翌年度に繰り越すものとする。

第7章 定款の変更及び解散等

(定款の変更)

第32条 本定款を変更しようとするときは，第22条の規程にかかわらず総会において出席会員の4分の3以上の同意を得，かつ運輸大臣の認可を要するものとする。

(解散及び残余財産処分)

第33条 本会の解散及び解散に伴う残余財産の処分については，総会において出席会員の4分の3以上の同意を得，かつ運輸大臣の許可を得なければならない。

(規程の制定)

第34条 本会の運営について必要な規程は理事会の議決を経て別に定める。

付則

1. 昭和21年4月25日に成立した北海道観光連盟(以下「旧連盟」という。)に属する一切の権利義務，資産及び事業は，本会成立と同時に本会が引継ぐものとする。
2. 旧連盟の正会員及び名誉会員は，第7条の規程にかかわらず本会成立と同時に本会員の正会員及び名誉会員となったものとみなす。
3. 旧連盟の会長，副会長，常任理事，理事及び監事であって，本会設立の際，現にその職にあるものは，第13条の規程にかかわらず本会成立の日において，それぞれ本会の同じ職の役員となったものとみなし，その任期は，本会成立後最初に開かれる通常総会終了の日までとする。
旧連盟の顧問，参与については本会成立の日をもって，その職を解かれたものとする。
4. 設立当初の事業年度は，第30条の規程にかかわらず設立の日から始まる。

創立当時の役員

○会長 町村金五(北海道知事)，**○副会長** 広瀬経一(北海道商工会議所連合会々頭)，杉山義男(日本交通公社北海道支社長)，中島賢蔵(北海道副知

事)，原田与作(札幌観光協会々長) 佐々木徳三郎(北海道旅館環境衛生同業組合理事長)。**○常任理事**　讃良博(北海道商工会議所連合会専務理事)，村林良夫(北海道商工部長)，佐藤哲之助（札幌商工会議所常務理事）森正年（北海道商工部観光課長)，南邦夫(登別温泉観光協会々長)，林孝一(定山渓温泉観光協会々長)，寿原外吉(小樽観光協会会長）野田晴男(上川町長)，伊藤琢磨（北海道バス協会々長)，穴釜升夫(日本麦酒KK札幌支店長）**○理事**　武田員市（国鉄北海道支社旅客課長）荻原延一(北海道商工会議所連合会運輸観光委員長)，舟橋要(札幌商工会議所観光委員長）上杉和一(北海道林務部林政課長)，本間佰（北海道土木部都市計画課長)，岡松成太郎(北海道電力KK社長)，東条猛猪(北海道拓殖銀行頭取)，佐藤貢(雪印乳業KK社長)，佐山励一(富士製鉄KK室蘭製鉄所所長)，早川昇(王子製紙KK苫小牧工場工場長)，萩原吉太郎（北海道不動産KK社長)，柴野安三郎(北海道交通KK社長)，古谷辰四郎(古谷製菓KK社長)，中野以佐夫(北海道新聞社々長)，地崎宇三郎（株式会社地崎組社長)，比内竹太郎(北海道酒類販売KK社長)，内田忠広(交通公社北海道支社営業課長)猪野毛高栄（北海道観光旅行KK社長)，岡田文雄（日本航空KK札幌支店長)，広瀬昇(洞爺湖温泉観光協会々長)，前野与三吉(大雪山国立公園観光連盟会長)，吉田明貞(十勝観光連盟会長)，長井忠典(阿寒国立公園観光協会々長)，吉谷一次（函館観光協会々長)，遠藤熊吉（網走観光協会々長)，藤倉功(温根湯温泉観光協会々長)，高松竹次（富良野芦別道立公園協会々長)，岩倉誠一(登別町長)，高橋清吉(倶知安町長)。**○監事**　中保恭一（旭川観光協会々長)，今井道雄(北海道百貨店協会々長)。

昭和37年度（初年度）事業計画

本道観光振興の目標とされている

○国際観光の振興

○国民健全旅行の振興

○観光シーズンの延長

の達成のために本連盟として昭和37年度においては，関係官公庁，並びに業界団体との緊密な協力の下に，宣伝誘致活動の促進，受入体制の整備，観光観念の普及向上，観光開発の振興促進に関する諸事業を総合計画的に実施することとする。

1. 宣伝誘致活動の促進

道内外観光客の観光意欲に適合する観光対象，施設及び旅行事情等について，国内外に広く積極的な紹介宣伝を実施して飛躍的な観光客の誘致を図る。

とくに秋，冬における観光事情の紹介を強力に実施する。

(1) 宣伝活動連絡会議

(2) 観光宣伝印刷物の作成
（リーフレット，パンフレット，英文フォルダー等）

(3) 宣伝技術講習会の開催
（会員を対象として）

(4) 映画作成及びフイルムの購入備付

(5) 観光客誘致懇談会の開催
（秋冬の誘致対策，道内外関係者を対象）

(6) 新聞，雑誌等への広告

(7) 各種宣伝行事の開催及び参加協力
（観光展，展示会，物産展，その他キャラバン隊派遣等）

(8) 観光写真コンテストの開催

(9) 映画及びスライドの貸出及び上映

(10) 写真の貸出

(11) 博覧会への参加及び協力

(12) 旅行及び交通業者に対する情報の提供

2. 受入体制の整備

観光客の受入体制の充実を図るため，特に従来，閑却視されていた秋，冬における受入と外人客の誘致等を考慮しつつ，接遇の改善，施設整備意欲の醸成，及び国土美化の推進等を強力に実施する。

(1) 接遇の改善

イ．接客サービス講習会の開催

ロ．優良土産品の推奨及び改善向上

ハ．ガイド育成講習会の開催

ニ．従業員の確保と厚生対策

ホ．会議等の誘致調整

ヘ．旅行あっせん業者との連絡協調

ト．来道観光団に対する接過

チ．会員所属観光案内所の活動促進

(2) 施設の整備

イ．観光標識等に対する建設促進

ロ．観光会館建設促進

ハ．冬季受入施設の整備促進

(3) 国土美化の推進

イ．ポスター，パンフレット等による啓蒙宣伝

ロ．紙屑かごの作成配布

ハ．国土美化推進委員会との協調

3. 観光観念の普及向上

観光事業の重要性を広く認識せしめるとともに，観光道徳の高揚を図る

(1) 観光週間協賛行事の実施

(2) 観光講演会の開催（会員，関係企業者等を対象）

(3) 北海道観光五章の普及徹底

(4) 観光啓蒙書の作成

(5) ユース・ホステル運動の促進

(6) 道民職場レクリェーションの適正誘導対策

(7) 観光事業功労者の表彰

4. 観光開発の振興促進

観光事業推進のための基礎資料の整備を図りつつ，国及び道の観光行政に対する建議及び意見の開陳を積極的に実施するほか，各種の調査研究と，観光振興のための基本計画の樹立，関係機関との連絡を密にして観光事業の推進強化を図る。

(1) 地域観光開発の促進懇談会の開催

(2) 観光実態調査の実施

イ．観光客入込調査

ロ．観光便覧の作成

(3) 支部設置及び助成

(4) 日本観光協会との連絡提携

(5) 観光事業推進懇談会の開催（総会，理事会その他）

(6) 機関紙の発行

(7) 会員との連絡協調（事務担当者会議等）

5. その他（過年度繰越事業関係）

昭和36年度からの繰越した次の事業を行う。

（何れも歳入財源繰越）

(1) 観光映画（冬の北海道）作成協賛

(2) 英文フォルダー作成協賛

昭和37年度(初年度)収支予算

(収　入)

科　　目	予　算　額	摘　　要	
	円		円
会　　費	4,980,000	●観光協会関係	1,120,000
		既　会　員	1,100,000
		新　会　員	20,000
		●地方公共団体関係	360,000
		既　会　員	40,000
		新　会　員	320,000
		●産業関係	3,500,000
助成金及び交付金	2,000,000	●道費補助金	
事業協賛費	1,044,000		
本年度事業協賛費	400,000	●英文フオルダー作成協賛金	400,000
過年度事業協賛費	644,000	●観光映画作成協賛金	360,000
		●36年度英文フオルダー作成協賛金	284,000
雑　　収　　入	90,000	●写真提供料	70,000
		●預金利子等	20,000
計	8,114,000		

(支　出)

科　　目	予　算　額	摘　　要	
	円		円
事務局費	1,685,000		
人　件　費	658,000	●職員給料	456,000
		(男子1人30,000円×10月＝300,000円 女子1人13,000円×12月＝156,000円)	
		●諸手当	202,000
事　務　費	777,000	●旅　費　250,000円　●消耗品費　20,000円	

科　　目	予算額	摘　　要	
	円	円	円
		●食糧費　30,000	●印刷費　60,000
		●通信費　120,000	●備品費　80,000
		●借損費　217,000	
会議費	250,000	●総会役員会経費	
事業費	5,625,000		
宣伝誘致費	2,360,000	●観光宣伝活動連絡会議	15,000
		●宣伝印刷物作成	750,000
		●観光宣伝誘致懇談会開催	200,000
		●各種宣伝行事の開催、参加及び助成	300,000
		●宣伝技術講習会の開催	100,000
		●映画作成及びフイルム購入備付	700,000
		●新聞雑誌等への広告（新観光地の紹介）	100,000
		●観光写真コンテストの開催	85,000
		●写真の提供	30,000
		●博覧会への参加及び協力	80,000
受入体制整備費	1,200,000	●接遇の改善	655,000
		●接客サービス講習会の開催	150,000
		●優良土産品の改善向上（会議及び指導）	50,000
		●ガイド育成講習会の開催	50,000
		●従業員確保及び厚生対策	30,000
		●会議等の誘致調整	200,000
		●旅行あつ旋業との連絡協調	20,000
		●来道観光客歓迎費	155,000
		●施設の整備	220,000
		●観光標識等の建設助成	200,000
		●観光会館建設促進対策費	20,000
		●国土美化運動の推進	325,000
		●ポスター、パンフレットによる啓蒙宣伝	50,000
		●紙屑籠の作成配布	225,000

科　　目	予算額	摘　　要	
	円		円
		●国土美化推進委員会負担金	50,000
観光観念普及向上費	200,000	●観光週間協賛行事の実施	50,000
		●観光講演会の開催	50,000
		●観光啓蒙書の作成	50,000
		●観光事業功労者の表彰	10,000
		●職域リクリエーションの適正誘導対策	40,000
観光開発促進費	1,865,000	●地域観光開発促進懇談会開催	70,000
		●支部及び支所設置	950,000
		●観光実態調査	580,000
		●観光客入込調査	280,000
		●観光便覧の作成	300,000
		●機関紙の発行	150,000
		●会員との連絡協調	115,000
負担金	150,000	●日本観光協会負担金	
		●北海道商工会議所会費	
繰越事業費	644,000	●観光映画作成協賛金	360,000
		●36年度英文フオルダー作成協賛金	284,000
予備費	10,000		
計	8,114,000		

20年の事業活動

37年度　昭37.4～38.3

〔総括的事項〕○5／25登別温泉登別国際観光会館で第17回定期総会開催，「社団法人北海道観光連盟」の設立を決議。7／25運輸省に社団法人許可申請，9／27付社団法人許可，11／26社団法人登記完了。○6／6仙台市で開かれた第4回日本観光協会総会に出席。

〔宣伝誘致〕○英文フォルダーHOKKAIDO，リーフレット北海道（2種類）作成。○国鉄道支社，毎日新聞社と共催で第4回観光写真コンテスト実施。○日本経済新聞社と共催，東京で北海道展開催。○国産品普及向上道地方本部と共催で第1回郷土産業と観光まつり実施。○道・国鉄主催の観光展「北海道の秋と冬」（東京，大阪，名古屋，京都，神戸），朝日新聞社主催の北海道開発展（東京），北海道新聞社主催の写真道展（札幌，東京），北海道民芸品展示即売会（札幌・旭川），道外における「北海道の観光と物産展」（東京，大阪，名古屋，横浜，福岡，京都，新潟，酒田，宇都宮，岡山），北海道観光コース愛称募集，などの行事協賛。○映画「続北海道」の作成協賛およびプリントの作製。

観光写真コンテスト入選作品

〔受入体制整備〕○2／23～24登別温泉で「冬の北海道を語る座談会」開催。○国土美化運動協賛と紙くずかごの作製配付。○道内主要観光地17カ所でサービス講習会実施。○千歳空港ターミナル内に観光案内施設および観光の窓設置。○ニセコ積丹地区（9月），富良野芦別，厚岸地区（10月）の観光地診断に協力。○来道観光団に対する接遇。

〔観光観念普及向上〕○9／20～23札幌と小樽市で観光学会開催。○3／19～20朝日新聞社と共催で北海道観光振興セミナー開催。○3／4～6北海道友の会と観光産業映画と講演会共催。

〔観光開発促進〕○3／1道物産斡旋東京事務所，大阪商工事務所内に支所を設置。○支部の設置促進。○11／12～17鹿部，昆布，豊富，層雲峡，網走市で地域振興打合会議開催。○3／19地域観光振興団体事務担当者会議開催。○機関紙「道観連情報」№101～103発行。○観光施設便覧の作成配付。○観光実態調査の実施協力。

38年度　昭38.4～39.3

〔総括的事項〕○5／17理事会開催，総会提出議案その他審議。○5／24函館市湯の川温泉明月園において第2回定期総会開催。○7／11理事会開催，会員から要望のあった観光施設に関する融資促進について，橋本道議会商工労働委員長より上京折衝報告があり，新役員紹介のあと，今後の事業実施計画等について協議。○11／15常任理事会開催，事業実施の中間報告，会員の加入および脱退の承認，讃良常任理事の欧米視察報告などがあった。○6／5高松市で開かれた第5回日本観光協会総会に出席。○8／26岩内町で開かれ

社団法人となって初の総会（函館） 38・5・24

た日本観光協会道支部総会，3／4札幌で開かれた同支部臨時総会に出席。○3／27東京で開かれた社団法人日本観光協会創立総会に出席。

〔宣伝誘致〕○リーフレット北海道，パンフレット秋の北海道・冬の北海道，バス道路図，冬のポスターHOKKAIDO，北海道の旅・道南観光圏を作成，配付。○道，国鉄と共催により東京，大阪，名古屋，京都，福岡で観光展「北海道の秋と冬」開催。○道，参加各市，道物産協会などと共催により東京，大阪，横浜，京都，福岡，名古屋，新潟，仙台で北海道の物産と観光展開催。○道，国鉄，毎日新聞社と共催で第5回観光写真コンテスト実施。○トランスポーテーションクラブと共催，東京で「北海デー」開催。○道と共催，宇都宮市で第2回北海道の観光と物産展開催。○道商工会議所連合会，国産品普及向上道地方本部，優良道産品推奨協議会，道物産協会と共催で第2回郷土産業と観光まつり開催。○国鉄道支社，道内各鉄道管理局と共催，東京で北海道観光展開催。○その他会員の主催する観光まつり，観光土産品展，観光写真コンテストなど協賛。○観光映画「ひがし北海道」作成。

〔受入体制整備〕○道内主要観光地32地区でサービス講習会実施。○10／22～11／1層雲峡，温根湯，弟子屈，登別，湯の川，定山渓で「観光客を親切に迎える運動」地方研究協議会開催。○1／22～24札幌でバスガイド指導者研修会開催。○2／12札幌で観光土産品の改善を語る座談会開催。○3／17～18札幌で郷土料理研究会開催。○10／9～12然別湖で北海道の秋と冬を語る座談会開催。○10／17札幌で「外人からみた北海道の観光を語る座談会」開催。○5／1～31春の月間，10／1～31秋の月間，国土美化運動実施。○松前・江差，伊達，南富良野，知床半島地区の観光地診断に協力。○来道観光団に対する接遇。

〔観光観念普及向上〕○観光啓蒙書として観光基本法，観光振興施策概要，観光便覧を作成領布。

〔観光開発促進〕○支部の設置促進(渡島，留萌は6月，上川，宗谷は7月，胆振は9月に支部が設置され，他地区もそれぞれ設置の機運にある)。○8／10～12様似町と旭川市で地域観光振興打合会議開催。○8／18～20，10／13～15の2回にわたり層雲峡観光客動態調査実施。○機関紙「北海道の観光」№104～108発行。

39年度　昭39.4～40.3

〔総括的事項〕○4／23理事会開催，総会提出議案その他審議。○5／8虻田町洞爺湖温泉ホテル万世閣において第3回定期総会開

催。○8／17常任理事会を開き，総会決議事項の処理ならびに道観連の強化対策等について審議。○10／7常任理事会を開き，本年度事業実施中間報告，北海道観光の当面する重要課題等について審議。○11／24常任理事会を開き，昭和40年度事業計画及び収支予算について審議。○1／22理事会を開き，40年度事業の重点方針，本連盟の道費補助金増額折衝その他について審議，○5／20札幌で開かれた第1回(社)日本観光協会総会に協賛。7／14天人峡温泉で開かれた日本観光協会道支部総会に出席。

〔観光事業の推進〕○10／7常任理事会のあと道議会商工労働委員ならびに道当局との懇談会を開き，当面する本道観光の課題について善処方要望。○8／28札商ビルで産業関係会社団体の参集を求め，本道産業観光振興の諸問題について協議。○9／22支部事務局長会議開催。○9／12自民党道連合会と政策懇談会を開き，観光振興について議会側の協力を要請。○道，日本観光協会道支部と共催により11／6登別温泉（道南・道央),11／9旭川市（道東・道北・大雪山）で観光事業振興地域別打合せ会を開く。○支部，支所の設置促進ならびに事業活動を強化する（38年12月釧路支部が結成され,本連盟支部は渡島，留萌，胆振，宗谷，上川，後志，根室，桧山，釧路に,支所は東京，大阪となる)。○3／3～4社会福祉会館,西門会館,中小企業会館の各会場で観光一般，郷土料理，バスガイドの部門に分かれ北海道冬季観光大学を開催。○6／9～11，7／6～9の2回にわたり，本連盟が主体となって道議会議員,道関係者,本連盟役員及び市長会，町村会，道商工会議所連合会などの関係者が上京，中央関係省庁に対し本道の国際観光ルートの設定について陳情した。この機会に，更に観光施設に対する北海道東北開発公庫の投融資の拡大強化についてもあわせて陳情。また7／24運輸大臣松浦周太郎氏，7／27運輸省観光局長木村睦男氏来道を機会に同趣旨の陳情を行う。

〔観光宣伝活動の推進〕○リーフレット北海道，英文フォルダー（国際観光振興会と共同作成)，パンフレット北海道,パンフレット「秋の北海道」，バス道路図,冬のポスター「楽しい北海道」（国鉄，日観協と共同製作)，パンフレット「冬の北海道」，ポスター「北海道」（道，札鉄と共同製作)，観光カレンダー，後志観光連絡協議会より依頼のポスターを作成。○道，国鉄道支社，北海道新聞社と共催により次の日程で観光展を開催した。8／7～12東京都白木屋（座談会8日）8／19～23大阪市高島屋(座談会20日)，8／28～9／2名古屋市名鉄百貨店，9／10～15福岡市玉屋，9／30～10／5仙台市丸光。○毎日新聞社と共催でスズラン祭りを実施，6／1から東京，大阪，名古屋，京都，福岡，北九州を11日間にわたり歴訪,知事,市長のメッセージとスズランの花束を各知事，市長および北海道ゆかりの人々に手渡した。東京では津軽華子さんはじめオリンピック関係者も訪れ，北海道の香りをプレゼントして北海道観光使節の大役を果たした。

○国鉄道支社，日観協道支部，毎日新聞社と共催で第6回観光写真コンテスト実施。応募点数は白黒の部501点，カラーの部1,004点を数えた。○道，国鉄道支社，毎日新聞社と共催，北海道のよさを一口に表現する，観光北海道のキャッチフレーズを全国的に募集。○国鉄道支社，毎日新聞社と共催，5／19～24札幌丸井デパートで過去5回の観光写真コンテスト入選作に各地のカラー写真を織り込んだ，約100点の北海道観光写真展を開催。○道，道貿易物産振興会，道商工会議所連合会，参加各市などと共催，11／10から東京，横浜，大阪，京都,仙台,新潟,鹿児島，福岡，名古屋で北海道物産と観光展を開催，カラーコルトン100枚,カラー写真20枚,白黒写真120枚を展示したほか，懇談会，観光相談所の設置,観光映画の上映など実施した。○11／13～18まで東京白木屋で開催の関東以北のスキー・スケート展に国鉄道支社とともに参加，道内のスキー・スケート場はじめ交通案内図板，カラー写真,カラーコルトンなど出品,さらに

観光相談所も開設してＰＲした。

○札幌観光協会と共催，道外客の誘致と先進観光地の受け入れ体制を調査のため，第１班（12名）は９／24～30の日程で東京（懇談会開催），横浜（同），伊東，下田，修善寺，富士吉田へ，第２班（12名）は11／29～12／５の日程で大阪（同），京都，和歌山，白浜（同），勝浦，鳥羽，名古屋（同）へ北海道観光客誘致調査団を派遣した。○２／８道，国鉄道支社と共催，ニセコで「北海道の秋と冬を語る」座談会を開く。東京から藤本東一郎（画家），柞木田竜善（読売新聞社），為国保（山と溪谷社）山下喜一郎（同），小林恵子（スキー観光団），津村彰（道東京商工事務所次長）の６氏が出席，いろいろな意見が出された。

〔受入体制の整備〕○生産技術の向上と市場価値の高揚，販路拡大のため，道，道商工会議所連合会，札幌市などと協力，４／14～19札幌丸井百貨店で第５回北海道観光民芸品展示会を開催。○道物産興社，道と共催で２／７～９道内各地から集まった観光土産品販売業者と観光土産品改善懇談会開催。○道内主要観光地38地区でサービス講習会実施。○東京オリンピック時に来道する外人客のため，関係機関と協力して善意通訳運動を実施，道内で750名の応募を得た。また，来日する外人客をできるだけ多く北海道に誘致するため外客誘致連絡協議会を設け，４／８東京丸の内ステーションホテルにJATA会員27名を招いて外客誘致懇談会を開き，道内の受入体制，外人向モデルコースなどを説明，本道への送客について協力を要請した。さらに８／７～10JATA会員29名を招へいして道内各地を案内，最終日札幌で懇談会を開催した。

○観光客を親切に迎える運動推進のため，広報活動のほか，地方における本運動の具体策について道内５カ所で研究協議会の開催，標語の募集，モデル地区の設定，記章の配布，団体・個人の表彰など実施した。○美しい環境でオリンピックを迎えるため，新生活運動委員会，日観協道支部などと協力し，次の運動の普及徹底を図った。①「旅の新生活運動」の実施②「郷土美しくするみんなの集い」の開催③オリンピック郷土美化沿道祭の実施④プレート「よごさぬように美しく」の作成。○道が実施した積丹町（７月），泊村（同）道北地区（９月），日高沿岸地区（10月）の観光地診断に協力。

〔調査研究事業〕○７／25～27道，登別町，登別温泉観光協会と共催で，登別温泉地区の観光客の動態，観光消費額の調査を実施した。

〔機関紙の発行〕○機関紙「北海道の観光」№109～113号を発行。

40年度　昭40.4～41.3

〔総括的事項〕○５／７常任理事会，５／11理事会を開き通常総会提出議案その他審議。○５／21東川町天人峡温泉ホテル天人閣において昭和40年度通常総会開催，新年度事業および収支予算，会費の増額と調整，定款の改正など各案を決め役員改選を行う。新会長に広瀬経一氏を選出，常任理事10名を15名に増員する。○７／12常任理事会を開き，専門部会として総務（林孝一部会長ほか９委員）開発振興（讃良博部会長ほか11委員）宣伝誘致（津田欣一部会長ほか11委員）部会の設置および各部会に付託される事項など審議。○総務部会（８／30，９／16，10／19）で道観連の組織強化，41年度会費の増額と調整，道助成金の増額要請，観光総合案内所の設置促進，支部支所の運営について，開発振興部会（９／１）で総会時における各種要望事項の処置，地域観光振興対策について，宣伝誘致部会（８／26，９／15）で観光土産品店推奨制度の実施，観光宣伝印刷物，誘致対策などについて審議。

○９／22理事会を開き，当面する重要課題の検討，関係機関に協力方要請。○10／25支部事務局長会議を開き，支部の運営，41年度事業，会員および会費増方針などについて審議。○12／27常任理事会を開き，41年度事業計画および収支予算，観光総合案内所の設置

などについて審議。○1／19常任理事会を開き，41年度重点事業方針，収支予算，観光総合案内所の設立計画などについて審議。○本道の観光総合案内所を東京の都心に，また受入体制の一環として，道観連事務局が入居を予定している道経済センターに札幌案内所を設置すべく，関係機関および関係業界代表と数度にわたり協議を行う。○5／31福岡市で開かれた日本観光協会総会，7／1網走市で開かれた同協会道支部総会に出席。○その他会員，関係団体主催の会議，行事などに参加。

〔**観光振興推進**〕各市町村の要請に応じ，日本観光協会の協力を得て次の地域の観光診断を行った。今金町，瀬棚町，島牧村，寿都町，占冠村，愛別町，標津町，紋別市，苫小牧市，豊浦町。○道議員と政策懇談会（10／30），また観光議員連盟との懇談会(11／19)などを開き，関係業界や各地域の当面する課題や諸問題を訴え，本道の観光振興のため道の強い行政指導と助成を求めることに対し積極的な協力を要請した。○道と観光事業地区別打合せ会議（ブロック会議）を次の日程で開き，①41年度の重点事業②会員の増強および会費の増額調整③新年度協賛事業等について協議した。道南(11／8江差)，道央（11／10雷電)，道東(11／11十勝川温泉)，道北(11／13留萌)。

○40年9月，道が立案した「北海道観光振興基本方策」にこたえ，打合せ会議，推進会議，専門部会等に参加あるいは開催すると同時に，振興対策または基本方策と積極的に取り組み，とりあえず準備段階として各種資料の収集などを図る。○事業活動強化と運営を円滑にするため，支部，支所の設置促進を図ってきたが，年度内に十勝（7月)，日高(同)，網走（同)，空知（12月）の設立により，全支部，支所の設置が完了した。

〔**宣伝誘致活動**〕○道内各地の紹介と誘致活動強化のため，パンフレット「北海道」・「秋の北海道」・「冬の北海道」を作成配布した。また地域関係団体の協賛により，ポスター「北湯沢温泉」，「雷電海岸」，英文フォルダー「HOKKAIDO」，観光カレンダー，パンフレット「北海道の旅」（道南編）を作成。○道，国鉄，毎日新聞社と共催，7／12～9／28次の5会場で観光展「北海道の秋と冬」開催。東京(高島屋)，大阪（同）名古屋（名鉄)，福岡（玉屋)，青森(松木屋)。○毎日新聞社と共催で，3名のミススズランを選び，使節団を編成して東京，大阪，京都，名古屋，福岡，北九州の各市を訪問（6／7～17）道知事，札幌・函館両市長のメッセージとスズランの花束を各都県知事，市長はじめ本道ゆかりの人たちに贈呈した。○秋と冬の観光展開催を機会に，東京会場（7／27～8／1）で「北海道観光まつり」を開催，主要観光地の郷土民芸品や味覚などを紹介，アトラクションとして北海盆歌，ソーラン節，カッパおどり，アイヌ舞踊を披露した。

○観光ポスターの資質向上をねらい，各地で作成した観光ポスターのコンクールを開催（3月)，審査の結果次の作品が入賞した。金賞（該当なし)，銀賞「阿寒」(阿寒観光汽船)，同「層雲峡」(層雲峡観光協会)，奨励賞「くしろ」(釧路観光協会)，「大沼」(七飯町)，「登別温泉」(登別温泉観光協会)，「積丹と雷電へ定期観光バス」(中央バス)，「ましけ」(増毛町観光協会)。○観光リーフレット，パンフレット等の資質向上を図るため，これら印刷物のコンクールを開催したが，金賞，銀賞の該当作品がなく，奨励賞として，「くしろ」(釧路市，同観光協会）など8点が選ばれた。○道，国鉄道支社と共催で，秋と冬の観光ポスターの原画を広く全国から募集した（9月)。○道，国鉄道支社，毎日新聞社と共催で第7回観光写真コンテストを実施。審査の結果，白黒の部で特選5点，入選40点，カラーの部で推せん1点，特選4点，入選40点を選ぶ。○10／22～24山と旅の北海道出版㈱と共催，札幌の勧銀ビルで「北海道冬山と観光展」開催。

〔**受入体制の整備**〕○道，札幌市，道貿易物産振興会，道商連らと共催，5／11～16札幌丸井百貨店で第6回観光土産品展示即売会

を開く。出品約4,000点，道観連会長賞は大雪創木社（留辺蘂町）の「上向ピリカ」に贈られた。○４月上旬から７月中旬にかけ，主な観光地の接客従業員を対象に道内５地区でサービス講習会を実施した。○４～５月（準備啓発期間）６月（強調月間）７～９月（実践強化期間）間に「観光客を親切に迎える運動」が展開されたが，実践者の中から５団体，７事業所，11個人を選び，２／７ローヤルホテルで表彰式を行った。

○観光土産品推奨制度の推進。土産品に対する苦情一掃のため，品質の改善と販売の適正化を図って計画されたこの制度は，宣伝誘致部会で検討され，具体策は小委員会（１／18，２／14）に付託した結果，３／９に観光土産品推奨委員が発足同委員会規程を作成して会長に村林良夫氏（道商工指導センター副会長）を選んだ。なおこの制度は41年度から実施になる。

○２月上旬，スキー観光団の一員として「旅」「新ハイキング」「岳人」「山と渓谷」「ブルーガイド」各誌の記者を招へい，主要スキー場を案内して感想や要望を聞くのとあわせ，本道のＰＲを要請した。○道，全日空，国鉄，日観協道支部と共催で，大手旅行業者として日本交通公社はじめ９社の第一線幹部クラス32名を招き，札幌～定山渓～網走～層雲峡～旭川～札幌のコースで案内，感想や要望をまとめるのとあわせ，冬季間の送客について協力を要請した。○２／23～25日観協道支部と共催，札幌の中小企業会館で観光冬季大学を開く。講師は鈴木忠義東大助教授ら７氏，助言者は横山勝義国鉄道支社長ら４氏で，観光関係者50余名が受講した。○観光列車エルム号（５月），スズラン観光団（６月），ソ連観光団（10月）など来道観光団に花束贈呈。

〔調査研究等の実施〕○10／27～11／５の日程で先進観光地である九州一円の調査と，南から北の国北海道への誘致を兼ねた誘致調査団（河合佐治三愛観光常務）を派遣。福岡と宮崎市で懇談会を開いた。○10／20～22地元観光協会の要請により道が実施した洞爺湖温泉の消費額調査に参加。○10月に開通した日勝道路（日高町～清水町）の視察会（11／１）に参加。○道などが主催した冬季観光視察団に参加，山形，長野，新潟各県の冬季観光状況を視察した。○洞爺湖水まつり，登別地獄まつり，大沼雪と氷の祭典，さっぽろ雪まつり，網走流氷まつり，旭川冬まつりなど各地の行催事を視察，資料の収集など図る。

〔機関紙の発行〕○機関紙「北海道の観光」№114～118号発行。

九州へ誘致調査団派遣

41年度　昭41.4～42.3

〔総括的事項〕○４／12常任理事会を開き理事会および通常総会提出議案審議，４／28同総会提出議案審議。○５／10理事会を開き通常総会提出議案審議。○５／19阿寒町阿寒湖畔ニュー阿寒ホテルにおいて昭和41年度通常総会開催。40年度事業報告，同収支決算承認に次いで41年度事業計画及び収支予算決定，定款改正で理事70人，常任理事25人に増員，専務理事をおくこととする。○８／９理事会を開き専務理事，増員の常任理事選出，各専門部会付託事項などの審議。○８／10常任理事会を開き専門部会の構成について審議，会費額決定。○２／22常任理事会を開き臨時総会の開催を決める。○３／18札幌グランドホテルにおいて臨時総会を開いて，42年度事業方針および予算構想について審議，暫定予算の決定。引き続き「北海道の観光をさ

かんにする全道大会」開催。

○各専門部会　5／14総会提出議案について，8／10付託事項について，11／7新年度事業構想と観光案内所の運営について総務部会を，8／10付託事項について，11／2会員要望事項について開発振興部会を，8／10付託事項について，11／15スキーと温泉展開催，冬まつり行事の助成について宣伝誘致部会を開く。○観光総合案内所運営委員会　5／17，7／20通常委員会を，9／2常任委員会を開く。○9／5支部事務局長会議を開き，冬季観光行事の育成，広域宣伝印刷物の作成，新年度重点事業，組織強化などについて審議。

〔観光事業の推進〕○通常総会で採択された会員提案事項，その後会員から提出された要望事項について，専門部会等で整理検討の結果，それぞれ関係機関へ提出して実現方を強く要請した。○9／6道議会において自民党観光議員連盟と会談，本道観光の現状と当面の課題について説明，開発振興について積極的協力を要請した。○道観連役員と観光議員連盟役員と本道の観光開発について懇談会を開き振興策について要望書を提出。○地域観光開発のため，地元の依頼により雄武町の観光地診断実施。○10／20地域観光推進団体と協調を図るため，観光事務担当者会議を開く。○冬季観光振興対策推進協議会として，次の部会に参画。4／26資源受入部会，4／28宣伝部会，5／23冬季振興部会，7月各部会，各地冬まつり日程調整。○次の日程で41年度観光事業地区別打合せ会議を開く。11／22道北，11／24道東，11／29道南，12／1道央。○11／25在道物産斡旋機関連絡協議会と観光交流懇談会開催。

○支部及び関係団体との協調　支部および関係団体の行事などに積極的に参加，親睦を深めると同時に各団体の動向や各地域の事情掌握に努めた。本年度に役員および事務局担当者が参加または出席した行事次のとおり。4／8日高支部観光振興会議（日高支庁），／21日観連札幌支部総会（洞爺）／22上川地方管内観光連盟総会（旭川），／24層雲峡観光協会総会（層雲峡），／26札幌観光協会総会（札幌），5／16道旅館環境衛生同業組合総会（札幌），／25中小企業対策連絡協議会（札幌），／31日本観光協会総会（広島），6／16日本観光協会道支部総会（帯広），／24日本温泉協会総会（登別），／24胆振支部総会（北湯沢），7／8第20回洞爺湖水まつり（洞爺），／11渡島支部総会（恵山），／16第2回ポロト湖水まつり（白老），8／5定山渓かっぱまつり（定山渓），／8札幌観光協会創立30年記念式（札幌），／27登別温泉地獄まつり（登別），9／5観光北海道を語る懇談会（札幌），／9中小企業対策連絡協議会役員会（札幌），／19道央3温泉修学旅行協議会（札幌），／30道東4支部観光連絡協議会（十勝川），／30中小企業対策連絡協議会総会（札幌），10／13温泉旅館部会総会（十勝川），／20層雲峡冬季誘客懇談会（札幌），／27札幌観光協会の修学旅行誘致報告会（同），／28羊ケ丘展望台視察会（同），11／1ソ連観光団歓迎会（同）／30渡島支部総会，同観光振興懇談会（函館），12／2観光民芸品改善懇談会（札幌），／9テイネオリンピア国鉄バスセンター落成式，2／10日本観光協会道支部連絡会議（札幌）。

○冬季観光対策として，①冬季サービス料金の実施推進②各地冬まつり行事の日程調整に協力③冬まつり行事（17地区）に助成金交付。○3／23～4日観協道支部と共催で，各地域観光関係団体の宣伝業務担当者を対象に観光写真セミナーを開く。

〔観光宣伝活動の推進〕○宣伝印刷物の作成　本道観光の総合的ＰＲのため，道の助成を受け広域観光宣伝印刷物を作成することになり，各地との協賛事業も含め次の印刷物を作成配布した。チラシ「北海道周遊案内」20万，リーフレット「北海道」12万，パンフレット「冬の北海道」4万，同「北海道の観光冬まつり」3万，「北海道観光カレンダー」1万，パンフレット「HOKKAIDO」3万，ポスター「冬の北海道」3,000，同「北海道観光冬まつり」3,000，同「春の北海道」2,000，同「秋の北海道」（車内吊）5,200，同「北海道

観光夏まつり」3,000，パンフレット「日勝道路」3万2,000，同「ニセコ積丹小樽海岸国定公園と中山峠」5万3,000，同「オホーツクの旅」4万，ポスター「小樽海岸」2,000，同「奥尻島」2,000，リーフレット「ひがし北海道」2万，同「ひがし北海道時刻表」8万，同「みなみ北海道」2万，パンフレット「みなみ北海道の旅」1万，リーフレット「大雪山」5万，ポスター「白老」6,500，パンフレット「留萌の観光」2万1,000，リーフレット「とかち」2万4,000，ポスター「積丹半島カブトライン」2,000。

○各種行事の開催　5／1北海道観光大会（札幌），6／29～30北海道観光夏まつり祈願祭(札幌～層雲峡)，第6回観光展「北海道の秋と冬」（7／19～31東京高島屋，8／9～14大阪高島屋，8／26～31名古屋名鉄，9／7～12静岡田中屋，9／24～29高松三越），41年度冬のレジャー展（10／26～11／1東京駅北口コンコース），41年度「北海道の物産と観光展」（11／5～9秋田木内，11／24～12／5仙台丸光，11／15～20東京高島屋，11／12～17横浜同，12／9～14名古屋名鉄，11／22～27京都高島屋，11／22～12／1大阪同，12／1～6福岡玉屋，12／2～8熊本太洋，11／26～12／2鹿児島山形屋，1／14～21那覇同）「北海道のスキーと温泉展」（11／29～12／4札幌丸井百貨店）。○道，国道支社，日観協道支部，毎日新聞社と共催で第8回北海道観光写真コンテスト実施。○道，国鉄道支社日観協道支部，全日空と共催で，大手旅行業者（1／30～2／2）報道関係者（1／29～2／2）49名を招き，冬の本道の観光事情を紹介，感想や要望をまとめるのとあわせ，冬のＰＲと送客について協力を要請。

〔受入体制の整備〕○観光土産品店推奨制度の実施　優良土産品店として，本年度において136店を推奨店として登録した。（申請件数156，推奨店136，保留店11，不適格店9）。○観光土産品公正取引協議会結成にあたり，準備委員団体として北海道協議会結成準備に参画。○観光客の接遇改善のため4月から3カ月間，道内41地区においてサービス講習会を実施。○観光客を親切に迎える運動で，実践者として1団体，6事業所，7個人の表彰を行う。

〔調査研究事業〕○6／23～25渡島支部主催の道南観光地調査研究会に参加。○10／14～15十勝支部主催の新得町トムラウシ地区観光研究会に参加。○8／31～9／2箱根における日本観光協会主催の観光夏季講座受講。○日本観光学会秋季総会に出席，観光地視察に同行（総会10／2小樽，視察10／1～2小樽周辺）。○北海道観光便覧41年版発行。○道内観光協会実態調査書作成配布。

〔北海道観光案内所の開設〕○かねてから本道観光業界の要望であった観光総合案内所は，各方面の協力により6／7東京案内所が，また6／11札幌案内所が開設され，一般観光相談に応じたほかマスコミ関係の取材に協力資料の配布，映画や写真の貸出しなどを行った。とくに東京案内所は本道の総合観光案内の窓口として，①宿泊等の手配連絡②旅行業者等との懇談会開催③後援，協力による団体客の募集④資料の配布⑤資料の作成⑥巡回写真展の開催⑦アンケート調査⑧冬の観光事情紹介のため，関係者の招待，などを実施した。

なお，開設以来初年度の利用状況は次のとおり。利用件数8,007（観光相談4,263件，資料配布3,275件，取材協力220件。映画貸出し48件77本，写真貸出し201件858枚）観光展への協力17件，観光懇談会の開催17回。

〔機関紙および速報の発行〕○機関紙「北

東京案内所はこの年に開設された

海道の観光」№119～123号を発行。○北海道の観光・速報№1～6を発行。

42年度　昭42.4～43.3

〔総括的事項〕○5／20常任理事会，続いて理事会を開き通常総会提出議案審議。○5／26札幌グランドホテルにおいて昭和42年度通常総会開催。41年度事業報告，同収支決算承認のあと，42年度事業計画及び収支予算決定。収支予算については道補助金の額により一部変更する旨の条件付で承認，理事会に付託される。役員改選により会長の広瀬経一氏は再任，定款改正で一名増となった副会長に舟橋要（札幌観光協会長），浅井正敬（道商工部長），鈴木一男（日本交通公社道支社長），佐々木徳三郎（道旅館環境衛生同業組合理事長），伊藤琢磨（道バス協会長），南邦夫（登別観光協会長）の6氏が選任された。○7／14理事会を開き，総会から付託された42年度事業計画及び収支予算について審議，専務理事，常任理事の選出で専務理事に平沢正文氏を選任，また，各専門部会を構成，総務部会長に林孝一氏，宣伝誘致部会長に広瀬昇氏，開発振興部会長に大野直栄氏を選んだ。○同日常任理事会を開き会費額及び総会における会員の提案事項等について審議。

○各専門部会　5／4昭和42年度事業計画について，8／7国際観光旅館に対する道東北開発公庫の融資条件の緩和について，北海道観光大会の開催について，9／11中央関係当局に対する陳情経過報告，北海道大博覧会について，10／20自民党道連支部と政策懇談会の要望事項について，12／5昭和43年度収支予算概算について，2／6大会誘致業務実施について，3／25昭和43年度事業計画及び収支予算案について，ＮＨＫ連続ＴＶドラマ「旅路」の終了お礼について，それぞれ総務部会を開いて審議。8／29観光ＴＶ宣伝，観光大会及び宣伝印刷物について，11／14観光大会，宣伝印刷物，宣伝事業について，1／18キャッチフレーズの審査について，宣伝誘致部会を開いて審議。10／4陳情事項について，12／8陳情事項の処理について，開発振興部会を開いて審議。○観光案内所運営委員会　4／11，10／11道経済センターで案内所事業と今後の運営について審議。○支部事務局長会議　8／9 42年度事業計画及び収支予算，宣伝印刷物の作成，観光展，レジャー展などについて打合せ，2／21観光情報センター，観光便覧作成などについての説明打合せのため，支部事務局長会議を開く。

〔観光事業の推進〕○通常総会で採択された会員提案事項，その後会員から提出された要望事項については，専門部会で検討してそれぞれ関係機関へ提出，要望について実現方を強く要請した。○国際観光旅館に対する北海道東北開発公庫の融資条件緩和について陳情団上京。第1回9／4～5の2日間，第2回11／1に水田大蔵大臣はじめ関係省庁に対し，現行の償還期限10年を15年に，貸付利率8分2厘を7分5厘程度に引下げることについて強く要望した。陳情団の構成メンバーは佐々木徳三郎副会長，平沢正文専務理事，林孝一，薩一夫，広瀬昇，山本正夫各常任理事。○10／23自民党観光議員連盟，10／30自民党政調会と会談，本道観光の現状と当面の課題について要望書を提出，これらの問題について積極的な協力を要請した。○12／15洞爺湖温泉で観光事務担当者会議を開き，42年度事業実施状況や観光展の報告，43年度事業方針及び収支予算の概要案などについて説明。

○冬季観光振興対策として①冬季サービス料金の実施推進②各地冬まつり行事の日程調整③各地冬まつり行事（20地区）に助成金交付，など行った。○地域観光開発のため次の地区の観光地診断をあっせんした。足寄町，音更町，浜益村，女満別町，鵡川町。○地域の観光問題について，地元業界と関係機関・団体との話し合いにより身近な問題を究明し，今後の地域開発をはかるため，2／2阿寒湖畔温泉で地区観光懇談会を開催。○バスガイドの質的向上と，特に本年は開道百年に当た

るため開拓百年の歴史，これに伴う記念行事の内容などについて，観光客に適切なガイドができるよう，道バス協会と共催で2／22～23道バス協会会議室でバスガイド指導者セミナーを開催。○支部及び関係団体との協調　支部及び会員，関係団体の会議，行事などに参加，親睦を深めると同時に各団体の動向や各地域の事業掌握に努めた。

〔宣伝活動の推進〕○本道観光の総合的ＰＲのため，道の助成を受け広域観光宣伝印刷物を作成することになり，各地との協賛事業を含め次の印刷物を作成した。チラシ「北海道の周遊案内」20万，リーフレット「北海道」12万，パンフレット「北海道」1万5,000，同「冬の北海道」10万，同「北海道観光夏まつり」2万，同「北海道観光冬まつり」4万「北海道観光カレンダー」1万，英文パンフレット「HOKKAIDO」5万，ポスター「秋の北海道」「冬の北海道」「花の北海道」「北海道観光夏まつり」「北海道観光冬まつり」各2,000，（以上全道的なものとして作成）。パンフレット「オホーツクの旅」5万，同「サロマ湖」6万，同「ひがし北海道」5万6,000，同「みなみ北海道の旅」1万，同「支笏洞爺国立公園」5万8,000，同「日高の旅」2万3,000，同「宗谷の観光」2万3,000，同「大雪山」7万5,000，同「大雪山国立公園層雲峡」1万8,000，同「サロマ湖と周辺の観光」2万，リーフレット「オホーツクの観光」2万3,000，ポスター「ニセコ高原」「利尻・礼文」「サロマ湖」各2,000，（以上協賛事業として作成）。

作成されたパンフレット類

○各種行事の開催　秋・冬に観光客の誘致をはかるため，7／14～19東京西武，7／28～8／1名古屋名鉄，8／23～27大阪高島屋，8／1～13京都高島屋，9／12～18静岡田中屋，以上5会場で観光展「北海道の秋と冬」開催。7／1層雲峡で北海道「夏まつり」祈願祭。11／1東京神田共立講堂で北海道「観光の夕べ」開催，都民に本道出身芸能人のアトラクション，郷土芸能として登別の北海太鼓，積丹の鰊場音頭の披露，映画「旅路」の試写などで北海道のＰＲを。北海道のスキー場をＰＲし，冬季観光客の誘致をはかるため11／17～22東京西武，12／18～24札幌丸井で「冬のレジャー展」開催。11／3秋田木内デパートを皮切りに道外の主要都市12市13会場で「北海道物産と観光展」を共催。道，国鉄道支社，毎日新聞社と共催で観光写真コンテストを実施。毎日新聞社と共催で5／24～6／1東京，大阪，京都，名古屋，福岡，北九州へスズラン嬢を派遣した。

○札幌市，札幌観光協会と共催で，東北地方へ修学旅行誘致調査団を派遣。○冬季観光客の誘致をはかるため，11／21東京赤坂プリンスホテルで大手旅行業者と懇談会を開き，冬の北海道の観光事情について説明，送客方について協力を要請。○国鉄道支社と共同で，43年3月中17回にわたりＴＢＳから関東一円に，ＴＶスポットにより「春の観光北海道」をＰＲ。○北海道のすばらしさを一口で表現する，キャッチフレーズを毎日新聞社と共催で全国から募集し，2万5千余点に及ぶ応募作品を審査の結果，「雄大な自然のふるさと北海道」を観光北海道にふさわしいものとしてとりあげた。

〔受入れ体制の整備〕○5／17札幌で観光土産品店推奨委員会を開き，推奨店として新しく18店を指定，これで推奨店は昨年と合わせ154店となった。○観光土産品の質的向上をはかるため，道，道貿易物産振興会と共催5／9～14札幌丸井百貨店で第8回観光民芸品展開催。○観光客の接遇改善のため4月か

ら3カ月間，道内32地区においてサービス講習会実施。○道，道新生活運動協議会などと共催，12／2「冬の生活を明るく楽しくする運動」の啓発パレード実施。○道，日観協道支部と共催で「観光客を親切に迎える運動」を推進，この実践者として，2／7札幌グランドホテルで3団体，6事業所，15個人を表彰した。

〔**調査研究事業**〕○積丹半島横断道路及び西海岸航路，支笏湖畔有料道路の調査実施。

〔**機関紙及び速報の発行**〕○機関紙「北海道の観光」№124～126号，北海道の観光速報№7～12を発行。

〔**北海道観光案内所の運営**〕○観光客の誘致では，①全国大会等の誘致対策として，43～44年度に開催される全国大会等について継続調査②大手旅行業者との連絡を緊密化する一方，特に農協関係，全国旅行業協会関係の観光客誘致に重点をおいて実施③旅行業者から宿泊，バス等について予約手配のための照会，仲介を依頼されたのは延べ1万3,796人に及んだ。またバス予約の照会は74台，個人客で旅行業者に紹介したのは1,401人であった。○宣伝活動として，①マスコミの対応に努めたが，特にテレビドラマ（石狩平野，太陽野郎など）への協力，週刊誌，旅行雑誌等への協力に重点をおいてきた②都内近郊での観光展は20カ所を越えたが，これらに資料を配付するほか，とくに重点とした12会場には職員を派遣して案内所を設けた③後楽園で北海道観光ナイターを実施④各種団体，学校等の映画会の開催に協力⑤宣伝マッチ125万個を作成配付⑥学校，デパート等に152枚の写真パネルの貸出し。○案内業務は，開設時の41年度に比べ約3倍の2万3,000件に達した。

43年度　昭43.4～44.3

〔**総括的事項**〕○4／18常任理事会，続いて理事会を開き通常総会提出議案審議。○4／26定山渓温泉ホテル鹿の湯において昭和43年度通常総会開催，42年度事業報告，同収支決算承認のあと，43年度事業計画及び収支予算決定。○各専門部会　5／31観光情報センター運営委員会の設置について，7／23昭和43年度事業中間報告と今後の事業活動について，8／30自民党道連との政策懇談会に提出する要望事項について，12／9昭和44年度収支予算案について，それぞれ総務部会を開いて審議，8／19昭和43年度宣伝誘致事業について，10／25昭和43，44年度の宣伝印刷物，行催事について宣伝誘致部会を開いて審議。○4／11，11／18，1／30観光案内所運営委員会を開き，案内所事業と今後の運営について審議。○支部事務局長会議　5／15本年度事業計画及び収支予算，宣伝印刷物の作成，行催事などについて説明のため，3／27新年度事業について打合わせのため，支部事務局長会議を開く。○観光情報センターの円滑なる運営を図るため，6／26，8／6，9／18，3／14の4回にわたり観光情報センター運営委員会（委員13名）を開く。

〔**観光事業の推進**〕○通常総会で採択された会員提案事項と観光事業の振興を図るための要望事項については，それぞれ関係機関へ要望書を提出するとともに，その実現方を強く要請。○9／4道議会自民党会議室で，本道の観光の現状と当面の課題について要望書を提出，これらの件について積極的な協力を要請。○10／22開かれた自民党観光議員連盟の総会に佐々木，鈴木両副会長が出席，本道観光事業の振興を図るための当面の課題について，提案説明するとともに要望書を提出して協力要請。○12／26札幌グランドホテルで那須正信道副知事と本道観光振興のため当面する諸問題について懇談。○10／3道商工部長と外郭団体との政策懇談会に佐々木副会長が出席，観光事業の振興を図るための諸施策について懇談するとともに，要望書を提出した。○12／12洞爺湖温泉ホテルで観光事務担当者会議を開き，43年度事業の中間報告と44年度協賛事業について説明。○冬季観光振興対策として①冬季サービス料金の実施推進②各地冬まつり行事の日程調整③各地冬まつ

り行事（25地区）に助成金交付，など行った。○地域観光開発のため次の地区の観光診断をあっせんした。士別市，湧別町，佐呂間町，常呂町，士幌町，恵庭町，島牧村。○１／24函館市で，道南地域の観光問題について地元業界と関係機関及び団体の役員などの出席を求め地区観光懇談会開催。○北海道観光情報№25～36号発行。○前年度作成の観光便覧を増刷発行し，関係機関に配付。○日本観光協会道支部主催の冬季観光資源（丹頂鶴，白鳥，流氷）の視察に参加。

〔観光宣伝活動の推進〕○本道観光の総合的ＰＲのため，道の助成を受け広域観光宣伝印刷物の作成と，各地との協賛事業も含め次の印刷物を作成した。ポスター「花の北海道」「秋の北海道」「冬の北海道」「観光夏まつり」「観光冬まつり」計１万1,000，チラシ「北海道の周遊案内」20万，リーフレット「北海道」14万，パンフレット「北海道」１万5,000同「観光夏まつり」２万，同「冬の北海道」10万，「観光冬まつり」６万，英文パンフレット「HOKKAIDO」３万，「北海道観光カレンダー」１万，「観光バス道路図」１万，（以上全道的なものとして作成，計59万6,000部）。チラシ「宗谷の観光」11万5,000，リーフレット「オホーツクの観光」２万3,000同「宗谷の観光」４万5,000，同「ひがし北海道」５万7,500，同「花の北海道」18万2,110，パンフレット「大雪山」３万4,500，同「後志の観光」３万4,500，同「サロマ湖と周辺の観光」２万3,000，同「支笏洞爺国立公園」５万2,000，ポスター「江差」「北湯沢」「北の峯」各2,000，同「白老」「臨海温泉」各5,000，（以上協賛事業として作成計58万2,610部）。

○各種宣伝行事の開催　秋・冬の観光客の誘致をはかるため，７／６～16東京西武，７／26～31名古屋名鉄，８／６～11京都高島屋，８／13～18大阪高島屋，９／５～10千葉奈良屋，以上５会場で観光展「北海道の秋と冬」開催。11／１秋田木内デパートを皮切りに道外の主要都市19市20会場で「北海道の物産と観光展」共催。観光シーズンの延長と春の観光客誘致のため，国鉄，日本観光協会主催の「花の北海道展」を後援，カラーコルトンの展示，リーフレット花の北海道の作成，相談員派遣などで協力。道内のスキー場，温泉，冬まつりをＰＲし，冬季観光客の誘致をはかるため，11／12～17東京高島屋，12／17～22札幌丸井で「冬のレジャー展」開催。６／２北海道神宮で北海道観光「夏まつり」祈願祭。10／14東京大手町サンケイ会館で祝北海道百年「観光の集い」開催，本道出身芸能人のアトラクション，北海太鼓，観光映画「北海道物語」の上映，政治評論家藤原弘達氏の「北海道の観光について」の講演で観光北海道のＰＲをした。

○11／13東京の国際観光会館で，観光客の誘致を図るため都内の私鉄，バス会社を招き本道の観光について懇談会を開いた。○11／27大阪高島屋百貨店に市内の旅行業者などを招き観光客誘致懇談会を開催。○11／28新宿ステーションビルに都内の私立，公立高校の修学旅行担当者を招き修学旅行誘致懇談会を開催。○10／13～20の日程で青森，秋田，岩手の３県に修学旅行誘致調査団（27名）を派遣。○２月から３月にかけ，ＮＴＶから52回にわたり関東一円にテレビスポットによる観光宣伝を実施。

〔受入れ体制の整備〕○観光土産品店協会の設立　観光土産品の質的向上，販売価格の適正化，経営の安定化，その他観光土産品業者の当面している問題の解決を図るためには業者が一丸となった協力体制が必要であり，その組織づくりが各方面から強く要望されていたので，道観連では業者と再三にわたる打合わせを行い，協会の設立を推進してきたが４月16日「北海道観光土産品店協会」の設立をみた。

○６／19道経済センターで観光土産品店推奨委員会を開き，推奨店として新しく８店を指定，これで推奨店は162店となった。○道，道貿易物産振興会と共催，５／14～19札幌丸井百貨店で第９回観光民芸品展開催。○観光客の接遇改善のため，道内28地区でサービ

ス講習会実施。○道，道新生活運動協議会などと共催，「冬の生活を明るく楽しくする運動」実施。○道，日観協道支部と共催で「観光客を親切に迎える運動」を推進，この実践者として3／17札幌グランドホテルで1団体，7事業所，8個人を表彰。○宣伝業務の実際について研修するため，1／28～29道経済センターで「観光ＰＲセミナー」開催。

〔観光情報センターの運営〕○この年は開道百年に当たり，種々の記念行事，各種全国大会・全道大会などが開催されたので，全道的な受入れ体制を広く道内外に周知するため道の重点施策のひとつとして「北海道観光情報センター」が4／17設置された。

道観連がその運営を担当し，道内のホテル・旅館，ユースホステル，貸切バス，航空会社の4月～9月の毎日の予約状況と道路事情その他観光情報を毎週水曜日，地方から札幌の中央センターに送信された情報を集約し，この全情報を編集して印刷物にし，4月～9月にかけ24回にわたり全国の旅行あっせん業者，関係先など約800カ所に送付した。

〔北海道博覧会観光施設の開設〕○6／14～8／18の66日間，札幌真駒内で北海道百年記念「北海道大博覧会」が開催され，道内の各市町村，観光協会の協力を得て，会場の一部に観光と物産館を開設し，観光北海道のＰＲに努めた。

〔観光案内所の運営〕○東京案内所ではまず誘致業務として，旅行あっせん業者及び交通機関関係者との連絡を緊密にし，資料や情報の提供を積極的に行うとともに，新しい旅行商品の開発をすすめ，あるいは手配等に協力して送客を増加してもらうことを，日常業務の最重点として実行してきた。なお，旅行あっせん業者から依頼があって連絡をとったのは，宿泊85件6,441人，バス31件7,500人。また，対象別に7回誘致懇談会を開いたほか全国大会の開催状況を調査し，誘致団体をリストアップして折衝をはじめた。

○宣伝業務では，日刊紙，スポーツ紙及び週刊誌，旅行関係図書あるいはテレビ，映画関係との連絡を密にし，情報提供，取材協力を積極的にして，北海道の観光地が広く紹介されるように努めた。取材関係384件。次に資料・情報の提供では①道内から送付されたパンフレット，ポスターなど約16万部を効果的に配付②「観光情報」12回各40部を報道関係に配付③観光映画の貸出し年間57件97本で観覧人員は1万8,242人④写真の貸出し年間204件1,059枚⑤ポスターの提供は264件，901枚。このほか都内及び周辺都市で開催または協力した観光展は31会場で，このうち9会場に相談員を派遣した。

○案内業務では，年間の観光相談をみると日程2,785人，交通4,131人，宿泊1,950人，その他2,557人で計1万1,423人。資料だけの希望は1万1,036人，宿泊の予約希望は35件，448人で，これらは旅行業者へ紹介した。

○調査業務として，調査または資料をとりまとめて報告したものは10種類であった。

44年度　昭44.4～45.3

〔総会・役員会〕○4／18理事会を開き，通常総会提出議案審議。○4／25札幌パークホテルにおいて昭和44年度通常総会開催，43年度事業報告，収支決算承認のあと，44年度事業計画及び収支予算決定。○5／20理事会を開き専務理事，常任理事を互選，第1回「花の北海道まつり」開催要領を審議。○6／24常任理事会を開き，観光展「北海道の秋と冬」開催計画その他を審議。○8／8常任理事会を開き，花の北海道まつり実行委員委嘱について審議。○9／12常任理事会を開き，観光セミナー開催について審議。○1／21常任理事会を開き，昭和45年度事業計画及び予算編成方針について審議，また春日井専務理事を東京案内所専任とすることを決め，かつ事務局長採用について了解を得る。

○各専門部会　4／2新年度の組織強化について，7／8組織強化策について，9／2寮・クラブ対策特別委員会を設置し，政策懇談

会を開くことについて，それぞれ総務部会を開いて審議，4／2新年度の重点施策について，7／8宣伝誘致業務の基本的あり方について，8／18万博開催時の誘致対策について宣伝誘致部会を開いて審議，7／8開発振興部会を開いて地方観光振興方策について審議。

○観光案内所運営委員会　6／18道経済センターで観光案内所運営委員会を開き，案内所の運営について審議，1／16ホテル丸惣で同委員会を開き，案内所の運営について審議東京案内所に春日井専務理事を専任とすることを決める。

〔観光事業の推進〕○通常総会で採択された観光開発に関する会員の要望，あるいは本道の観光振興上当面する諸問題等について，専門部会等で検討のあと関係機関にそれぞれ要望書を提出，これが実現方を強く要請した。○7／12道警本部防犯部長らと開いた懇談会に佐々木，柴野副会長，林，金川常任理事，春日井専務理事が出席，観光地における風俗営業の規制等について意見を交換し，事故防止などについても指導協力を要請。○9／16各専門部会長及び専務理事が，自民党道連政調会に観光事業推進についての要望書を提出積極的な協力を要請。○2／28定山渓で全道観光事務担当者会議を開き，新年度の観光振興策などについて広く意見を求めた。○6／23標津町において管内市町村，観光協会，関係業者を対象とした根室地区観光振興懇談会を開催，関係機関の助言を受けながら地域の観光開発について意見を交換した。

○地域の観光開発のため，会員の依頼を受け次の7地区の観光診断調査を実施した。中頓別町，神恵内村，名寄市，上砂川町，大滝村，清水町，留寿都村。○各地で催された冬季観光行事振興のため，23行事に助成金を交付。○神恵内村の依頼に応じ，2／24札幌市において関係機関，旅行業者を招き，西積丹地区ＰＲの懇談会を開催。○11／6～10みなみ北海道観光連盟主催の道南観光圏調査研修会に参加。○10／9札幌グランドホテルで，岩切宮崎交通会長，萩原北炭観光開発社長らを講師に「北海道観光セミナー」を開催。○2／15札幌で開かれた，日本観光協会主催の北海道地方観光セミナーに協力。○道内の観光事情を紹介した「45年版北海道観光便覧」を発行。○会員の機関紙「どうかんれん」№127～133号を発行。○主に道外の関係機関，旅行業者，報道機関を対象に，最新の観光ニュースを内容とした「北海道の観光情報」№37～47号を作成配付した。

〔観光宣伝活動の推進〕○本道観光の総合的な宣伝活動強化のため，次の印刷物を作成。ポスター「花の北海道」「4白旅行」「北海道」（国電中吊り）各2,000，同「観光冬まつり」1万，チラシ「北海道へどうぞ」30万，リーフレット「北海道」17万，パンフレット「冬の北海道」15万，英文パンフレット「ＨＯＫＫＡＩＤＯ」3万，「北海道観光カレンダー」1万，「観光バス道路図」1万，ポスター「大雪山」「網走国定公園」「ニセコ高原」各2,000，リーフレット「ひがし北海道」3万，同「宗谷の観光」4万，パンフレット「留萌地方の観光」2万，同「大雪山」2万同「おびひろとかち」4万，同「支笏洞爺」5万，同「サロマ湖とその周辺」，同「道央観光」10万，同「みなみ北海道」3万，同「利尻・礼文」10万，計114万2,000部。

○各種宣伝行事の開催　通年化対策として秋・冬の観光客の誘致をはかるため，7／18～22東京西武，7／25～30名古屋名鉄，8／8～13金沢丸越，8／20～24大阪高島屋，9／4～9千葉奈良屋，以上5会場で観光展「北海道の秋と冬」開催。10／30秋田市木内百貨店はじめ，道外の主要都市23会場（主催12，後援11会場）で「北海道の物産と観光展」共催。春の観光客誘致のため，国鉄道支社，日観協道支部などと共催，2／14～3／1東京会場，3／15～4／　大阪会場，4／18～30名古屋会場で「花の北海道展」開催。

○春の北海道を道内外に紹介宣伝のため，5／31北海道神宮で観光祈願祭，翌6月1日道内の代表的郷土芸能を札幌に集め，第1回「花の北海道まつり」を開催した。当日参加

した郷土芸能は松前の松前神楽，江差の餅つきばやし，積丹の正調鰊場音頭，登別の北海太鼓，札幌のすすきの音頭と定山渓かっぱ踊り，旭川のイオマンテ，白糠の駒踊り，音別のフキまつり音頭，釧路の蝦夷太鼓，網走のオロチヨンの火まつり，の11団体。

第１回花の北海道まつり

本道の冬の美しさ，雄大なスキー場，温泉，味覚などを道内外に紹介し，冬季観光客の誘致をはかるため，11／11～16東京高島屋，11／25～30札幌デパート中心街で「冬のレジャー展」開催，特に本年は道バス協会の協力でバスガイドを派遣，また東京会場ではスキーファッションショーなど催した。11／４東京都内の旅行業者及び報道関係者約400名を八芳園に招いて北海道「観光の集い」を開催。３／25～４／６東京駅ほかで開かれた，国鉄主催の「全国周遊の旅展」に資料の提供や観光相談員の派遣などにより協力，また11／24～29東京駅で催された「全国スキー・スケート展」にも同様に協力。

○日本交通公社と全日空が東京都内の報道関係者20名を本道に招待した機会に，11／26札幌で懇談会を開いて本道の観光事情を説明。神奈川県旅行業協会視察団が来道を機会に，８／24懇談会を開き送客方を依頼。８／20阪急ビルに大阪市内の旅行業者を招いて観光客誘致懇談を開く（15社出席）。 次いで11／５精養軒に横浜市内の旅行業者を招き同様の懇談会を開く（50社出席）。日本交通公社研修旅行団の来道を機会に，札幌で北海道観光の説明会（３回，１回約100名）を開催。道外主要都市に修学旅行誘致も含む，北海道観光旅行誘致団を派遣，旅行業者及び関係者に本道観光の現況を説明し送客を依頼した。第１班10／28～11／１北陸東海地区（新潟，名古屋で懇談会），第２班10／６～９北東北地区（青森，弘前，秋田，盛岡，八戸で懇談会）第３班10／20～25南東北・東京地区（仙台，山形，福島，東京で懇談会）。ほかに，関東地区を対象に２月～３月ＮＴＶから58回テレビスポットによるＰＲ。

〔受入体制の整備〕○観光土産品店協会育成のためその事業に協力したほか，観光土産品の改善のため，道及び協会と共催で弟子屈阿寒，稚内で講習会開催。○観光土産品の紹介宣伝と質的向上をはかり，道，道貿易物産振興会と共催，５／９～13旭川マルカツ百貨店で北海道観光土産品展開催。○前記観光土産品展の入賞作品に新作優秀作品を加え，３／６～11東京小田急百貨店で第１回北海道秀作民芸品展を関係団体と共催。○観光客の接遇改善と安全確保をはかり，旭川市はじめ20市町村でサービス講習会を実施。○冬の生活環境改善のため道，道新生活運動協会と共催で，12月から３月にかけ「冬の生活を明るく楽しくする運動」を実施。○道，日本観光協会と共催で，５月から10月にかけ「観光客を親切に迎える運動」を実施。

〔東京案内所の業務〕○誘致業務では，104社の旅行業者に，観光コース，貸切バス，宿泊等の相談及び予約，手配などについて協力したほか，10／16大雪山観光連盟が主体の修学旅行誘致懇談会開催，６／５全日空と日本交通公社主催の「日本の休日」旅行，６／10国鉄観光号第１陣の出発にそれぞれ花束贈呈。

○宣伝業務では，特にマスコミ関係者との連絡を密にし，情報提供，取材協力を積極化して，北海道の紹介宣伝に努めた。取材関係154件。次に資料・情報の提供では①道内各地から送付されたパンフレット類約19万部配布②観光映画の貸出し年間91本154回で観覧人員は１万1,566人③写真の貸出し白黒177件696枚，カラーネガ101件410　④ポスターの提

供は354件1,248枚⑤写真パネルの提供20件91枚。また，都内及び周辺都市で開催または協力した観光展等の催しは21会場にのぼった。

○案内業務では，年間の観光相談が日程3,295人，交通2,142人，宿泊1,282人，その他1,584人で計8,303人，資料だけの希望は7,780人，郵送による相談は515件に及んだ。

○調査業務では，調査または資料をとりまとめたものは次のとおりである。①国鉄北海道観光号の輸送計画及び利用状況②旅行業者によるスキー団体募集計画数③旅行業者による北海道観光募集計画④旅行業者による北海道観光募集計画に使用するチラシ，ポスターの各社別作成部数⑤旅行業者による秋・冬の観光団募集計画（各社別）⑥国鉄北海道観光号による6，7月の輸送実数⑦秋の都内あっ旋業者の動きについて⑧昭和45年度業者別北海道スキー募集計画⑨日本観光協会による一般旅行客の動向等について（アンケート）⑩さっぽろ雪まつり観光団業者別募集計画・送客実数⑪航空・国鉄（観光号）の塔乗率及び乗車率（各月別）

45年度　昭45.4～46.3

〔総会・役員会〕○5／11理事会を開き，通常総会提出議案審議。○5／19札幌ローヤルホテルにおいて昭和45年度通常総会開催，44年度事業報告，収支決算承認のあと，45年度事業計画及び収支予算決定。10／29常任理事会，続いて理事会を開き臨時総会開催について審議。○12／1札幌グランドホテルにおいて臨時総会開催，定款の改正，会費増額，事務局の強化など体質改善策を決めたほか，役員改選を行い新会長に舟橋要氏（道観連副会長・札幌観光協会長），欠員中の専務理事に斎藤丈武氏（札幌商工会議所常務）を選任した。○3／10常任理事会を開き，45年度収支予算更生，46年度通常総会及び観光事業振興方陳情等について審議。

○各専門部会　5／1通常総会提案事項について，9／30組織体制の強化について，総務部会を開いて審議，5／1本年度関係事業について宣伝誘致部会を開いて審議。

○観光案内所運営委員会　5／11ホテル丸惣で観光案内所運営委員会を開き，東京，大阪案内所の運営，人事等について審議。

〔観光振興事業〕○会員の要望，総会提案事項のうち，本道の観光事業推進についてそれぞれ関係機関に実現方を要請，陳情。○冬季観光振興のため，道内各地で行われた冬まつりなど24行事に対し助成を行った。○地域観光開発として，関係団体の依頼により中標津町，穂別町，岩見沢市，東川町，新冠町，奈井江町，戸井町，洞爺村，江別市，以上9市町村の観光診断調査を実施。○10／22札幌で開かれた道町村会主催の新行政公聴懇談会において，「地域振興方策として観光開発のあり方」について，金川常任理事より提言を行った。○道内の観光事情把握のため，大雪山，洞爺，野幌原始林，斜里スキー場，各地冬まつり等の調査，資料などを収集。○機関紙「どうかんれん」№134～141号を発行。○「北海道の観光情報」№48を作成配付。○44年度事業として作成した「45年版北海道観光便覧」を増刷頒布。○3／22～23洞爺湖温泉で「観光施設セミナー」開催。

〔観光宣伝誘致事業〕○本道観光の総合的な宣伝活動を図るため，次の印刷物を作成。ポスター「花の北海道」「観光冬まつり」「北海道」（国電中吊り・4種類）各2,000，チラシ「北海道周遊案内」30万，リーフレット「北海道」17万，パンフレット「冬の北海道」9万，同英文パンフレット「ＨＯＫＫＡＩＤＯ」3万，「北海道観光カレンダー」1万「北海道観光道路図」1万，パンフレット「大雪山」3万，同「おびひろ・とかち」4万同「十勝」2万，同「サロマ湖と周辺の観光」2万2,000，同「利尻・礼文」8万，同「道央観光」5万，リーフレット「神秘と自然」5万，同「北オホーツクの観光」3万，同「宗谷の観光」5万，同「冬山は招く大雪山観光圏」1万，

○各種行催事の開催及び参加　8／14～17

東京西武，8／19～23大阪高島屋，9／4～9名古屋名鉄，11／6～15千葉奈良屋，11／10～15東京高島屋で，観光展「北海道の秋と冬」開催。12／8～13札幌丸井百貨店で「札幌オリンピックと冬のレジャー展」開催。5／30北海道神宮で観光祈願祭と郷土芸能奉納，翌31日は大通公園で道内の代表的郷土芸能を披露した，第2回「花の北海道まつり」を開催。ことし参加した郷土芸能は松前の杵振舞，江差の餅つきばやし，積丹のソーラン節踊り，登別の北海太鼓，白老のイオマンテ，定山渓のかっぱ踊り，層雲峡の峡谷火まつり音頭，白糠の駒踊り，音別のフキまつり音頭，釧路の蝦夷太鼓，網走のオロチョンの火まつり，の11団体。10／30秋田市木内百貨店はじめ道外の主要都市28会場で「北海道の物産と観光展」共催。道，国鉄と共催で花の北海道キャンペーンの関連事業として，3／27東京都の共立講堂で恵山太鼓，白老のイオマンテなどが出演して「観光大会・花の北海道の集い」を開催。

観光展「北海道の秋と冬」

○観光客誘致対策として，8／14観光展開催中の東京都内で，旅行業者などを招いて観光客誘致懇談会を開催したほか，11／24～29中京，関西地区に一般観光客誘致団を，11／8～15北東北3県に修学旅行誘致団を派遣，大阪・京都・名古屋，五所川原，大館，横手・北上各市で誘致懇談会を開催。

○テレビスポットによるＰＲとして，関東地区（ＮＥＴ），関西地区（読売ＴＶ）を対象に本道の観光地を紹介宣伝した。

〔受入体制の整備〕○観光地におけるサービスの向上を図って，接客業の経営者及び従業員を対象に網走市はじめ，18地区で接遇改善セミナーを開催。○道，道観光土産品店協会と共催で観光土産品店関係者を対象に，洞爺湖温泉，阿寒湖畔温泉，弟子屈温泉，旭川市，稚内市の5地区で観光土産品販売講習会を開催。○道，道貿易物産振興会と共催で，9／8～13札幌丸井百貨店で北海道観光民芸品展を開いたほか新作優秀作品を道外に紹介するため2／26～3／3東京小田急百貨店で北海道秀作民芸品展開催。○札幌オリンピックに来道する外人客に備え，道，札幌市，札幌観光協会などと共催で11月と1月に札幌で善意通訳講習会を開く。

〔道民運動の推進〕○道，日観協道支部と共催，「観光客を親切に迎える運動」として標語ステッカー3種類を作成して全道に配付。○道，道新生活運動協会と共催で，「社会生活のルールを確立する運動」（8／1～31）「郷土を美しくする運動」（春5／1～31，秋10／1～30），「冬の生活を楽しくする運動」(11月～3月）実施。

〔観光案内所業務〕◇東京案内所分　○誘致送客関係では，①観光コース，バス・宿泊相談，予約手配等について各旅行業者に協力②岡山県旅行業協会主催の本道観光団募集について，コースの作成，資料の提供等で協力（700人が4班編成で来道，本部は千歳空港に出迎え，花束を贈呈して歓迎）③本道関係の在京商社（10社）と，5／26観光客の入込み状況などについて懇談会開催④5／1国鉄上野駅に開設された旅行センターの「北海道セール」に各種資料提供，相談員を派遣した。

○宣伝関係では，①各報道機関に情報，資料の提供，取材に協力②道内各地から送付されたパンフレット類13万8,300部，観光ポスター1,725枚配布③観光映画の貸出し48件59回④観光写真の貸出し白黒210件830枚，カラー131件495枚⑤ポスター提供318件1,389枚⑥写真パネル提供12件172枚。また，都内及び周辺都市で開催または協力した観光展等の催

しは16会場であった。

○案内資料提供関係では，観光相談が日程2,049，交通2,481，宿泊1,025，その他1,563の計7,118件，観光資料配付は5,210部におよんだ。

◇大阪案内所分　各種資料や情報の提供等で各旅行業者に協力したほか，2,532件の観光相談に対応，ポスター配布147件961枚，カラーフィルム53件267枚，観光映画34件57枚の貸出しに応じた。

46年度　昭46.4～47.3

〔総会・役員会〕○5／24理事会を開き，通常総会提出議案審議。○同日引き続いて札幌パークホテルにおいて昭和46年度通常総会開催，45年度事業報告，収支決算承認のあと，46年度事業計画及び収支予算決定。○10／27第2回理事会を開き，46年度事業の中間報告と47年度事業計画の審議。○1／28第1回常任理事会を開き，理事会議案審議のあと引き続いて等3回理事会を開いて，46年度予算の追加更正審議。○3／27第4回理事会を開き，第1回ほっかいどう祭り開催の審議。

〔観光振興推進事業〕○総会提案事項，会員の要望等のうち，地域の開発あるいは本道の観光振興についてそれぞれ関係機関に陳情要請。○8／11札幌で観光事務担当者会議を開いたのをはじめ，数度にわたり関係者を招き観光振興について意見を開く。○新しい観光モデルコースとして，国道228，229号を結ぶ広域観光ルートの設定について参画。○札幌市，ニセコ町，上士幌町，日高町，函館市，苫小牧市，大滝村において，地元関係団体と共催で接客従業員，観光関連企業経営者等を対象に接遇改善セミナーを開催。また，温根湯温泉など21地区で実施したセミナーに講師を派遣，経費の一部を助成した。○今後の観光開発について研修のため，3／28～29定山渓温泉において，市町村，観光関係団体，関連企業の管理職・業務担当者を対象に「北海道観光開発セミナー」を開催。○地域の観光開発として次の団体の依頼を受け観光診断を実施。平取町，標津町，三笠市，長沼町，当麻町，清里町，小清水町，滝上町，網走支庁管内観光連盟（サロマ湖周辺），留萌市，尻岸内町。○地域の観光振興のため，次の団体が観光開発宣伝誘致，受入体制の強化を図るなどの目的で実施した事業について助成した。後志観光連盟，胆振観光連絡協議会，十勝観光連盟，網走支庁管内観光連盟，根室観光連盟，宗谷観光連絡協議会。

〔宣伝誘致事業〕○本道観光の総合的かつ多角的な宣伝活動を図るため，次の宣伝印刷物を作成。チラシ「北海道周遊案内」30万，リーフレット「北海道」17万1,000，パンフレット「冬の北海道」9万，ポスター「花の北海道」「冬の北海道」「観光冬まつり」各2,000，「北海道観光カレンダー」1万，パンフレット「大雪山」3万，同「おびひろ・とかち」4万，同「サロマ湖周辺の観光」3万，同「北オホーツクの観光」3万，同「道央観光」20万，リーフレット「後志の観光」5万，同「北・北海道」5万，同「ニセコ」7万，同「北オホーツクの旅」5万，ポスター「根室海峡」2,000。

○冬季観光の振興として，冬季観光資源の開発と地域住民のレク活動の積極化を図るため，帯広氷まつりなど23行事に対し助成。冬の北海道を紹介する観光映画「雪の北海道」（シネスコ・カラー30分）を作成。○観光客の誘致促進として，東京会場で観光展「北海道の秋と冬」開催中の8／17鉄道会館に旅行業者，報道関係その他を招いて誘致懇談会を開催。9／29～10／7東北地方に修学旅行誘致団を派遣，旅行業者，学校関係者などを招き次の各市において懇談会を開いた。弘前，秋田，鶴岡，山形，福島，仙台，盛岡，八戸，青森。

○観光通年化対策として，7／15～21名古屋名鉄，8／13～18東京西武，10／29～11／3神戸そごう，11／23～12／2大阪高島屋，12／2～7福岡玉屋で観光展「北海道の秋と

冬」を開催。10／29秋田市木内百貨店を皮切りに道外の主要都市13会場（後援21会場）で「北海道の物産と観光展」共催。札幌オリンピック冬季大会と冬季の観光客誘致のため，10／29～11／10東京西武，12／7～12札幌三越で「札幌オリンピックと冬のレジャー展」開催。国鉄，日本観光協会の共催で11／8～13東京駅，11／15～28新宿駅で催された全国スキーとスケート冬の旅展に協賛。○冬季観光客の誘致をはかり全日空と共催で，東京都内の報道関係18名を本道に招き，1／18～20主要スキー場，オリンピック施設を視察，終了後札幌で懇談会を開く。○春季の観光客誘致のため国鉄，日観協道支部と共催で，3／25～30東京と大阪で花の北海道のキャンペーン実施。○主要観光地の協力を得て，3／2～31関東地区（ＮＴＶ）を対象にテレビスポットを放映。

東京と大阪で花の北海道のつどい

〔受入体制整備〕○観光通年化対策の一環として道内スキー場・スケート場を調査し，資料として旅行業者その他関係機関に配布。○観光土産品の改善として，道，道観光土産店協会と共催で土産品店関係者を対象に，函館市など道内9地区で観光土産品販売指導者講習会を開催。道，道貿易物産振興会と共催で，9／28～10／3札幌丸井百貨店で北海道秀作民芸品展開催。○札幌オリンピック冬季大会の受入対策として，善意通訳講習会に協賛したほか外人客のため道観連札幌案内所に通訳1名を常駐させた。○道民運動の推進として，関係団体と共催で「観光客を親切に迎える運動」（5月～10月），「社会生活のルールを守る運動」（夏・秋・冬の強調月間）の「海をきれいにする月間」（7月1～31）を実施。

〔商工観光センター開設〕○道経済センター1階に，道により北海道商工観光センターが開設（11月）され，道観連は観光コーナー部門を管理する。

オープンした観光コーナー

〔広報活動〕○会員の機関紙として会報「どうかんれん」№142～146号発行。○「北海道の観光情報」を毎月作成して関係先に配付。○本道の観光ガイド資料として「47年版・北海道観光便覧」を作成。

〔案内所業務〕◇東京案内所　観光相談件数は日程1,532，宿泊958，交通2,109，その他2,002の計6,601件。配布資料はポスター812枚，観光映画95本，写真パネル1,686枚。催しもの11件。◇大阪案内所　観光相談件数は日程788，宿泊176，交通870，その他430の計2,264件。配布資料はポスター470枚，観光映画41本，写真パネル315枚，催しもの8件。

〔陳情請願事項〕①道商工観光部の設置について②道観光開発公社の設置について③観光地の美化運動，道徳の向上対策強化について④観光公共施設整備補助の増額について⑤道観連に対する道費補助の増額について⑥国鉄新幹線の着工促進について⑦千歳空港の国際空港昇格促進について

47年度　昭47.4～48.3

〔総会・役員会〕○5／17第1回理事会を開き，通常総会提出議案など審議。○5／27札幌ローヤルホテルにおいて昭和47年度通常総会開催，46年度事業報告と収支決算承認のあと,47年度事業計画及び収支予算,会費口数など決定。○9／19第2回理事会を開き，48年度事業計画案のほか要望書，臨時総会の開催，共済保険制度の実施などについて審議。○12／1第3回理事会を開き，臨時総会提出議案，顧問参与の委嘱について審議。○同日引き続いて札幌グランドホテルにおいて，機能強化のため役員の増強，任期満了に伴う役員の選任を骨子とした臨時総会を開催，定款改正により副会長3名を6名に増員，また役員改選の結果，舟橋会長の再任を含め40人の新役員が選任され，任期を49年度通常総会までとすることを決めた。○3／30理事会を開き47年度予算補正，48年度事業計画と収支予算案などについて審議。

〔観光振興推進事業〕○48年度道観連に対する補助金の増額，観光施策に関する財源措置，観光地の美化道徳の向上対策について，道知事及び道議会に陳情。○10／12札幌グランドホテルで道自民党観光議員連盟と懇談会を開き，観光振興対策について要請したほか10／24札幌パークホテルで道知事と会員との懇談会開催。○日本観光協会の観光講座に参加し職員の研修を行うとともに，地域の観光振興諸会議に参加（23回）し，連絡協調を図った。○地元関係団体と共催で，接客従業員及び経営者を対象に旭川市など19市町村において接遇改善セミナーを開催。受講者1,343名。○市町村・観光団体・関連企業の管理職業務担当者を対象に，7／14「モビレージ・セミナー」を，2／27～28「北海道観光開発セミナー」を札幌市で開催。参加人員140名。

○地域の観光開発として，次の市町村・団体の依頼を受け観光診断を実施。平取町，上士幌町，小平町，天塩町，森町，弟子屈町，南富良野町，静内町，厚岸町・浜中町・釧路村，滝川市，下川町，鷹栖町，鶴居村，厚真町，追分ソーランライン推進協議会，桧山観光開発協議会，白老町。○地域の観光振興のため，観光開発，宣伝誘致，受入体制の強化などの事業を行った諸団体に対し，助成協力を行った。

〔宣伝誘致事業〕○総合かつ多角的な宣伝活動強化のため，次の宣伝印刷物を作成。チラシ「北海道周遊案内」30万，リーフレット「北海道」17万1,000，パンフレット「冬の北海道」9万，ポスター「冬の北海道」「観光冬まつり」「北海道」各2,000,「北海道観光カレンダー」1万，広域観光宣伝印刷物（10種）59万7,000，計117万4,000部。○積極的に観光客の誘致を図るため，東北と関東・関西に観光客誘致団を派遣，次の都市で旅行業者，交通機関，諸学校，報道機関などを招いて懇談会を開いた。東北9／25～10／5青森，弘前，酒田，山形，盛岡，仙台，福島，秋田，八戸。関東・関西8／2～11／24東京，名古屋，大阪，岡山。○秋の観光ＰＲとして，東京・毎日新聞ほか12名の記者を，9／7～9道央と大雪山観光圏に招へい，また冬の観光ＰＲとして，週刊サンケイほか21名の記者を2／8～12道東，大雪山，道央観光圏の一部に招へい。取材活動に協力した。

○観光通年化対策の一環として，8／1～7大阪大丸，8／20～25東京西武，11／3～8神戸そごう，11／23～29名古屋名鉄，11／29～12／4福岡玉屋で「北海道の観光展」開催，観光写真・パネルの展示，郷土芸能の出演，バスガイドの観光地案内，本道出身歌手の歌謡ショー，サイン会，名産品の即売会，観光相談など行った。6会場での入場者推定95万1,000人，観光相談535件を数えた。○10／27から道貿易物産振興などと共催，道外主要都市15会場（後援17会場）で「北海道の物産と観光展」開催。○冬のレジャー紹介のため，「北海道冬のレジャー展」を東京は11／7～12高島屋での物産と観光展に併設，札幌は12／21～25丸井百貨店で開催。

○冬季観光資源の開発と地域住民のレク活動の積極化を図り，「もんべつ流氷まつり」など25行事に助成を行った。

〔受入体制整備〕○道内の観光施設，行事などの視察とともに，モータリゼーションの進展とカーフェリーの増強に伴い，こうした動向に対応するため，本州のモビレージ施設調査と本州―北海道カーフェリー利用客の実態調査を行った。また，冬季レジャー振興のためスキー・スケート場の調査を行い，関係先に配布。○観光土産品の改善向上として，道観光土産品店協会と共催で各地で関係者を招いて懇談会や，従業員のサービス講習会を開催したほか，観光客の土産品に対する苦情を処理した。関係団体と共催，5／30～6／4札幌丸井百貨店で北海道秀作民芸品展開催。○美化推進と道民運動として，観光地の自然保護と美化推進のためＮＨＫの協力を得て，7，8月にテレビスポットを放映。また，道ユースホステル協会，日観協道支部と共催で7～10月にかけ自然愛護と美化運動（Ｙ・Ｈのミーティングにおける啓蒙，標語・作文の募集，ポスターの掲示，清掃活動，ごみ袋の配布など）を実施した。さらに関係団体と共催で「観光客を親切に迎える運動」「社会生活のルールを守る運動」を実施。

〔広報活動〕○会員の機関紙として会報「どうかんれん」№147～149号発行。○「北海道観光情報」を毎月作成して関係先に配布。○観光ガイド資料として隔年発行の北海道観光便覧に代わり，ポケット型ガイドブック「北海道旅のご案内」3,000部作成。

〔第１回ほっかいどう祭り開催〕○本道観光産業の振興と，道民参加の健康で明るい文化行事として観光客の誘致を図るため，各地の芸能行事を中心にした第１回「ほっかいどう祭り」を札幌で開催した。5／27前夜祭，28日本祭で参加人員746名（郷土芸能17団体）推定観客数15万人。

〔その他の主な事業〕①全日空「さわやかカントリー北海道」キャンペーン後援②国鉄「岬を回ろう」キャンペーン共催③「北海道物産と観光ハワイ展」共催④ＴＢＳ企画「全国東西県別芸能合戦」テレビ全国放送に協力。⑤各種観光シール発行。

〔陳情請願〕○北海道の観光施策について（10／12道議会自民党観光議員連盟へ，10／16道知事へ）○昭和48年度の道観連に対する助成強化について（１／30道知事へ，２／２～10道議会各委員へ）

〔観光案内所業務〕◇東京・大阪　旅行業者，報道機関，職場，学校などに観光情報，資料の提供と観光映画フィルム，写真，パネル，ポスターなどの貸出しを行ったほか，旅行業者との懇談会，北海道友の会修学旅行誘致懇談会，スズランナイター，北海道の観光

第１回ほっかいどう祭り

同前夜祭

と産業，その他観光展など各種行催事に協力参加し，本道観光のＰＲと誘客促進に努めた。

48年度　昭48.4～49.3

◇**概要**　48年度は，例年になく観光客の出足が早く，さらに秋にも伸びがつながって入込み数は前年を10％近く上回ったものと推定され，年末からエネルギー危機に直面したが，創意と工夫によって冬季行事も盛会に終わることができた。

道観連は，第２回ほっかいどう祭りを幕あけに観光振興と誘致宣伝事業等を積極的に展開し，２月には「石油問題と総需要抑制下における観光の動向」について時局セミナーを開催し，また燃料規制緩和について陳情団が上京し，本道観光の特殊性を訴えるなど，事態に対応した事業を実施した。

〔総会関係〕○５／16第１回常任理事会及び第１回理事会を開き，総会提出議案審議。○同日引き続いて札幌国際ホテルにおいて昭和48年度通常総会開催，47年度事業報告と収支決算承認のあと，48年度事業計画及び収支予算，会費口数など決定。○10／22第２回常任理事会を開き理事会付託事項について審議のあと，第２回理事会を開いて48年度予算の補正承認，49年度事業計画案と収支予算案，臨時総会の開催などについて審議。○11／１第３回理事会を開き，臨時総会提案事項を審議。○11／22札幌センチュリーローヤルホテルにおいて臨時総会を開催，48年度予算の補正および49年度会費について一口当たり１万円増額することなどを承認可決した。○３／29第３回常任理事会を開き，理事会付託事項について審議のあと，第４回理事会を開き48年度予算の補正承認，49年度事業計画案と収支予算案審議。

〔観光振興推進事業〕○49年度の道観連に対する事業費，管理運営費の助成強化について，10／12道自民党観光議員連盟，道知事，自民党政調会に要望陳情。○燃料規制と観光問題について，２／21陳情団が上京して運輸通産各省と本道選出国会議員ほか関係団体に本道観光の特殊性を訴え，規制の緩和について陳情。○地域観光団体との連携を強めるため各種会議に参加するとともに，連絡会議を開催して意志の疎通をはかり，また各種行催事の後援，協賛を行った。○事務局職員２名を，欧州の観光事情調査の催しに参加させ研修させた。○地元関係団体と共催で，接客従業員を対象に14地区で接遇改善セミナーを開催，参加人員953名。○９／５～７道経済センターで市町村，観光団体，関連企業等の業務担当者を対象に総合基礎コースの観光セミナー開催，参加人員70名，○９／10網走市で日本モビレージ協会と共催でモビレージ事業セミナーを開催。参加人員30名。○２／27札幌センチュリーローヤルホテルを会場に，石油危機と物価の高騰，総需要抑制など転機を迎えた余暇開発を中心にして，評論家坂本二郎氏ほか２名を講師に観光セミナーを開催，参加人員80名。○地域の観光開発として，依頼を受け次の市町村の観光診断を実施。千歳市，三石町，沼田町，初山別村，浦河町，羽幌町，ニセコ町，下川町，中標津町。

観光総合講座

〔宣伝誘致事業〕○総合的な宣伝誘致活動として，次の宣伝印刷物を作成。チラシ「北海道周遊案内」30万，リーフレット「北海道」27万，パンフレット「美しい北海道」１万，同「冬の北海道」10万，ポスター「北海道」2,000，ポスター「冬の北海道」3,000，同「秋の北海道」1,700，「北海道観光カレンダー」

1万，パンフレット「ひがし北海道」10万，同「空知の観光」2万，同「ニセコ」7万，同「おびひろ・とかち」4万，同「ひだかの旅」2万，同「サロマ湖と周辺」3万，同「宗谷の観光」4万，同「北・北海道の旅」10万，同「利尻島」2万5,000，同「大雪山スキー場」7万，同「冬の阿寒国立公園」3万，「追分ソーランガイドブック」1万，計125万1,700部。○積極的に観光客の誘致を図るため次の都市で旅行業者，交通関係，学校関係者，報道機関などと懇談会を開き，本道観光地の紹介を行うとともに送客について要請。11／12東京都・鉄道会館，11／4～14東北地方・大館市ほか7会場。○日刊スポーツほか16名の記者を，2／11～15道央のスキー場に招へいし冬の観光PRと，冬季の交通状態の調査と懇談会を開催。

○観光通年化対策の一環として，次の5会場で「北海道の観光展」開催。昭和36年度から催された観光展はこれで13回目を迎え，展示物の大型化や会場装飾の工夫がなされ，充実した内容のものとなり好評を博した。なお5会場での入場者推定114万3,700人，観光相談743件を数えた。○10／26から道貿易物産振興会などと共催，道外主要都市19会場（後援18会場）で「北海道の物産と観光展」開催。

○冬季観光資源の開発と地域住民のレク活動の積極化を図り，各地の冬まつりなど26行事に助成を行った。○国鉄道総局，日観協道支部などと共同で〝冬こそ北海道へ〟のキャンペーンを展開，11／9～14池袋西武百貨店，12／6～11さっぽろ東急百貨店で「冬のレジャー展」を開催したほか，スキー・雪まつり・白鳥・流氷をポイントにポスター・リーフレット類を配布した。

各地の冬まつりに助成

〔受入体制整備〕○前年に続きフェリー各社の協力を得て，カーフェリー利用客の実態調査したほか，スキー場，宿泊施設，ドライブインの調査を実施，○土産品及び土産品店の向上を図り，道観光土産品店協会と共催で懇談会，サービス講習会を実施，また観光客の土産品に対する苦情処理を行った。○観光地の美化と自然保護など，道ユースホステル協会その他関係団体と協力して道民運動を推進した。

〔広報活動〕○会員の機関紙として会報「どうかんれん」№150～155号を発行。○「北海道観光情報」を毎月作成して関係先に配布。

〔第2回ほっかいどう祭り開催〕○全道観光地の芸能行事を中心にした第2回「ほっかいどう祭り」を，6／14～16札幌市内で開催。内容は前夜祭，郷土芸能公演，歌謡ショー，北海大漁祭り，写真・ポスター展，写真コンテスト，美化推進運動などで，参加人員1,360名（26団体），観客推定数約30万人。

〔郷土料理の開発〕○観光と密接な関係のある郷土料理の開発振興行事として，10／11～12札幌グランドホテルを会場に，第1回「ほっかいどう郷土料理大会」を開催。参加店はホテル，レストラン10店，出品料理10種，入場者数1,300人。

〔観光案内所業務〕○旅行業者，報道機関，職場，学校などに資料の提供と，諸行催事にパネル，ポスター，映画フィルムの貸出しを行ったほか，「全国郷土の観光と物産展」「北海道の産業と観光の会」「さっぽろ・サッポロまつり」「北海道ナイター」「北海道観光ポスター展」「白い北海道展」「周遊券展」「北海道の物産と観光展」など各種行事に協力した。

49年度　昭49.4～50.3

◇**概要**　49年度は，石油危機に端を発し，異常な物価上昇と総需要抑制政策から経済不況の過中にあって，観光客の出足が鈍く不振が予測されていたが，既に生活のなかに定着した観光レク活動は盛んで，入込み数は前年を10％ほど上回ったものと思われる。

道観連は「第３回ほっかいどう祭り」を幕あけに，観光振興と宣伝誘致活動に積極的に取り組み，観光展の重点化，各種キャンペーン実施のほか，陳情，請願活動などもさかんに行った。

〔総務関係〕○４／30第１回正副会長会議を開いたあと，第１回常任理事会を開き理事会議案の審議。○５／15第２回常任理事会を開き理事会議案審議のあと，第１回理事会を開き総会議案審議。○同札幌プリンスホテルにおいて昭和49年度通常総会開催，48年度事業報告と収支決算承認，49年度事業計画及び収支予算，定款の一部改正（役員数の変更）を決定，任期満了による役員を改選の結果，会長の舟橋要氏，副会長の佐々木徳三郎，柴野安三郎両氏が勇退，後任の新会長に中原哲男氏（拓銀会長）を選任。これまで６人だった副会長は１名増員することを前提に，新たに鈴木石太郎(函館観光協会副会長)，金川幸三(道旅館環衛同業組合副理事長)，金森勝二(北海道バス協会長)の３氏を選任し，今井，魚谷，野田，大野の４副会長を再選した。

知事と観光懇談会

○６／28第２回正副会長会議。○８／24第３回常任理事会を開き，理事会議案の審議。○９／24第２回理事会を開き，50年度事業計画案審議のあと，道知事と観光懇談会開く。○12／２第３回正副会長会議を開き，給与改訂の審議。○３／12第３回理事会を開き，49年度収支予算の一部変更承認，50年度事業計画と収支予算案などを審議。

〔観光振興推進事業〕○７／18国鉄道総局並びに動力車労組に対し，７月末に予定されていた国鉄スト回避について要請。○貸切バスの車両増強のため，11／29道バス協会とともに道に対し66両の新車購入融資について陳情。○当面する観光問題について，９／24道知事を囲んで観光懇談会を開催，観光通年化施策の推進，受入体制の整備などを要望。○９／28自民党道連公約策定委員会に，観光通年化の推進，美化運動，施設整備の強化などを要望。○観光振興のため各地域団体の諸会議に出席し連絡提携を図ったほか，全日本旅行業協会との懇談会はじめ各団体との懇談会にも参加。また幹事会を再三開催。○道内の宿泊施設，ドライブイン，スキー場の調査を行うとともに，日本観光協会の委託を受け観光情報システム化のための観光施設調査を実施し，各種資料の収集を行った。

○地域観光開発のため弟子屈町，羅臼町，占冠村より委託を受け観光診断調査を実施。○観光土産品（店）の向上を図り，道観光土産品店協会と提携して業者及び関係者との地区懇談会，サービス講習会など実施。○10／30～31道経済センターで市町村，観光団体，関連企業の業務担当者を対象に総合基礎コースの観光セミナーを開催。○地域関係団体と共催で，接客従業員を対象に14地区で接遇改善セミナーを開く，参加人員485名。○観光地の美化，自然保護，交通安全対策を推進するため，道新生活運動推進協議会，交通安全道民運動推進委員会など関係機関と提携，道観連では印刷物に運動標語を掲載してＰＲするほか，前年に引き続きコカコーラ，朝日新聞社提供のくずかご200個の配布，清岳会な

ど実践団体にごみ袋を提供するなど，道民運動として実施した。

〔宣伝誘致事業〕○チラシ，リーフレットなど20種の宣伝印刷物を作成し，観光展など行催事において有効に利用するとともに，道内外の観光案内所，一般向けに広く配布した。チラシ「北海道周遊案内」27万，リーフレット「北海道」25万，パンフレット「美しい北海道」8,350，同「冬の北海道」9万，ポスター「北海道」2,000，同「冬の北海道」3,000，同「秋の北海道」2,000，「北観道観光カレンダー」1万，広域観光宣伝印刷物「みなみ北海道」ほか12種類65万5,000，計128万8,350部。○秋の北海道ＰＲのため，毎日新聞など東京で発行の各紙レジャー面担当の記者13名を招へい，10／1～4道東一円から層雲峡に至るコースで案内，取材活動に協力した。

○道外観光客の誘致促進のため，本年度は次の5会場で「北海道の観光展」開催，5会場での入場者推定99万5,000人，観光相談510件を数えた。8／22～27大阪大丸，10／11～16東京京成，10／31～11／5京都高島屋，11／1～6神戸そごう，11／27福岡玉屋。なお大阪大丸会場の会期に合わせ，8／23新阪急ビルにおいて関西の旅行業，学校，企業関係者と観光懇談会を開いた。○10／25から道貿易物産振興会などと共催，道外主要都市19会場（後援22会場）で「北海道の物産と観光展」開催。

○春の観光地ＰＲのポスター，絵葉書を作成，国鉄及び航空会社，関係団体と提携して「花の北海道」のキャンペーンを実施，○関係団体と共同でスキー・白鳥・丹頂鶴・流氷・冬まつりを中心にポスターや絵葉書を作成，週刊誌を通じて全国にPRしたほか，12／12～17札幌東急百貨店で冬のレジャー展を開催するなど，「冬こそ北海道」のキャンペーンを実施。○冬季観光行事の育成のため，「オホーツク流氷まつり」など30行事に助成を行った。

○11／5神戸の金竜閣において，大雪山国立公園，道北地区観光団体の協賛を得て，旅行業者，学校，企業，報道関係者など36名出席のもとに誘致懇談会を開催。○道央関係団体の協力を得て，東北方面に修学旅行を含む観光客誘致団を派遣，9／30～10／7にかけ秋田，新潟，山形，仙台，盛岡，八戸の各市において学校関係，旅行業者などと誘致懇談会を開いた。

〔第3回ほっかいどう祭り開催〕○第3回「ほっかいどう祭り」は，6／13～14札幌市内で開催，内容は観光パレード（駅前通り）郷土芸能大会（市民会館，狸小路），観光1万人踊り（四番街）などで，参加人員1,789名（40団体），観客推定数約40万人。

〔郷土料理の開発〕○道全調理師会の協力を得て郷土料理の創作研究を行い，2／18道自治会館で創作発表会（45品目）と審査会を開催，さらに優秀推せん料理20品目について3／12道厚生年金会館で試食会を行った。また新聞，テレビによる調理紹介や，料理メモを作成して関係先に配布した。

新しい郷土料理の発表会

〔広報活動〕○会員の機関紙として会報「どうかんれん」№156～160号を発行。○「北海道観光情報」を毎月作成して関係先に配布。

〔観光案内所業務〕○札幌，東京，大阪において観光案内相談業務を行うとともに，各種観光行催事に資料の提供，協賛，協力を行った。

50年度　昭50.4～51.3

◇**概要**　50年度は，昨年に引き続いて経済の伸び悩み，台風による交通障害，更に沖縄海洋博の開催，博多新幹線の開通などにより，残念ながら本道の観光客の入込み数は前年度を若干下回ったものと推定される。

しかし，福祉社会の強化，余暇の増加に伴って，国民の観光レクリェーションに求める欲求は一層強く，環境に恵まれた本道観光は大いに期待が持たれているので，道観連は更に観光通年化の推進を図るため「北海道観光の夕べ」を開催し，秋・冬・春の紹介と誘客対策を行うとともに，冬季観光の振興を図るため「北海道雪の祭典」を開催した。

〔総務関係〕○5／16第1回正副会長会議同日第1回理事会で総会提出議案審議。○5／16北海道厚生年金会館で昭和50年度通常総会開催，49年度事業報告及び収支決算承認，50年度事業計画並びに総額1億2,400万円の収支予算を決定。○8／5顧問会議。○8／7常任理事会，同日第2回理事会で50年度予算補正。○12／16第2回正副会長会議。○1／12第3回正副会長会議。○1／26第2回常任理事会，同日第2回理事会で故斎藤専務理事の退職慰労金支給承認。50年度収支予算の補正承認。○3／9第4回正副会長会議。

〔観光振興推進事業〕○5月道議会の開会を前に，50年度の観光施策について道知事，議会に対し，道観連の事業費及び運営費の補助増額，通年観光の振興，美化運動の推進について要望。○ＳＬ配置転換に伴う国鉄ストについて，観光シーズンでもあり回避することを，6／18国鉄道総局，動力車労組，国労地方本部に要請，更に7／9，スト回避と輸送力増強に関し，それぞれ同様に要請。○8／11「新しい北海道について意見をきく会」において，余暇時代に対応した観光施設の整備などについて道知事に提言。○10／14道自民党観光議員連盟と，本道の観光ビジョン確立など観光諸問題について懇談要望。○11／20自民党政調会に，51年度予算について観光行政の積極化，特別財源措置，通年観光の推進について要望。○11／28経済不況と落ち込んだ観光客から，年末を迎え観光業界の資金事情打解のため関係金融機関と懇談会開催。○3／26千歳―稚内間航空便の運航促進について関係先に陳情。

○釧路観光連盟はじめ上川，留萌，空知，胆振，網走の各地方観連の諸会議に出席，連携を図るとともに各種観光懇談会に参加，また幹事会を再三開いて意見の交換を行った。○51年版北海道観光便覧発刊のため，関係機関より資料の提供を受け整備した。また51年度中に本道で開催される全国大会・全道大会調を行うほか，観光関連資料の収集に努めた。

○関係団体の依頼を受け，本年度は次の市町村（地区）の観光診断調査を実施した。弟子屈町，夕張市南部，蘭越町，寿都町，白老町。○観光土産品（店）の向上を図り，道観光土産品店協会と提携して業者及び関係者との地区懇談会，サービス講習会など実施。○地域振興と受入体制の質的向上を図り，4／18洞爺湖温泉で地域観光セミナー（受講者58人）を実施したほか，10／16～17道経済センターで観光計画基礎コースの全道的観光セミナーを開催。受講者61人。○関係団体と提携して観光地の美化，自然保護，交通安全対策を推進，道観連は観光情報，会報，リーフレット等に標語などを掲載して啓蒙に努めた。また，日本観光協会より空き缶プレス機の提供を受け，これを洞爺湖周辺に設置し美化運動に協力。

〔宣伝誘致事業〕○観光客の誘致促進を図り，今年度は次の宣伝印刷物を作成。リーフレット「北海道」30万，「北海道観光カレンダー」1万，広域宣伝印刷物・リーフレット「ひがし北海道」10万，パンフレット「おびひろ・とかち」5万，同「そらち」2万，同「北・北海道の旅」3万，同「道央観光」10万，同「観光胆振」3万，計64万部。

○道外客の誘致促進のため，主要都市の百貨店13会場で観光展を開催，各種資料の展示

はじめ印刷物の配布，観光相談所の設置，郷土芸能の公演などで効果的な宣伝を行った。

○冬の北海道のすばらしさをＰＲして，観光通年化を促進するため，８／20大阪の大阪会館ホールに旅行業者，学校，企業，報道関係者を招いて「北海道観光の夕べ」を開催した。

○冬の美しさ楽しさを道内外に紹介し，冬季レク活動を積極的に進め健康で明るい道民生活の向上を図るため，３／13～14ニセコアンヌプリ国際スキー場，太平洋クラブニセコモイワスキー場を主会場に「第１回北海道雪の祭典」を開催，聖火パレード，ＳＡＪ公認バッジテスト，プロスキーヤーショウ，雪だるまコンクール，タイマツショー，雪の女王撮影会花火大会などで，２万5,000人の観客を動員した。○関係団体と共催で，スキー・白鳥・丹頂鶴・流氷・冬まつりを主体に11月から３月にかけて「冬こそ北海道」のキャンペーンを実施。○冬季観光行事育成のため，雪まつり氷まつりなど29行事に助成を行った。

第１回北海道雪の祭典

〔**広報活動**〕○会員の機関紙として会報「どうかんれん」№161～164号発行。○「北海道観光情報」を毎月作成して関係先に配布。

〔**一般事業**〕○キャンピング・ビレッジ事業　多様化した観光レクリェーションに対応するため，キャンピングカーを借入れ，日本交通公社と提携して７，８月にわたってキャンピング・ビレッジを開設，初めての企画で好評を得た。７／10～24神恵内青少年旅行村５台・利用客32人，７／10～８／20えりも岬５台・同440人，７／28～８／17美瑛町白金野営場15台・同820人。

○全国・全道大会調査　道内において51年度中に開催予定の各種大会等について1,085機関を対象に調査した結果，50年度より79件増加し854件となった。

〔**観光案内所業務**〕○札幌観光コーナー　案内業務の向上を図るため，12月に観光コーナーの全面改装を行い，行催事案内版，ポスターや資料の展示台を設置，明るく開放的なムードの案内所となった。○東京案内所　各種行催事の後援，協賛を行うとともに，資料の提供，報道関係者の対応など，観光案内・相談業務を実施した。主な後援，協賛行事は全日本スキーフェア，全国郷土の物産と観光展，北海道の産業と観光の会，スズランナイター，全国観光映画会，冬の道東カラー写真展，大氷瀑まつり・レジャー記者招待。○大阪案内所　近年関西地区から来道客の増加に伴い西部地区の観光展に重点をおくとともに各種観光行催事も増加しており，これらに対応して観光資料，展示物の提供はじめ，観光案内・相談業務を実施した。

雪まつり，氷まつりなど29行事に助成を行った。

51年度　昭51.4～52.3

◇**概要**　51年度は，引き続き厳しい経済情勢のなかで，通年観光の推進を重点とした事業を実施してきたが，上期においては対前年を8.2％上回る入込み数となり，また，冬季においても道外からのスキー客が大きく伸び年間入込み数は49年度並に回復してきたものと思われる。

しかし，旅行費用の増嵩と，節約ムードの心理的な影響は，宿泊，土産品等にも波及しいぜん好転のきざしは見られない状況である。

このような状勢のなかで，観光展など誘致宣伝事業を積極的に実施するとともに，一方観光道徳昂揚運動など受入体制を推進し，さらに一般事業として適期に効率的な各種の事業を実施した。

〔**総務関係**〕○4／5幹事会。○4／30正副会長会議。○5／11常任理事会で理事会議案の審議。同日理事会で総会議案の審議。○5／24幹事会。○5／28札幌グランドホテルにおいて昭和51年度通常総会開催，50年度事業報告と収支決算を承認，51年度事業計画と総額1億4,000万円に及ぶ収支予算を決定，任期満了による役員改選の結果，中原会長はじめ各副会長とほとんどの理事が再選されたほか，故斎藤丈武専務理事の後任に，二口栄蔵氏が選任された。○5／30常任理事会。○8／17幹事会。9／24常任理事会。○10／22幹事会，○10／26理事会で北海道雪の祭典，52年度事業計画案，会費改訂案などについて審議，○2／15幹事会。○2／28理事会で北海道雪の祭典，52年度事業計画案，会費改訂案などについて審議。○幹事会における主な協議事項　北海道雪の祭典，共同キャラバン隊の派遣，北海道発展計画案，陳情要望事項，会費の見直し，幹事会の運営，専門部会の設置案，北海道観光大会の開催，観光と味覚展の開催案，などについて。

〔**観光振興推進事業**〕○52年度の予算確保について，1／7，27道知事，道議会に陳情。○青函トンネルと北海道新幹線の促進について，1／7上京して関係団体と政府関係機関に陳情。○観光政策の推進について，7／7，3／11の2回にわたり道自民党観光議員連盟と懇談要請。○観光振興のため十勝，根室，大雪，釧路，日高，宗谷，後志，網走の各地方観連の諸会議に参加し，連携を図るとともに関係業界団体の観光懇談会等に出席し意見交換を行った。○観光情報システム化の資料収集・調査と観光行催事の開催調べを実施。

○地域観光開発のため，本年度は上川町，沼田町の委託を受け観光診断調査を実施した。○観光土産品（店）の向上を図り，道観光土産品店協会と提携して，7～8月にかけ弟子屈町，阿寒町，白老町，壮瞥町において，適正販売について懇談会を開催。○日本観光協会と共催で，11／10～11道経済センターで観光総合講座を開催。

○観光地の美化のため日観協道支部などと共催で，7／25川湯温泉の硫黄山において観光地美化キャンペーンを実施したほか，7月に主要海水浴場にごみ袋5万袋配布した。○〝観光客を親切に迎える運動〟として，モデルワッペンの作成配布と，親切運動標語募集を行い関係団体に運動の推進を呼びかけた。

11月に待望の茂津多岬開通

〔**宣伝誘致事業**〕○観光地の紹介，宣伝用にレイアウトを一新して，リーフレット「北海道」を35万部作成配布。○道外客の誘致促進のため，道外主要都市の百貨店（13会場）において，関係団体の協力を得て観光展を開催。○冬季観光振興の一環として，3／5～6倶知安町国際ひらふスキー場を主会場に，第2回「北海道雪の祭典」を開催。○冬季観光客誘致のため，関係団体と共同で〝5白〟を主体にしたポスターやリーフレットを作成したほか，冬の旅展，スポーツ誌などの媒体を通じ「冬こそ北海道」のキャンペーンを実施。○冬季観光資源の開発，育成のため，第1回知床スノーフェスティバルほか，4行事

に助成。○多様化する観光客のニーズに対応するため，広い地域に点在する観光地間を有機的に結ぶ周遊コースを設定し，「北海道周遊コース」（Ａ５判，本文236頁）として作成，関係先に配布した。

〔**広報活動**〕○会員の機関紙として会報「どうかんれん」№165～168号を発行。○「北海道観光情報」を毎月作成して関係先に配布。

〔**一般事業**〕○全国・全道大会調査　51年度中に道内で開催される全国，全道大会の調査を実施。○誘致キャンペーン　東亜国内航空，ひがし北海道観光協議会と共催，９／１～４東京よりレジャー記者を招へい各紙(誌)を通じ，道東の紅葉，味覚などについて紹介した。東南アジアの観光客誘致のため関係機関と協力，９／28～10／６香港ほかで冬の北海道ＰＲのキャンペーン実施。関東，関西地区の誘致を図り，10／11～６大阪，名古屋，東京において旅行業者との懇談会と街頭宣伝を実施。○印刷物の作成　「北海道観光カレンダー」１万部作成して道内外の関係先に配布。リーフレット「北海道」を関係企業の協賛を得て11万部作成。「北海道観光便覧」51年版を２千部作成配布。○行催事の参加　11／23～27東京で行われた農林省主催の農業祭に参加，観光ＰＲと郷土の味覚の即売会を行った。12／15～16東京都世田谷で開かれた日本観光協会主催のボロ市に参加，観光ＰＲと味覚品の即売会を行った。７／15～19札幌で，交通安全と緑化事業協賛として苗木の即売会を実施。

〔**観光案内所業務**〕○札幌観光コーナー　昨年改装した観光コーナーの利用促進を図るため，シリーズポスターの展示，雪の祭典の写真展，アイヌ民芸品の展示，行催事の案内報道機関の取材などに協力するとともに，各資料も取り揃え，観光相談に応じた。○東京案内所　各種行催事に協賛または協力したほか，一般的な観光案内業務を幅広く実施した。○大阪案内所　特に冬季観光についてマスコミを通じ紹介宣伝したほか，観光展の相談や資料の提供など行った。

52年度　昭52.4～53.3

◇**概要**　52年度は，引き続く経済不況と天候不順，さらに有珠山噴火などの影響を受け観光客の入込み数は前年より若干下回ったものと推定される。

しかし，国民の観光レクリエーションに対する欲求は，海外や沖縄旅行の実績からみても極めてさかんなものがあると思われる。

このような状況をふまえ，本道観光施策の充実強化を図るため第１回北海道観光大会を開催し，決議事項の解決推進に努めるとともに，関係団体と連携を密にし，有珠山噴火対策と併せ，通年観光促進のため諸般の誘致宣伝事業を実施した。

〔**総務関係**〕○５／12第１回理事会で総会議案の審議。○同日北海道自治会館において昭和52年度通常総会開催，51年度事業報告と収支決算を承認，52年度事業計画と総額9,000万円に及ぶ収支予算を決定。○３／10第２回理事会で52年度予算補正と53年度事業計画案などについて審議。

◇各専門部会　○６／22専門部会正副部会長会議で，大会決議事項と業務の各部会分担について○６／29第１回宣伝誘致部会で大会決議事項と52年度事業について○８／９第１回総務部会で道観連会員組織のあり方と大会決議事項の推進について○８／10第１回受入体制部会で美化運動と大会決議事項の推進について○11／２第２回総務，宣伝誘致合同部会で53年事業計画案と第２回観光大会について○３／16第３回宣伝誘致部会で53年度事業計画案について○３／16第２回受入体制部会で「花と緑の北海道」運動表彰者選考と53年度事業計画案について○３／30第３回総務部会で53年度事業計画案と第２回観光大会案についてそれぞれ審議。

〔**観光振興推進事業**〕○業界の自覚と団結のもとに，本道観光の発展策を推進するための「第１回北海道観光大会」を，６／12札幌の自治会館で道内各地の観光事業関係者450人

の参加を得て開催，観光政策予算の大巾増額など7項目を決議した。○観光大会決議事項並びに千歳空港の工事に伴う滑走路使用制限有珠山災害金融と復旧対策などについて関係先に陳情，要請を行った。

第1回北海道観光大会

○地域観光開発のため，本年度は旭川観光協会，伊達市，上湧別町観光協会の委託を受け観光診断調査を実施。○観光計画等について基礎的な知識を高めるため，日本観光協会と共催で11／29～30，道経済センターにおいて観光総合講座を開催。○観光客受入体制強化の一環として，次の事業を行った。①「花と緑の北海道」運動の推進②主な海水浴場，登山基地にごみ袋の配布（7月中，5,000枚）③観光地における交通事故防止運動の推進④火山地帯における安全対策について提唱⑤道内主要観光地における観光客の入込み状況と予測調査。

〔宣伝誘致事業〕○宣伝印刷物の発行　本道の自然景観はじめ観光資源を網羅した，ユニークなリーフレット「北海道」を53万5,000部作成し全国に配布。○北海道の観光展開催　道外客の誘致を図るため，道外主要都市の百貨店において「観光と味覚展」（大阪）はじめ，関係市町村・観光協会等の協力を得て9都市で「北海道の観光展」を開催，また「北海道の物産と観光展」に参加した。○観光写真ライブラリーの整備　本道の優れた観光資源の写真フィルム（四季別，地区別に150点）を整備，宣伝印刷物に活用するとともに希望者に貸出しを行った。○観光ミニ情報の発行　道内におけるあらゆる観光情報を把握し，これを毎月2回「観光ミニ情報」として発行（1回5万枚）し，観光案内所，旅行センター，交通機関等を通じて全国に配布した。○「冬こそ北海道」のキャンペーン　通年化対策の一環として，本道の冬の代表的な風物である5白（丹頂鶴・白鳥・流氷・冬まつり・スキー）を主体に樹氷，行催事，味覚をあわせ，11月～3月関係市町など関係団体の協力を得て，ポスターB全判1万2,000枚，同B3判1万枚，リーフレット「冬こそ北海道」10万部を発行するとともに，月刊誌等を活用して全国に冬の北海道の紹介，宣伝を行った。

○冬季行催事の育成　冬季観光資源の開発育成のため，洞爺湖御神火まつりなど12行事に対し助成した。○報道関係者の招へい　国道229号線茂津多トンネルの開通に伴い，追分ソーランラインの紹介宣伝のため，6／10～13東京都内で発行の新聞・雑誌のレジャー記者（10社10名）を同地区に招へい，また冬の道東をPRのため，1／17～19関西の報道関係者（大阪ペンクラブ会員10社11名）を道東に招き，それぞれ取材活動に協力した。○観光客誘致団の派遣　道外旅行客の誘致を図り道南の関係団体と共同で，2／21～23関西地区に誘致団を派遣。○北海道雪の祭典開催　冬季観光振興の一環として，3／4～5ニセコ町ニセコアンヌプリ国際スキー場を主会場に，後志観光連盟と共催で第3回「北海道雪の祭典」開催，観客5万人。

〔有珠山噴火対策〕○8／7の有珠山噴火に伴い，11日道観連内に災害対策本部を設け現地と協力し次の事業を行った。①道外の報道機関，観光案内所等に，洞爺湖温泉地区の災害及び復興状況の情報提供②復旧後の同温泉地区へ観光客誘致のため，道央の関係団体と共同で次のとおり誘致団を派遣，旅行業者その他の関係機関に送客について要請を行った。9／27～29東京都・名古屋市・大阪市，10／24～25大阪市・東京都（運輸省に協力方要請），10／26～11／3東北地区。③洞爺湖温泉を中心にPRのため，リーフレット3万

部を作成して全国に配布④会員の協力を得て義援金の募集⑤北海道の観光展等に，洞爺湖温泉地区の復興状況の写真を展示。

有珠山噴火

誘致団を派遣

〔**会報の発行**〕会員の機関紙として会報「どうかんれん」№169～174号発行。

〔**特別事業**〕○全国全道大会調査　52年度中道内で開催される，全国・全道大会の調査を実施，○宣伝印刷物の作成　「北海道観光カレンダー」8,000部作成して全国に配布したほか，関係商社団体の協力を得て，リーフレット「北海道」14万部作成。

〔**行催事の参加協力**〕○北海道新聞社主催の「写真道展」，国鉄主催の「花の北海道」「もゆる秋・北海道」，航空会社主催による各種キャンペーンなど，道内外で開催される行催事に参加協力を行った。

〔**観光案内所業務**〕○札幌観光コーナー　来客に対する相談案内と資料提供，シリーズポスター，道内各観光地のポスター展示，道内で開催の行催事の案内，観光土産品の展示など，内容の充実を図り効果的に運営。○東京案内所　観光相談と資料の提供はじめ，情報の収集，関係機関との連絡協調を行うとともに，各種行催事に対する協賛，各種の調査を実施した。○大阪案内所　関西地域一円に資料の提供，情報の収集と提供を積極的に行い，また各媒体を通じ本道のＰＲに努めた。

53年度　昭53.4～54.3

◇**概要**　53年度は，いまだ景気の回復に至らなかったが，前半は好天に恵まれ特に秋の入込みが増加し，観光客は前年を若干上回ったものと推定される。

しかし，本年度も引き続いて海外旅行と南志向がいぜん強く，更に旅行はますます多様化する傾向がみられ，観光業界の対応も厳しい情勢となってきた。

このような動向のなかで，新しい誘致市場の開発と北海道志向高揚のため，適宜機会をとらえて多角的な宣伝誘致活動を行うとともに，受入体制の整備強化を図るため，諸般の事業を実施した。

〔**会議関係**〕○５／16札幌グランドホテルにおいて昭和53年度通常総会開催，52年度事業報告と収支決算を承認，53年度事業計画と総額１億2,100万円の収支予算を決定，任期満了による役員改選の結果，中原哲男会長および全副会長，専務理事が再選されたほか，各理事のほとんどが再任となった。○12／14理事会で54年度事業計画案などについて審議。

◇各専門部会　○８／21総務部会で第２回観光大会決議事項と観光レクリェーション公社案について○９／28宣伝誘致部会で53年度宣伝誘致事業の実施状況と54年度宣伝誘致事業計画案について○２／21宣伝誘致部会で北

海道観光フェスティバル開催案について，そをぞれ審議。

〔観光振興推進事業〕○５／16札幌グランドホテルで，会員など450名の参加を得て「第２回北海道観光大会」を開催，「花と緑の北海道」運動の表彰に次いで，意見の発表と決議があり，決議事項の推進について道知事に要請が行われた。○７／14道自民党政調会に，正副会長から道観光予算の大幅増額などについて要望，懇談を行った。○12／14石狩会館において，観光政策について観光議員連盟と懇談。○観光大会決議事項推進の一環として関係団体と次の大会を共催，さらに中央運動をそれぞれ展開した。９／７札幌パークホテルで千歳空港国際化促進道民大会，４／６札幌グランドホテルで北海道新幹線建設促進総決起大会，３／23厚生年金会館で一般消費税反対道民大会。

○江差追分全国大会，各種写真コンテストなど，観光関連行催事の後援，協賛を行い行事の振興を図った。○道内で催される各種大会，観光行催事等の調査と，関連資料の収集を行った。○地域の開発振興を図るため，美幌町，小平町の委託を受け観光診断調査を実施。○観光に関する総合かつ基本的な知識の向上を図り，日本観光協会と共催で，９／13～14道経済センターで観光総合講座を開催，受講者46名。○受入体制推進活動の一環として①日観協道支部などと共催で，７／23美幌峠において美化キャンペーン実施②「花と緑の北海道」運動に実績のあった，釧路駅前商店振興会，国鉄沼ノ上駅の２団体と，古木修一（名寄市），野口実（美幌町）の２氏を表彰③親切運動推進のため，バッジ2,500個を作成配布。

〔観光土産品業の育成〕○観光振興の一環として，観光土産品業界の近代化を促進するため，(社)北海道観光土産品協会の設立に協力し，助成を行った。

〔宣伝誘致事業〕○宣伝印刷物の発行　リーフレット「北海道」35万部作成，観光展会場，旅行業者，観光案内センターなどに配布。○観光展の開催　自然と味覚を中心にして次の会場で「北海道の観光と味覚展」開催。大阪会場・８／24～29大丸大阪店（入場者15万1,000人），東京会場・10／19～24高島屋東京店（同20万2,000人）。道外18都市22会場で，「北海道の物産と観光展」を共催，特に次の７会場を観光部門の重点会場として宣伝を強化した。仙台市・丸光，東京都・西武，横浜市・高島屋，神戸市・そうご，広島市・天満屋，松山市・いよてつそごう，熊本市・岩田屋伊勢丹。○「冬こそ北海道」のキャンペーン　関係団体と共同でポスターＢ全判７種類１万4,000枚，同Ｂ３判２種類１万枚，リーフレット「冬こそ北海道」４万部を作成，全国に配布するなど，11月から３月にかけキャンペーンを実施。11／23東京神宮外苑で開かれた全国農林水産祭り，11／21～30新宿駅で催された日本観光協会主催のスキー・スケート冬の旅展に参加し冬の北海道をＰＲ。１／28～２／１大阪ペンクラブの記者10名を道央，道南のスキー場，温泉地に招へい，取材に協力。○観光ミニ情報の発行　毎月２回６万枚のミニ情報を発行して，観光案内所，交通機関等を通じ道内外に配布。　○観光写真ライブラリーの整備　昨年度に引き続いて四季別，地区別に168点の写真フィルムを整備，宣伝印刷物に

ポスターもイメージチェンジ

活用するとともに希望者に貸出しを行った。整備点数2,007点。○観光ポスターの作成　本道観光のイメージアップを図るため，ポスターＢ全判「さわやかです。ひろーい北海道」9,000枚を作成道外の交通機関,案内所などに配布した。○冬季観光行催事の育成　冬季観光資源の開発と観光客誘致を目的とした，広域的な行催事の振興を図るため第４回北海道雪の祭典，氷濤まつりなど９行事に助成。○誘致団の派遣　道外客誘致のため，各団体の協力を得て次の観光客誘致団を派遣した。９／11～15東北地区（みなみ北海道），10／23～11／１東北地区（道央），11／８～10関東・関西・中京地区。○広域観光の推進　広域観光推進のため，５観光圏の地方観連で作成した，広域宣伝印刷物20万2,000部の作成に助成を行った。

〔**一般事業**〕○東京都内公立高校修学旅行の誘致懇談会　道外公立高校修学旅行の本道誘致を図るため，旅行時間を短縮し，本道を旅行対象地域とする方策として片道航空機の利用について，10／21帝国ホテルに都内の公立高校職員，ＰＴＡ役員などを招いて懇談会を開いた。○観光カレンダー作成　79年版，「北海道観光カレンダー」を5,500部作成,道内外の関係先に送付した。○リーフレット北海道の作成　北海道バス協会の協力でリーフレット「北海道」12万部作成，各バス会社より配布された。○群馬県旅行業協会研修旅行　本道を送客重点地とするための,群馬県旅行業協会の研修旅行を，関係市町村などの協力を得て，８／27～９／１道内全域にわたって実施。○鈴鹿サーキット北海道展　10／１～11／26鈴鹿サーキットで開かれた北海道展で本道の観光紹介や観光土産品の即売会に，資料の提供や物産のあっせんを行った。○関西北海道クラブ創立20周年郷土訪問旅行　７／12～14郷土訪問旅行の企画，資料の提供，受入れなどについて協力。○全日空北海道空の集い　東京，名古屋，大阪における北海道スキーの集い開催に協力。○ビバホリデー（話題の歌でつづる旅）　日本テレビのビバホリデー番組の取材に協力。これは12月第２週から４週にわたり毎週土曜関東，関西地区で放映された。○スズランナイター　６／13後楽園で行われた巨人・阪神戦にスズラン，１万5,000本，300名に記念品を贈呈し本道観光のイメージアップを図った。○パネル時計発売　さっぽろ時計台創建百年を記念してパネル時計をつくり，宣伝媒体として一般に頒布した。

〔**会報の発行**〕会員の機関紙として会報「どうかんれん」№175～180号を発行。

〔**観光情報センター業務**〕○観光案内のほか情報ファイルの整備及び「温泉」,「行催事」,「博物館」,「公園」などの調査を行った。

〔**観光案内所業務**〕○札幌，東京，名古屋，大阪の各案内所において，観光案内，相談に応ずるとともに，各種行催事に対する協力と情報の収集，連絡を行った。

54年度　昭54.4～55.3

◇**概要**　54年度は，春の天候不順と，石油の国際情勢の変化により給油制限とともに価格の高騰を招き，観光バス，マイカーの運行に影響を及ぼし，先行き極めて不安な情勢が予想された。しかし後半より石油の需給関係も緩み，秋の裾野が延びて入込みもしだいに回復してきたが，さらに12，１月の雪不足によるスキー客の減少も，幸い，２，３月には大きく伸び前年を20％程度上回ったものと思われる。

このように変動の多い年であったが，重点事業として受入体制の整備強化を推進するため，19地区において接遇研修会を開催するとともに，北海道志向を高めるため大阪市において観光フェスティバルを開催して,宣伝誘致の濃密化を図るなど諸般の事業を実施した。

〔**会議関係**〕○５／10理事会で総会議案審議。○５／25札幌パークホテルにおいて昭和54年度通常総会開催，53年度事業報告と収支決算を承認,54年度事業計画と総額１億6,500

万円の収支予算を決定。○7／23理事会で54年度予算の補正，第3回北海道観光大会の開催などについて審議。

◇各専門部会　○9／4総務部会で55年度予算について（補助事業と会費の見直し）○10／1宣伝誘致部会で54年度事業の実施状況，55年度事業計画について○11／28総務・宣伝・受入合同部会で55年度事業計画について，○3／25宣伝誘致部会で55年度事業計画について，それぞれ審議。

〔観光振興推進事業〕○10／26札幌グランドホテルで，会員など450名参加のもとに「第3回北海道観光大会」を開催，「花と緑の北海道」運動の表彰，第2回大会決議事項の経過報告，次いで伏木田日高観連会長の提言により大会決議が行われた。第2部では，「80年代の北海道観光」をテーマに，和野内講師の司会により，小谷達男，生内玲子，志村弘雄，伊東俊二の各氏をパネラーとしてシンポジウムが行われた。

○観光政策推進活動として，5／1道観光予算の増額について―北海道知事，8／22航空運賃の冬季割引について―航空3社社長，11／6第3回北海道観光大会決議事項について―北海道知事，10／30昭和55年度観光予算増額，第3回北海道観光大会決議事項について―道自民党政調会，12／5北海道新幹線建設促進について―国会・各関係省庁，12／18昭和55年度観光予算の増額について―北海道観光議員連盟，2／4昭和55年度補助金の増額について―北海道知事，にそれぞれ陳情，要請を行った。

○江差追分全国大会等の行催事，観光写真コンテスト等の後援，協賛を行い地域の観光振興に協力。○本道で開催される全国・全道大会の調査，観光行催事，その他関連資料の収集，調査を実施。○地域の開発振興を図るため，名寄市，倶知安町の委託を受け観光診断調査を実施。○観光に関する総合かつ基礎的な知識の向上を図り，日本観光協会と共催で，10／24～25道経済センターで観光総合講座を開催，受講者51名。○受入体制推進活動の一環として，①接客従業員の質的向上を図るため，地元関係団体の協賛を得て19地区で接遇改善研修会を開催，受講者1,167名②観光地の環境整備のため，くずかご120個，ごみ袋4万7,000を配布したほか，日観協道支部などと共催で，7／22阿寒湖畔と双湖台で美化キャンペーン実施③「花と緑の北海道」運動に実績のあった，千歳観光連盟，虻田町地区連合会の2団体と中尾厚次氏を表彰。

接遇改善研修会

〔観光土産品業の育成〕○観光土産品業界の育成強化を図るため，北海道観光土産品協会に対し道補助金300万円を助成。

〔宣伝誘致事業〕○宣伝印刷物の発行　リーフレット「北海道」（一般向）18万部，同「北海道見聞帳」（ヤング向）5万部作成して観光案内所，旅行業者，行催事会場等に配布。○観光展の開催　本道の特色ある味覚を強調した「北海道の観光と味覚展」を次の日程で会催。8／23～28大阪・大丸百貨店，10／4～9東京・大丸百貨店。道外22の百貨店を会場に「北海道の物産と観光展」を共催，特に次の7会場を観光部門の重点会場として，宣伝を強化した。10／25～31そごう大阪店，10／19～24千葉そごう，10／31～11／5姫路ヤマトヤシキ，11／1～7柏そごう，11／1～7天満屋岡山店，11／2～12松山いよてつそごう，11／21～26福岡玉屋。○「冬こそ北海道」のキャンペーン　冬季観光振興のため，〝5白〟を主体にキャンペーンを実施，ポスターB全判10種類1万5,000枚，リーフレット「冬こそ北海道」5万部作成したほか，11／22

～12／2新宿駅で開かれた「冬の旅展」，11／22～24都市産業会館で催された「全国農林水産まつり」に参加して，冬の北海道をＰＲ。○観光ミニ情報の発行　毎月1回5万枚のミニ情報を発行して，道内外の観光案内所，交通機関等に配布。

○観光写真ライブラリーの整備　昨年度に引き続いて88点の写真フィルムを整備，さらに155点を複製して宣伝印刷物に活用するとともに，希望者に貸出しを行った。整備点数2,095点。○観光ポスターの作成　秋のイメージアップのため，「染めあがる北海道」全判2,000枚を作成，道外の観光案内所，交通機関などに配布。○旅行業者の招へい　道外観光客の誘致を図り，全国旅行業協会東京支部の会員112名を招き4／23～27早春の北海道，さらに2／8～10には同支部会員23名による厳冬の北海道の研修旅行を実施。○新聞等による広報活動　四季に応じた観光北海道を広く紹介するため，新聞，雑誌を媒体に宣伝活動を行った。春・北海タイムス観光特集号，夏・週刊朝日北海道臨時増刊号，秋・北海道新聞観光特集号，冬・東京新聞「白のドラマ・ビッグ北海道」。

○大阪で観光フェスティバル　関西地区の北海道志向を高めるため，5／12大阪の毎日ホールで「北海道観光フェスティバル」を開催，観光映画の上映，郷土芸能，本道出身タレントの公演，観光資料の展示など多彩な催しがくり広げられ，3,500人の観客で埋まった毎日ホールは北海道一色のムードに包まれた。

大阪で観光フェスティバル

〔**一般事業**〕○観光カレンダー作成　関係市町村，観光協会等の協賛のもとに「北海道観光カレンダー」を5,500部，関連企業の委託を受け3 000部を作成配布した。○リーフレット北海道の作成　北海道バス協会の協賛を得て，リーフレット「北海道」4万2,000部作成。○受入手配サービスセンター設置　本道への送客促進の一環として，統一クーポンを発行する，協同組合・大阪旅行業協会と道内関連企業との業務手配を合理化するため，1／24「北海道受入手配サービスセンター」を設置した。○観光関連行催事の協賛並びに後援　①3／1～2ニセコで第5回北海道雪の祭典②6／2後楽園球場の巨人・阪神戦でスズランナイター③道央，道南地区修学旅行誘致団派遣④10～11鈴鹿サーキット北海道展⑤花の北海道キャンペーン⑥全国修学旅行協会写真コンテスト⑦電通映画社観光ビデオ制作。

○航空機利用客の実態調査　函館・千歳・釧路の各空港において，各空港会社，地元観光協会等の協力を得て，1月～3月にかけ来道客（個人・団体別）を対象に面接及びアンケート調査を実施した。

〔**会報の発行**〕○会員の機関紙として会報「どうかんれん」№181～186号を発行。

〔**観光情報センター業務**〕○日本観光協会情報センターのサブセンターとして，観光案内業務と資料の収集，提供を行った。

〔**観光案内所業務**〕○札幌，東京，名古屋，大阪の各案内所において，観光相談はじめ資料の提供，収集及び各行催事に対する協力，連絡を行った。

55年度　昭55.4～56.3

◇**概要**　55年度は，前年同様の冷夏，さらに低迷する経済情勢のなかでの選挙，交通運賃の値上げ，米作の不振なども重なり，消費抑制ムードは国民の観光レク活動を消極化さ

せ，この影響を受けて観光客の入込み数も伸びず，また消費単価も低下し極めて厳しい環境にあった。

このような情勢に際し，宣伝誘致活動の強化を図るため，名古屋市において北海道観光フェスティバルを開催し，修学旅行の誘致，報道関係者の招へい，新しい誘致市場開拓のための旅行業者の招へいを行うとともに，受入体制の整備，充実を図るため接遇改善研修会を開催するなど，内容的に充実した事業を実施した。

〔会議関係〕○4／28理事会で総会議案の審議。○5／15札幌センチュリーローヤルホテルにおいて昭和55年度通常総会を開催，54年度事業報告と収支決算を承認，55年度事業計画と総額1億4,000万円の収支予算を決定また任期満了による役員改選の結果，中原会長はじめ全副会長，専務理事，各理事のほとんどが再任となった。○11／7理事会，56年度事業計画と収支予算案，56年度会費改訂案，'81北海道観光フェスティバルの負担金などについて審議。

◇各専門部会　○10／23受入体制部会，11／5宣伝誘致部会，11／6総務部会，各部会とも昭和56年度事業計画と予算案を審議。

〔観光振興推進事業〕○観光政策推進活動として，6／27石油需給事情の変化に対する観光産業用の燃料確保について―札幌通商産業局，11／14北海道観光フェスティバル事業に対する補助金の確保，広域観光ルート施設整備補助金の増額について―道自民党政策調査会，2／2料理飲食等消費税の取扱い事務手数料の制度化と交付金の引上げ，宣伝誘致対策費の強化，金融並びにオフシーズン対策について―道議会商工労働委員会，にそれぞれ陳情，要請を行った。

○地域の観光振興のため，昭和新山火祭り及び写真道展等の後援（16件），協賛（14件）を行った。○観光行催事，その他関連資料の収集，調査を実施。○地域の開発振興を図るため，初山別村，置戸町の委託を受け観光診断調査を実施。○3／12道経済センターで，観光旅館の経営者及び管理職を対象に観光旅館経営者セミナーを開催。○受入体制推進活動の一環として，①接客従業員の質的向上を図るため，地元関係団体の協賛を得て24地区で接遇改善研修会を開催。受講者1,115名。②観光地の環境整備のため，くずかご140個，ごみ袋4万5,000を配布したほか，日観協道支部などと共催で7／20函館山，7／22羊ケ丘展望台で美化キャンペーン実施。

美化キャンペーン

〔観光土産品業の育成〕○観光土産品業界の育成強化を図るため，北海道観光土産品協会に対し道補助金300万円を助成。

〔宣伝誘致事業〕○宣伝印刷物の発行　リーフレット「北海道」（一般向）12万部，同「北海道見聞帳」（ヤング向）4万部作成して観光案内所，旅行業者，行催事会場等に配布。関係市町村，観光協会等の協賛のもとに「北海道観光カレンダー」9,000部を作成し関係先に配布。○観光展の開催　北国の旅と味覚を強調し北海道志向を高めるため，「北海道の観光と味覚展」を次の日程で開催。8／21大阪・大丸百貨店，11／14～20名古屋・名鉄百貨店。道外22の百貨店を会場に「北海道の物産と観光展」を共催，特に次の10会場を観光部門の重点会場として，宣伝を強化した。10／10～15広島そごう，10／23～29千葉そごう，10／23～28高島屋東京店，10／24～29そごう神戸店，10／30～11／5柏そごう，10／31～11／10松山いよてつそごう，11／5～10姫路ヤマトヤシキ，11／12～24仙台丸光，11／13～18高島屋大阪店，11／19～24福岡玉屋。

北海道の観光と味覚展

○「冬こそ北海道」のキャンペーン　冬季観光振興のためキャンペーンを実施，ポスターB全判4種類4万3千枚，パンフレット5万部作成したほか，11／21～30新宿駅で開かれた「冬の旅展」，11／22～24晴海国際見本市会場で催された「全国農林水産まつり」に参加，また，次の日程で各地区のレジャー記者を招くなどして，冬の北海道を売り込んだ。1／13～16東京地区・サンケイスポーツほか11名を道東・大雪地区へ，3／5～8中京地区・中日新聞ほか5名を道南・道央地区へ，3／26～29大阪地区・毎日新聞ほか15名を道南・道央地区へ。○観光ミニ情報の発行　毎月5万枚のミニ情報を発行して，道内外の観光案内所，交通機関等115カ所に配布。

○道外旅行業者の招へい　道外客の誘致促進のため，道外の旅行業者を招き次により研修旅行を実施した。2／24～27大阪地区の業者39名が道東・大雪・道央へ，3／5～8名古屋地区の業者22名が道央・道南へ。○修学旅行誘致キャンペーン　道外からの修学旅行を誘致するため，修学旅行誘致促進協議会を組織，統一キャンペーンとして，10／29～11／2東北（仙台，盛岡，青森各市），11／16名古屋市，11／18東京都に修学旅行誘致団を派遣，各地区において学校関係者，旅行業者等を招いて懇談した。なお，今年は「修学旅行の手引き」を1,000部作成，各学校や懇談会などで配布した。

○観光写真コンテスト　朝日新聞社と共催で，全国規模で観光写真コンテストを実施。応募点数1,659点，3／2審査を行い金，銀，銅賞9点と入選60点に賞金，賞状を贈った。

〔一般事業〕○観光振興のため，補助事業以外に次の自主事業を実施した。①リーフレット「北海道」3,350部を道バス協会の協力を得て発行②関連企業の委託を受け「北海道観光カレンダー」3,350部作成③国鉄，関係市町村，観光協会と共同で「花の北海道キャンペーン」を実施④3／7～8倶知安町・ひらふ国際スキー場で，後志観光連盟と第6回北海道雪の祭典開催⑤㈶日本交通公社の委託を受け，前年に引き続き4～6月に航空機利用客の実態調査実施，この調査結果は3月に発表⑥北海道観光事業東京連絡協議会と提携，台湾からの観光客誘致のため台湾観光協会郭副会長，世林旅行社等17名を，3／9～14道東・大雪・道央・道南の研修旅行に招へい，札幌と大沼で誘致懇談会を開いた⑦6／14後楽園球場で，東亜国内航空の協力を得てスズランナイターを実施⑧11／14～20名古屋で開かれた北海道観光フェスティバル実行委員会の事務局として協力。

〔会報の発行〕○会員の機関紙として会報「どうかんれん」№187～191号を発行。

〔観光情報センター業務〕○日本観光協会情報センターのサブセンターとして，観光案内，資料の提供を行ったほか，「北海道の湖沼めぐり」「ローカル線」「文学碑の旅」「岬めぐりふるさとの民宿」について調査。

〔観光案内所業務〕○札幌観光コーナー　ポスターの展示，行催事の案内，観光相談のほか，5月に1週間にわたり各地の観光映画7本を1日2回上映した。○東京・名古屋・大阪の各案内所　一般的な案内業務と資料の収集，行催事の協力を行った。

56年度　昭56.4～57.3

◇**概要**　56年度は，依然低迷する経済情勢のなかで，知床横断道路の本格的な供用，国道231号線の開通，新帯広空港の開港，国鉄石

勝線の開通など交通基盤の整備が進み，入込みの好転が期待されていたが，８月の集中豪雨，国道231号線のずい道崩落，神戸ポートピアの予想を上回る入込み増など，本道観光に少なからざる影響を及ぼしたものと思われる。

このような状況にあって，道外客の誘致促進を図るため官民一体による北海道ビッグフェスティバル，さらに特別キャンペーンを首都圏を中心に展開するとともに，受入体制の強化整備を図るため接遇改善研修会の開催，冬季行催事の充実強化に努めた。

〔会議関係〕○５／１理事会で総会議案，'81北海道観光フェスティバルについて審議。○５／19札幌プリンスホテルにおいて昭和56年度通常総会開催，55年度事業報告と収支決算承認，56年度事業計画と総額１億4,500万円の収支予算（前年度決算比約1,600万円増）を決定。○11／17理事会で56年度事業計画と予算の補正，57年度事業計画案について審議。

◇各専門部会　○６／26，10／26，３／15受入体制部会，６／24，７／27宣伝誘致部会４／28，11／６総務部会をそれぞれ開く。

〔観光振興推進事業〕○観光政策推進活動として，６／17第４回北海道観光大会決議事項の実現方について―北海道知事，７／22政府登録ホテル旅館の施設基準改訂，航空運賃割引制度について―運輸省観光部高橋整備課長，９／４特別キャンペーン事業に対する助成について―北海道知事，９／12航空運賃の季節別割引制度の設定について―運輸省航空局近藤監督課長，特別キャンペーン事業に対する助成について―北海道観光議員連盟・道自民党政調会・政策審議会会長，10／13沖縄―千歳直行便の開設について―運輸省・本道選出国会議員，10／30昭和57年度の道観連事業補助金の確保について―道自民党政策策定中央会議，１／25昭和57年度観光予算の確保について―北海道知事・観光議員連盟・自民党政調会・政策審議会，１／27北海道開発庁の存置について―各省庁・自民党・本道選出国会議員，９／18～19国道231号線の復旧促進について―北海道開発局・札幌及び留萌開発建設部，にそれぞれ陳情，要請を行った。

○第４回北海道観光大会　観光レクの多様化に対応して，受入体制の充実，整備を図るため〝魅力ある観光地づくり〟をテーマに，５／19本年度通常総会のあと札幌プリンスホテルで第４回北海道観光大会を開催，まず第一部では，地域代表として十勝観光連盟会長坂本圭司氏，洞爺湖温泉観光協会副会長浜野浩二氏，業界代表として道観光土産品協会副会長井上俊彌氏，道バス協会会長仙石清氏，道温泉部会会長中牧昇氏から提言が行われ，広域観光ルート公共施設の整備促進など６項目の大会決議が行われた。次いで第二部では「旅行作家の見た北海道の観光」と題して日本旅行ペンクラブの藤獄彰英氏の特別講演が行われた。

○観光に関する総合かつ基礎的な知識の向上を図り，日本観光協会と共催で，10／22～23道経済センターで観光総合講座開催。○受入体制推進活動の一環として，①接客従業員の質的向上を図るため，地元関係団体の協賛を得て18地区で接遇改善研修会を開催。受講者1,414名。②観光地の環境整備のため，15市町村にくずかご164個，９市町村にごみ袋２万6,000配布したほか，日観協道支部などと共催で，７／17層雲峡，７／19知床（知床五湖，知床峠）で美化キャンペーン実施。③「花と緑の北海道」運動に実績のあった，当別町観光協会，狩勝寿事業団を表彰。

〔観光土産品業の育成〕○観光土産品業界の育成強化を図るため，北海道観光土産品協会に道補助金300万円を助成。

〔宣伝誘致事業〕○宣伝印刷物の発行　リーフレット「北海道」37万5,000部，「北海道観光カレンダー」１万6,000部作成し，旅行代理店はじめ観光案内所，行催事等に配布。○観光展の開催　〝北国の旅と味〟をテーマに北海道志向を高めるため，６／４～９東京・大丸百貨店，８／20～25大阪・大丸百貨店で「北海道の観光と味覚店」開催。道外25の

百貨店を会場に「北海道の物産と観光展」を共催，このうち市場性，立地条件等を配慮し次の９会場を重点会場として，観光宣伝を強化した。10／９～14広島そごう，10／22～28千葉そごう，10／29～11／３横浜高島屋，10／30～11／４そごう神戸店，10／30～11／９松山いよてつそごう，11／５～10高島屋京都店，11／11仙台丸光，11／25～30福岡玉屋，11／27～12／２北九州黒崎そごう。

○「冬こそ北海道」のキャンペーン　冬季観光振興のためキャンペーンを実施，ポスターＢ全判５種類5,700枚，パンフレット７万5,000部作成したほか，１／８～10東京地区のレジャー記者（報知新聞ほか８名）を道東地区へ，２／６～10大阪地区の同記者（サンケイスポーツほか10名）を道東・大雪・道央地区に招へい，11／20～29新宿駅で開かれた「冬の旅展」への参加，また東南アジア関係旅行代理店・報道機関と次により誘致懇談会を開くなど，積極的に冬季観光客の誘致を図った。２／26札幌グランドホテルで旅行代理店(29名)，３／10アサヒビール園で報道関係(15名)。○観光ミニ情報発行　毎月５万枚のミニ情報を発行して，道内外の旅行代理店はじめ観光案内所，交通機関等130カ所に配付した。

○道外旅行業者の招へい　新しい商品設定などにより道外客誘致のため，道外旅行代理店の担当者を招き次により研修旅行を実施した。９／28～10／１東北地区の業者25名が道東・大雪・道央へ，10／20～23大阪地区の業者25名が道東へ。○修学旅行誘致キャンペーン　道外の修学旅行を積極的に誘致するため，北海道修学旅行誘致促進協議会と共同で次により誘致団を派遣，旅行代理店，各種学校，交通機関などを招いて誘致懇談会を開催した。10／20～23東北地区（秋田，山形，新潟　85名参加)，11／12大阪地区(38名参加)，11／13東京地区（71名参加)。なお，今年は「修学旅行のしおり」を1,500部作成，各学校や懇談会などで配布した。○海外観光客誘致　海外観光客の誘致を図るため，本年度は特に東南アジアに重点をおき，台湾，香港，マレーシア，ソウル，マニラ，シンガポールの各地から報道関係者16名を招いて，２／７～11に真冬の道内を案内して取材に協力したほか，アサヒイブニングニュース・海外版（10／23)，経済日報（１月～３月，９回)，台湾観光協会報(１月～３月）に広告宣伝を行った。

○特別キャンペーン　ここ数年低調気味の道外客を積極的に誘致するため官民一体となり，道観連の宣伝機関として北海道観光誘致宣伝協議会（会長・友吉三郎日本交通公社道営業本部長)を組織，首都圏をターゲットに夏季は「マイミルキー・サマーHOKKAIDO」，冬季は「氷点下のクリスタル・ロマン。〝冬こそ北海道〟」をスローガンに各種媒体を活用し，総額２億円の大型キャンペーンを展開した。実施期間は，夏季６／４～７／12，冬季12／１～３／10で，主な内容は次のとおりである。

冬をＰＲのポスター

夏季①テレビスポット389本放映②６／４銀座・三越前街頭宣伝でタレント，デモガールにより白いかさ８万3,000本，白い恋人等2,000個，Ｔシャツ3,210枚贈呈③６／７銀座の歩行者天国を利用して三越前～日本橋でデモガールにより花の種配布④パブリシティ関係で６／５ＳＴＶニューススタジオ，６／６

テレビ朝日「独占女の60分」，6／9日本テレビ「ルックルックこんにちわ」，6／16西日本放送「佐々木正夫のトラベルジョッキー」6／17・22ＮＨＫ北海道「北海道の窓」，7／8ＳＴＶ「２時ワイド喜瀬浩です」，7／10東京12チャンネル「特選品情報」，8／4・11・18・25ＹＴＶ「11ＰＭ」。このほか道内外新聞14紙，雑誌５誌を媒体として記事を掲載，広報宣伝活動を行った。

冬季①テレビスポット85本放映②宣伝印刷物としてポスターＢ全判2,000枚，リーフレットＡ４判30万部，ガイドマニュアル500部作成③12／１～２／28浜松町駅モノレール乗場２カ所に大型電飾看板掲出④観光客受入れ対策の一環として，歓迎立て看板150本，〝笑顔ワッペン〟２万個を配布したほか，各地域の冬季行催事を協賛⑤道外客を冬の北海道に誘致するため，５本のモデルコースを設定して旅行エージェントに提供，商品化を依頼した。２泊３日雪と氷と祭りの旅，３泊４日丹頂鶴・白鳥・流氷３白の旅，３泊４日氷点と北端をめざす旅，２泊３日冬の華・札幌―函館の旅，２泊３日雪の祭典と温泉の旅⑥朝日新聞・日曜版（１／10付）道内版15段と道外版10段，サンケイスポーツ・全国版（２／１付）５段に広告掲載のほか，週刊朝日・増刊「冬の北海道」特集号（11／５号）により広報宣伝⑦大阪と仙台において誘致懇談会開催。

〔一般事業〕○北海道観光フェスティバル実行委員会の事務局として，特別キャンペーンと連動し，５／15大通公園西８丁目からスタートしたスズラン鳩レースを第１弾に，東京都で次の催しを実施した。６／６ＮＨＫホールで名曲コンサート「ほっかいどう」，６／７上野公園～銀座８丁目までランランスズランイン銀座，６／６後楽園スタジアムでスズランナイター，６／４～９大丸東京店で北海道の観光と味覚展，５／15～６／13都内郷土料理店で観光と味覚まつり。その他５／11～17銀座ソニービルで開かれた〝さくら草〟フェアー，６／21読売ランドで催された熱気球を見る会の２行事に協賛。

ランラン・スズラン・イン銀座

このほか，一般事業として①各種媒体を活用した広報宣伝②台湾のノースランドツアー旅行団の受入れについて協力③静岡県旅行業協会と誘致懇談会開催④大阪府旅行業協会と連絡会議開催⑤ホテル日航成田の「秋の北海道展」に協力⑥ホンダランド鈴鹿サーキット「北海道の観光と物産展」に協力⑦札幌そごう「大北海道物産まつり」に協力⑧松阪屋「大北海道展」に協力⑨なごや納涼まつりに協力⑩'81大阪御堂筋カーニバルに協力⑪第７回北海道雪の祭典共催⑫大丸東京店「大北海道展」に協力⑬江差追分全国大会，全国修学旅行協会写真コンテスト，その他関係行催事に後援または協賛⑭リーフレット，観光カレンダー，パネル時計などの作成，販売。

〔会報の発行〕会員の機関紙として会報「どうかんれん」№192～196号を発行。

〔観光情報センター業務〕○日本観光協会情報センターのサブセンターとして，観光案内，資料の提供を行ったほか，「お国自慢日本一」「温泉」「公的宿泊施設」について委託を受け調査を行った。

〔観光案内所業務〕○札幌観光コーナー　道内各地のポスターの展示，資料の提供，行催事の案内や観光相談に応じた。○東京・名古屋・大阪案内所　案内・相談業務と資料の提供並びに各種行催事について協力。

20年間の会員数、収支決算額、観光客入込数などの推移

項目＼年度別	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
会長名	町村金五	町村金五	町村金五	広瀬経一	広瀬経一	広瀬経一	広瀬経一	広瀬経一	広瀬経一～舟橋要	舟橋　要
副会長数	5	5	5	5	5	6	6	7	7～3	3
専務理事名						平沢正文	平沢正文	春日井仁	春日井仁～斎藤丈武	斎藤丈武
会員数	105	169	194	180	224	227	241	241	241	255
会費収入 千円	2,745	3,215	3,635	3,590	6,325	9,236	9,254	9,127	9,101	14,307
収支決算額(収入) 千円	8,169	10,200	12,235	16,531	40,617	46,176	57,724	51,545	55,768	68,040
道補助金 千円	2,374	2,500	2,500	3,000	10,840	16,570	18,000	18,350	18,450	24,925
観光客入込数 千人	19,910	20,989	26,196	29,456	30,693	38,436	42,469	45,804	50,337	58,624
道外客数 千人	405	470	547	596	608	713	863	948	1,169	1,519

項目＼年度別	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56
会長名	舟橋　要	舟橋　要	中原哲男	中原哲男	中原哲男	中原哲男	中原哲男	中原哲男	中原哲男	中原哲男
副会長数	3～6	6	7	7	7	7	7	7	7	7
専務理事名	斎藤丈武	斎藤丈武	斎藤丈武	斎藤丈武	二口栄蔵	二口栄蔵	二口栄蔵	二口栄蔵	二口栄蔵	二口栄蔵
会員数	255	266	270	277	283	279	267	274	278	280
会費収入 千円	14,709	15,150	20,480	20,730	21,520	23,490	23,590	23,620	23,635	27,455
収支決算額(収入) 千円	77,162	90,795	118,669	131,515	105,003	106,845	131,639	137,211	128,551	336,918
道補助金 千円	23,960	29,450	37,900	37,600	33,500	37,800	46,850	49,600	50,260	103,200
観光客入込数 千人	62,766	69,189	74,315	72,442	77,215	72,640	76,488	78,310	82,659	80,902
道外客数 千人	1,768	2,173	2,380	2,213	2,243	2,190	2,266	2,308	2,314	2,232

（注）1. 年度途中で副会長数の変更は，臨時総会の決定による。
2. 収支決算額（収入）は，その年度の予算規模を知るためのもの。
3. 観光客入込数は，道内各観光地に入り込んだ延べ人員。
4. 道外客数は，道外観光客の実数を示す。

☆社団法人として創立以来，20年間の推移をみるために，会員数，収支決算額，観光客入込数などを各年度別に表にまとめてみた。

そのひとつに観光客入込数があるが，創立の37年度と56年度を比較すると，道外観光客は約5.5倍に，全道の観光客入込数は約4倍に増えている。会員の協力，道の助成などによってしだいに事業規模を拡大し，オイルショック以降の低成長時代を迎えたとはいえ，絶えず観光客の増大を図ってきた成果とみることができよう。

◇観光事業功労者

永年にわたり本道の観光振興，あるいは各観光地の発展に尽くされたとして，各年度の通常総会で次の各氏が表彰された。

〔38年度〕 浜野増次郎（虻田町）関量一（留

辺藁町)，遠藤数太（狩太町)，故・轟木義重（札幌市）　〔39年度〕高田富与（札幌市)，三浦吉太郎（小樽市）　〔40年度〕楡金幸三（札幌市)，国沢謙蔵(留辺藁町)　〔41年度〕山田角太（鹿追町)，熊谷綾雄（室蘭市)，山崎友吉（千歳市）　〔42年度〕佐藤省三（東利尻町)，井上清（札幌市)，川村力子卜（旭川市）　〔43年度〕村川豊次郎(札幌市)，先田秀吉(苫小牧市)，斎藤東四郎（虻田町)，石野清三（上川町)，高橋サク(音更町)〔44年度〕日野洋治（登別町)，小池生治(蘭越町)，大西功（旭川市)，若山万之助（黒松内町）　〔45年度〕故・大西長光(虻田町)，岩倉誠一(登別町)，石黒ハル(鹿追町)，谷川幸治（釧路市）　〔46年度〕鈴木石太郎（函館市)，河崎勇（積丹町)，吉田由次郎（伊達町)，若狭函寿（虻田町)，宮武義雄（北見市）　〔47年度〕木下又三郎(東川町)，大野直栄（阿寒町)，貫田剛吉（千歳市)，塩森哲雄（網走市)，南邦夫(登別市)，根津文男(弟子屈町)，　〔48年度〕福島新太郎（倶知安町)，加森勝雄（登別市)，沼倉祐三郎（弟子屈町)，松岡義秀（阿寒町)，小山康三（愛別町)，小川三男（留辺藁町）　〔49年度〕山口勝美（留辺藁町)，小西清作（東川町)，磯野利男（羽幌町）　〔50年度〕浜野常七（札幌市)，山浦久三郎（阿寒町)，大野トメノ（壮督町)，吉田保一（札幌市)，小川義雄（岩見沢市)，　〔51年度〕佐藤春寿（白老町)，高橋良治(釧路市)，高桑華夷治(斜里町)　〔52年度〕桐原酉次(札幌市)，大門金光（東川町)，岩井金次郎(登別市)　〔53年度〕山丸武雄（白老町)，山浦正敏（阿寒町)，札幌ラーメン店・味の会（札幌市）　〔54年度〕栗本茂與蔵（浜中町)，作田勝太郎（音更町)，張江大策(釧路市)，金道義吉(函館市)　〔55年度〕畳規短郎(江差町)，前川市治郎（美幌町)，吉野鶴夫(斜里町)　〔56年度〕野村義一（白老町)，山口正（上川町)，福田強（函館市）　〔57年度〕山本多助(阿寒町)，秋吉正男（登別市)，荻野深一（函館市)。

写真は57年度の功労者。

◇物　故　役　員

道観連の役員として，永年にわたってその運営に尽くされ，在任中に死去された方々は次のとおり。数字は亡くなられた年月日。

副会長・伊藤琢磨（北海道バス協会長）44，8，30　常任理事・広瀬昇（洞爺湖温泉観光協会長）46，4，22　理事・五野井貞蔵（えりも観光協会長）46，9，30　常任理事・浜野増次郎（道旅館環衛同業組合温泉部会長）47，9，7　常任理事・林孝一（定山溪観光協会長）47，11，15　常任理事・南邦夫（登別観光協会長）48，10，16　専務理事・斎藤丈武（専任)51，1，4　理事・本間桂朔(三笠観光協会長）52，9，26　副会長・鈴木石太郎（函館観光協会長）55，3，13

＝事務局の移り変わり＝

道観連の事務局は，道の観光課内におかれていたが，法人となった37年の5月札幌市北1条西4丁目にあった札商ビル4階（後に1階）に入居する。

初代の事務局長は，5月に道観光課長補佐から就任した轟木義重氏。職員2名でスタートしたが，この年11月30日，過労が重なり心臓病で入院加療中であった轟木氏が急逝，後任の事務局長にやはり道を退任した碁石敏氏が就任（38年9月）する。このころが事務局の創成期といえよう。

事務局が入っていた札商ビルが取りこわしのため，市内北2条西4丁目北海道ビルに移

転するが，翌年７月南２条西４丁目旧拓銀南支店跡に再移転，やがて41年６月，北１条西２丁目に完成した北海道経済センター３階に落ち着き，職員数もしだいに増える。

その後，経済センター１階に北海道商工観光センターが開設され，観光コーナー部門の管理を兼ねるため，46年10月25日３階から１階に移り現在に至っている。

この間，職員にもかなりの移動があったがその氏名及び在職期間は次のようになっている。（数字は年・月を示す）

○事務局長　轟木義重（37・５～37・11）碁石敏（38・９～42・７）春日井仁（44・４～専務理事）高柳幸雄（45・２～45・４）菅原重夫（46・８～現在」

○一般職員　太田照子（37・４～39・10）中村崇（37・７～44・４）河村陽夫（39・10～40・３）吉泉泰子（40・４～42・９）松田安雄（40・10～現在）前田順子（41・７～44・６）南部久子（43・10～46・６）鎌田信（44・７～現在）永江文雄（44・８～現在）福島睦子（45・６～46・６）坂本武秀（46・６～49・３）五十嵐知子（46・６～47・12）佐藤登志子（46・12～53・３）五十嵐八郎（47・１～49・10）作山裕子（48・４～53・10）佐藤宏（49・５～現在）浜田登（49・５～現在）愛場百合子（53・４～現在）佐藤早苗（53・12～現在）

○東京案内所　春日井仁（41・６～事務局長）吉田弥生（41・６～44・６）佐藤登志子（41・７～46・12）黒須重男（41・７～現在）根本邦子（47・９～50・３）山田純子（52・４～53・９）福島尚子（53・10～54・５）清水英子（54・５～54・12）佐野輝美（54・12～55・６）内野由布子（55・７～57・３）広島由美子（57・４～現在）

＝東京案内所今昔＝

所長　黒　須　重　男

私が道観連東京案内所に，札幌から赴任したのは昭和41年７月であった。

案内所は，本道観光業界の強い要望で各方面の協力により，この年６月に開設されていた。東京は猛暑の最中で，６年間東京を離れ札幌暮らしの私には天国から地獄にきた思いで，この夏は閉口した。

当時，職員は所長以下男子職員１名，女子職員２名計４名で，北海道観光の総合案内所としてスタートした。昭和41年といえば，ようやく道外客による北海道観光が本格的に始まろうとしていたころである。

東京の中心，八重州口に案内所ができたものの，これからどのような方法で広く北海道のＰＲをしたらよいのか途方にくれたが，結局は旅行業者，航空会社，報道機関などをくまなく訪問し，案内所が開設したことを知らせるのが最良の策との判断から，毎日のように関係先を回わったことを今でも記憶している。

北海道の観光と言っても，当時は観光資料やポスターなど思うように入手出来なかったので，旅行関係者にはよいタイミングであったようだ。特にマスコミには当所開設の意義は大きかったと思う。

旅行業者より資料が欲しいと言われ持参してみれば，夫婦２人で開業しているような小さな業者の多かったこと。訪ずれる相談客も「本当に北海道で観光が出来るのか」「町にも熊が出ると聞くが，奥地には旅館らしきものがあるのか」といったような質問までとび出し，北海道が観光地として，いかに知られていないかを思い知らされたものである。

こうした来客の一人一人の応待は大へんなもので，相談というより北海道を少しでも理解してもらおうとすることの連続だった。

旅行業者，航空会社の企画にも当方から出掛けて行き，コースの説明，日程，料金問題

をくりかえし話し合い，少しづつツアー計画の設定を願う毎日でもあった。

また41年から43年ころには，都内には道内の旅館，バス，食事などを提供する，観光客受入れ施設等の案内所もほとんど無く，当所へ旅行業者からの依頼のあった団体(ツアー)に対し，道内各方面と連絡を取り予約サービスまでしなければならないことも再三あった。ちなみに42年に，団体客の仲介を依頼された人員1万3,796人，貸切バス74台，旅行業者に個人客の紹介1,401人であった。

旅行業者には，都内で北海道の観光誘致懇談会を何度も開催，都民には毎年貸ホールを利用して「北海道の夕べ」を開き，観光映画，劇映画，郷土芸能，はては北海道への招待抽せん会などで誘致を図った。

43年，44年ころの誘致対策として，道内で開催される全国大会の継続調査のほか，旅行業者との懇談会も大手業者，中小業者，電鉄関係，農協関係とそれぞれに会合を持ち，コース，味覚，観光施設などの説明をもとに，本道の旅行企画を依頼したものだった。

マスコミ対策も，道内の観光情報を各市町村より電話で聞き，各レジャー記者クラブに連絡したり，また取材の依頼があれば地元に協力を求め，テレビ関係，ラジオ関係にも北海道の取材を強く要請したことが多かった。

45年から47年ころは修学旅行に取り組み，私立高等学校の誘致をはじめ，各種学校には観光ポスターの校内掲示を依頼してみたり，銀行ロビー内で写真展による北海道宣伝もたびたびお願いした。

私どもが，旅行業者や航空会社に依頼して北海道ツアーを企画してもらい，その第一陣の出発に際し，感謝をこめて花束を贈った時ほどうれしかったことはない。

いろいろな苦労話しは際限なくあるが，そんな中で毎日の業務が苦になったことは一度もなかった。〝我々が最前線でやらねば〟という気持が強かったのだと思う。

そうこうしているうち，46年には案内所の職員も2名となってしまった。ようやく軌道に乗ってきた時期だけに，補充をされなかったのが実に残念であったが，諸般の事情もあり，今だに女子職員と2名でがんばっている。

48年はオイルショックがやってきた。北海道の観光もこれからが本ものと思っていた矢先きにである。しかし私どもはこうした情勢にへこたれず，ＰＲに誘致に，これまで以上の努力を続けたことはいうまでもない。

観光には〝流れ〟というものがあるようだ。昭和40年代の前半は南九州，45年ころから北海道へ，その次に沖縄あるいは海外へと観光客が流動している。

これに加えて，50年代に入って低成長時代を迎え，観光の大量化・広域化は影をひそめ，その動きは鈍化しつつある。この影響は北海道ばかりでなく，ほとんどの府県が同じような事情にあり，各府県ともその対策に真剣になっている。

県と航空会社とのタイアップ，旅行業者と連携した誘致作戦，県独自の全国大会誘致や修学旅行誘致を図るなど，いろいろな面で各府県がそれぞれ観光に対し位置づけを強化している。

各地の観光が伸び悩みにある現状の中で，北海道の観光を考える場合，私どもは過去のことを捨て白紙にもどって考へていかねばならないような気がする。観光には宣伝が必要なことはいうまでもない。しかし，これまでただＰＲ，誘致，キャラバン，といったことばかりに重点を置きすぎたきらいがないだろうか。

他府県の動向，旅行業者の動き，旅行客の志向の変化などをよく見究め，情報を素早くキャッチしながら，誘致と宣伝，受け入れが一体化しなくては，経済不況下とはいいながら北海道を甦みがえらすことは難しい。

北海道の四季，それぞれに合った受け入れ体制を各観光地ごとに，また来道した観光客をいかに楽しませて帰らせるか，特に接遇問題を真剣に考えていきたいものである。

創立20年を迎えた
社団法人 北海道観光連盟

1. 定　　款
2. 役員名簿
3. 昭和57年度事業計画書
4. 昭和57年度収支予算書

社団法人　北海道観光連盟定款

第1章　総　　則

（名　　称）
第1条　本会は，社団法人北海道観光連盟と称する。
（事　務　所）
第2条　本会は，事務所を札幌市に置く。
（目　　的）
第3条　本会は，北海道内における観光事業の健全な発達と振興を図り，国民一般の厚生，保健，文化生活の向上並びに経済の開発発展に資するとともに，国際親善に寄与することを目的とする。
（事　　業）
第4条　本会は，前条の目的を達成するため，次の事業を行なう。
(1) 観　光　宣　伝
(2) 観光客誘致促進
(3) 接 遇 の 改 善
(4) 観光資源の保護及び開発の促進
(5) 観光施設の整備促進
(6) 観光観念の普及向上
(7) 国土美化運動の推進
(8) 観光土産品の改善指導及び紹介宣伝
(9) 道内観光団体活動の促進
(10) 機関紙，印刷物の刊行頒布
(11) 観光事業の調査研究
(12) その他，本会の目的達成に必要な事業

第2章　会　　員

（種類及び区分）

第5条　本会の会員は，正会員及び賛助会員とする。

2　会員の区分は，次のとおりとする。

(1)　正 会 員　観光事業に関係する団体及び法人，公共団体

(2)　賛助会員　本会の趣旨に賛同するもの

（加　　入）

第6条　会員になろうとするものは，書面をもって本会に申し込み，理事会の承認を得なければならない。

（会　　費）

第7条　会員は，総会において別に定めるところにより会費を納めなければならない。

（脱　　退）

第8条　会員は，本会を脱退しようとするときは，書面をもって会長に届け出なければならない。

（資格の喪失）

第9条　会員は，次の各号の1に該当するときは，その資格を失う。

(1)　本会が解散したとき

(2)　除名されたとき

(3)　脱退の届け出があったとき

(4)　死亡したとき

（除　　名）

第10条　会員が次の各号の1に該当するときは，総会の議決により除名することができる。

(1)　本会の名誉をき損し，又は本会の趣旨に違背する行為があったとき

(2)　著しく会費の納入を怠ったとき

（権利の喪失）

第11条　退会したもの，または除名されたものは会員としての一切の権利を失ない，すでに納付した会費その他本会の資産に対して，何等の請求をすることができない。

第3章　役　員　等

（役　　員）

第12条　本会に次の役員を置く。

会　長	1名
副 会 長	7名
専務理事	1名
常任理事	9名以内
理　事	38名以内（会長，副会長，専務理事及び常任理事を含む）
監　事	2名

（選　　任）

第13条　役員は，総会において正会員及び学識経験者のうちから選任する。

2　前項により選任された者のうち，その者の役職をもって選任されたものについては、その役職を離れたときは本会の役員を退任したものとみなし，その役職の後任者は，本会の役員に選任されたものとみなす。

（任　　期）

第14条　役員の任期は，２年とする。ただし再任を妨げない。

2　補欠によって就任した役員の任期は，前任者の残任期間とする。

3　役員は，任期が満了しても後任者が就任するまでは，その職務を行なう。

（職　　務）

第15条　会長は，本会を代表し，会務を総理し，会議の議長となる。

2　副会長は，会長を補佐し，会長に事故があるとき，または欠けたときは，あらかじめ会長の定めた順位によってその職務を行なう。

3　専務理事は，会長の指揮を受けて専ら会務を掌理し，会長及び副会長に事故あるときは，その職務を行なう。

4　常任理事は，常任理事会を組織し，本会の緊急重要事項を審議する。

5　理事は，理事会を組織し，本会事業の審議並びに推進にあたる。

6　監事は，民法第59条の職務を行なう。

（役員の解任）

第16条　役員が，次の各号の１に該当するときは，総会においてその役員を解任することができる。

(1)　心身の故障のため，職務の執行に堪えないと認められるとき

(2)　職務上の義務違反，その他役員たるにふさわしくない行為があると認められるとき

（役員の報酬）

等17条　役員の報酬は無給とする。

ただし常勤の役員は有給とすることができる。

2　常勤の役員の報酬は理事会の議決を得て会長が定める。

（顧問，参与）

第18条　本会に，顧問及び参与若干人を置くことができる。

2　顧問は，学識経験者の中から理事会の議を経て，会長がこれを委嘱する。

3　参与は，関係各官公庁の職員及び学識経験者の中から理事会の議を経て，会長がこれを委嘱する。

4　顧問は，本会の重要事項について，会長の諮問に応ずる。

5　参与は，本会の重要会務に参画して意見を述べることができる。

第４章　会　　議

（種　　類）

第19条　本会の会議は，総会，常任理事会，理事会とする。

（総　　会）

第20条　総会は，通常総会及び臨時総会とし，会長が招集する。

2　通常総会は，毎年１回事業年度終了後２カ月以内に招集する。

3　臨時総会は，会長が必要と認めたとき，または正会員総数の３分の１以上及び監事から会議の目的たる事項を示して請求があったときに招集する。

（通　　知）

第21条　会長は，総会を招集しようとするときは，その開催日の５日前までに総会に附議する事項，日時及び場所を記載した書面をもって，その旨を会員に通知しなければならない。

（総会の議決事項）

第22条　総会においては，本定款に別段の定めあるもののほか，次の事項を審議決定する。

(1)　毎年度の事業計画及び収支予算

(2)　毎年度の事業報告及び収支決算

(3)　会費の徴収に関する事項

(4)　前各号のほか，会長において必要と認めた重要事項

（議　決　権）

第23条　会員は，総会において各1個の議決権を有する。

ただし，賛助会員は議決権を有しない。

2　正会員は，委任状により代理人をもって総会の議決権を行使することができる。

3　前項の代理人は，本会の正会員でなければならない。

この場合，代理人によって議決権を行使する正会員は，総会の出席者とみなす。

4　総会は，正会員総数の過半数の出席をもって成立する。

（議　　決）

第24条　総会の議決は，出席正会員の過半数により決し，可否同数のときは議長が決する。

（議　事　録）

第25条　総会の議事については，議事録を作らなければならない。

2　議事録は議長が作成し，少なくとも次に掲げる事項を記載し，議長及び議長が指名した出席正会員2名以上がこれに署名押印する。

(1)　会議の目的である事項，日時及び場所

(2)　会員数及びその出席者

(3)　議事の経過要領

(4)　議決した事項及び賛否の議決権数

3　前項の議事録は，事務所に備え付けて置かなければならない。

（理　事　会）

第26条　理事会は，理事をもって構成し，必要に応じて随時開催し会長が招集する。

理事会は，別に定めあるもののほか，次の事項を審議する。

(1)　総会に提出する議案

(2)　総会の決議によって委任された事項

(3)　本会の運営に関する重要な事項

2　監事は，理事会に出席して意見を述べることができる。

3　第23条，第24条及び第25条の規定は，理事会についても準用する。

4　あらかじめ書面表決によることができる旨を定めて通知した場合は，書面表決をすることができる。この場合は出席とみなす。

（常任理事会）

第27条　常任理事会は，会長，副会長，専務理事及び常任理事をもって構成し，会長が招集する。

別に定めあるもののほか，次の事項を審議する。

(1)　理事会に提出する事項

(2)　理事会から委任された事項

(3)　その他会長が必要と認めた事項

第5章　事務局及び職員

（事　務　局）

第28条　本会に事務局をおく。

事務局に関する規定は理事会の議決を得て会長が別に定める。

第6章　資産及び会計

（事業年度）

第29条　本会の事業年度は，毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

（資産の構成）

第30条　本会の資産は，会費，補助金，寄附金及びその他の収入から成るものとする。

（資産の管理）

第31条　本会の資産は会長が管理し，その管理方法は理事会の議決を得て，会長が別に定める。

（経費の支弁等）

第32条　本会の経費は資産をもって支弁する。

毎事業年度の決算において剰余金を生じたときは，翌年度に繰り越すものとする。

（会計書類等）

第33条　会長は，毎事業年度終了とともに，次の書類を作成し，通常総会開催の5日前まで監事に提出して，その監査を受けなければならない。

(1)　事業報告書

(2)　収支に関する決算書類

(3)　財産目録

2　監事は，前項の書類を受理したときは，これを監査し，監査報告書を作成して総会に提出しなければならない。

3　会長は，前項の書類及び報告書について，総会の承認を得た後，これを事務所に備え付けて置かなければならない。

第7章　定款の変更及び解散等

（定款の変更）

第34条　本定款を変更しようとするときは，第23条の規定にかかわらず，総会において出席会員の4分の3以上の同意を得，かつ札幌陸運局長の認可を受けなければ変更することはできない。

（解　　散）

第35条　本会は，総会において出席正会員の4分の3以上の議決を得なければ解散することができない。

（残余財産の処分）

第36条　本会の解散に伴う残余財産の処分は総会において出席会員の4分の3以上の議決を得，かつ札幌陸運局長の許可を受けて，本会と類似の目的を持った団体に寄付するものとする。

（規程の制定）

第37条　本会の運営について必要な規程は，理事会の議決を経て会長が定める。

附　　則

本定款は，昭和37年9月27日より施行する。

昭和46年1月30日一部変更　　昭和49年6月28日一部変更

昭和47年12月1日一部変更　　昭和52年5月12日一部変更

役　員　名　簿

57.10.1

会　　長		中原哲男
副会長	札幌観光協会会長	今井道雄
（7名）	国際観光旅館連盟北海道支部長	金川幸三
	釧路観光連盟会長	根津文男
	上川地方観光連盟副会長	大西　功
	北海道バス協会会長	仙石　清
	函館観光協会会長	鈴木武二
	日本交通公社北海道営業本部長	島村　淳
専務理事		二口栄蔵
常任理事	洞爺湖温泉観光協会会長	若狭幸蔵
（9名）	登別観光協会会長	南　太郎
	札幌観光協会副会長	薩　一夫
	十勝観光連盟会長	坂本圭司
	根室観光連盟会長	高本正一
	網走支庁管内観光連盟副会長	竹田芳三郎
	宗谷観光連絡協議会専務理事	藤野喜一
	日本ホテル協会北海道支部長	杉野重雄
	札幌鉄道管理局営業部長	光山忠彦
理　　事		和野内崇弘
（20名）	江差観光協会会長	田附熊雄
	大沼観光協会会長	金沢精一
	後志観光連盟副会長	中谷文義
	倶知安観光協会会長	名畑暢夫
	小樽観光協会会長	川合一成
	日高管内観光連盟会長	伏木田達男
	千歳観光連盟副会長	渡部　茂
	厚岸町観光協会会長	鈴木朋夫
	阿寒観光協会会長	金山泰明
	斜里観光協会会長	高桑華夷治
	網走市観光協会副会長	浅利清一
	温根湯温泉観光協会会長	村井　博
	留萌地方観光推進協議会会長	本間泰次
	北海道旅行業協会会長	山出正二
	日本航空㈱札幌支店長	河野明男
	全日本空輸㈱札幌支店長	春日　功
	東亜国内航空㈱札幌支店長	高木正博
	北海道乗用自動車協会会長	平島　豊
	北海道旅客船協会副会長	岩渕作一
監　　事	層雲峡観光協会会長	山口　正
（2名）	白老観光協会会長	野村義一

昭和57年度事業計画書

Ⅰ　事業方針

依然，好転の兆が見られない経済情勢のなかで，全国各地においては，苛烈な誘致宣伝活動が展開されているが，本道においては，第2年目を迎えた特別キャンペーンを更に強化するとともに観光フェスティバルなど各事業との関連性を深め総合的効果を発揮するよう運営を図るとともに北海道博覧会，十勝グリンピア博等を含め，各地の受入体制の魅力化を促進し，具体的な紹介，宣伝に重点をおき，停滞気味の入込を打破し観光産業の振興発展を期すものである。

Ⅱ　事　　業

1.　観光振興推進事業

観光政策の推進と受入体制の整備促進を図るため次の事業を行う。

(1)　観光政策推進活動

観光政策の推進と観光産業の振興，発展を図るため次の事業を行う。

ア，陳情，要請活動

イ，観光振興に関する行催事の主催，後援

ウ，観光振興に関する会議

エ，観光事業功労者の表彰

オ，観光関連資料の収集，調査

(2)　第5回北海道観光大会と創立20周年記念行事

観光政策の推進を図るため第5回観光大会を開催するとともに創立20周年記念行事を9月に行う。

(3)　観光セミナーの開催

観光に関する知識の向上を図るため総合的なセミナーを開催する。

開催時期　　11月

(4)　受入体制推進活動

受入体制の充実，整備を推進するため次の事業を行う。

ア，観光客受入サービス促進

観光事業にたずさわる管理職並びに従業員のサービス研修会を行い，受講者に研修バッジを与え，意識の昂揚を図る。

イ，観光地環境改善推進

観光地の環境整備を推進するため，各団体と提携してゴミ持帰りキャンペーンを実施するほか，クズ籠，ゴミ袋を作成配布する。

2.　観光土産品の育成

観光土産品業界の育成強化を図るため，北海道観光土産品協会に道補助金300万円を助成する。

3.　土産品推奨品制度促進

北海道観光土産品協会の行う事業にタイアップして，優良観光土産品の販売促進を図る。

4.　北海道観光情報センターの設置

観光拠点となっている主要都市に地域情報センターを設置し，情報の収集提供を行う。

57年度予定　　札幌ほか2箇所

5.　宣伝誘致事業

観光客の誘致促進を図るため次の事業を行う。

(1) 宣伝印刷物の発行

ア，パンフレットの作成

150,000部　　6月発行

B5判28頁　　オフセット印刷

イ，観光カレンダーの作成

15,000部　　11月発行

B3判　6色刷　　オフセット印刷

(2) 観光展の開催

観光資源を道外に広く紹介し，北海道志向を高め誘致促進を図る。

○観光と味覚展　　大阪市，東京都　　8月～11月

○観光と物産展　　仙台市，千葉市，横浜市，京都市，神戸市，姫路市，岡山市，広島市，福岡市，松山市　各市の百貨店　10月～11月

(3) 通年観光促進

観光の通年化を推進するため，冬季観光行催事，自然風物等，冬の魅力を紹介宣伝し，観光客の誘致を図る。

ポスターの作成　　4,000枚

パンフレットの作成　　50,000部

レジャー記者の招へい

冬の旅展その他行事参加

新聞，雑誌による広報宣伝

(4) 観光ミニ情報の発行

観光レジャーのホット情報を収集し，道内外の観光案内所，旅行代理店等130カ所に配布紹介し，誘致の促進を図る。

毎月　　50,000部　　1日発行

(5) 旅行クラブ等の誘致

学校，企業等のモニターを招へいし，新聞，雑誌等の媒体を通じて広く観光紹介を行い，北海道志向を高める。

関東地区　　16名

関西地区　　16名

実施時期　　9月

(6) 修学旅行誘致キャンペーン

観光通年化と観光客の増加対策として，道外からの修学旅行の積極的な誘致を図るため，誘致団を派けんしてキャンペーンを行う。

東北地区（6県）　　10月中旬

関東，関西地区　　11月上旬

(7) 国際観光客の誘致

海外観光客の誘致を促進するため英文と華文の観光パンフレットを作成する。

来道海外関係者との懇談会開催。

(8) 特別キャンペーン

低滞している本道観光の現状を打開し，観光客の入込を強力に推進するため，第二年目の事業を観光フェスティバル（3千万円）その他関係催事と連動させ多角的に東京地区を重点に2億5千万円の一大キャンペーンを展開する。

ア，夏のキャンペーン

○北海道シネマ，フェスティバル　東京４月30日～６月４日
銀座ガスホール他　10会場
大阪６月５日～６月11日
松原市文化会館他　５会場

○銀座街頭キャンペーン　５月５日上野―銀座間　5,000人参加

○北海道観光と味覚まつり　東京５月５日～６月15日　20店
大阪５月29日～６月13日　20店

○すずらんナイター（巨人―阪神）甲子園さわやかナイター　６月２日
後楽園すずらんナイター　６月12日

○ＡＢＣ―ＴＶ「おはよう朝日です」５月31日～６月４日
「おはようワイド土曜の朝に」６月５日（21局ネット）

○北海道観光版誌　６月上旬，知事，おおばひろし，倉本聡氏の鼎談。
ＨＴＢ，朝日新聞，週刊朝日掲載。

テレビ，スポット放映　関東地区５月25日～６月30日
212本（15″ 30″）

○北海道ふるさと展　東京ＮＨＫ放送センター　６月１日～６月15日

○日本最北端マンガ家食べある記　７月・９月

○松山千春ビック・サマーショー　'82　７月24日　真駒内屋外競技場

○ '82全日本ボートオリエンテーリング　８月７日～８月８日　大沼

○その他啄木展等

イ，秋・冬のキャンペーン

○テレビ・スポット放映　８月～10月
○ポスター・パンフレット
○秋の味覚まつり
○冬の旅展
○街頭宣伝
○レジャー記者の招へい
○その他

6.　一般事業

観光振興の推進を図るため，次の事業を行う。

ア，印刷物の作成

イ，花の北海道キャンペーン

ウ，北海道雪の祭典

エ，道内外観光行催事の協力

オ，'82北海道観光フェスティバル

7.　会報の発行

機関紙会報「どうかんれん」を発行する。

8.　観光情報センター運営

日本観光協会の委託をうけ，観光交通地図を作成する。

観光資料の収集，提供を行う。

9.　観光コーナーの管理運営

北海道の委託をうけ，観光資料の展示，相談案内業務を行う。

10，道外観光案内所業務

東京，名古屋，大阪の各案内所における業務運営

昭和57年度収支予算書

（昭和57年４月１日から昭和58年３月31日まで）

収入の部

科目	57年度予算額	56年度決算額	増減	摘要
	円	円	円	
会費収入	28,000,000	27,455,000	545,000	
道補助金収入	129,000,000	103,200,000	25,800,000	56年 57年 管理費 28,200 33,000 事業費 75,000 96,000 計 103,200 129,000
補助事業負担金収入	206,000,000	174,782,530	31,217,470	
一般事業負担金収入	15,500,000	11,848,600	3,651,400	
観光情報センター受託収入	200,000	185,000	15,000	日本観光協会
観光コーナー管理受託収入	3,659,000	3,689,712	△ 30,712	北海道
雑収入	417,834	602,995	△ 185,161	
借入金収入	15,000,000	15,000,000	0	
前期繰越収支差額	223,166	154,315	68,851	
収入合計	398,000,000	336,918,152	61,081,848	

		56年度	57年度
		円	円
㊟ 特別キャンペーン	道補助金	50,000,000	70,000,000
	負担金	150,000,000	180,000,000
	計	200,000,000	250,000,000

支出の部

科目	57年度予算額	56年度決算額	増減	摘要
事業費	円 320,000,000	円 262,251,626	円 57,748,374	
観光振興推進費	7,300,000	6,407,853	892,147	
第5回北海道観光大会と創立20周年記念行事	1,500,000	1,012,290	487,710	
観光政策推進活動費	1,000,000	990,643	9,357	
観光セミナー費	200,000	152,000	48,000	
観光客受入サービス促進費	2,200,000	1,603,380	596,620	
観光地環境改善推進費	2,400,000	2,649,540	△ 249,520	
観光土産品業育成費	3,000,000	3,000,000	0	
土産品推奨品制度促進費	2,000,000	0	2,000,000	
北海道観光情報センター費	3,000,000	0	3,000,000	3ヶ所分
宣伝誘致費	295,400,000	245,440,379	49,959,621	
印刷物発行費	13,600,000	12,292,866	1,307,134	
観光展開催費	7,000,000	7,225,918	△ 225,918	
通年観光促進費	8,000,000	7,786,998	213,002	
観光ミニ情報発行費	3,600,000	3,494,205	105,795	
旅行クラブ等の誘致促進費	4,000,000	5,698,327	△ 1,698,327	
修学旅行誘致キャンペーン費	7,000,000	6,538,285	461,715	
国際観光客の誘致費	2,200,000	2,403,780	△ 203,780	
特別キャンペーン費	250,000,000	200,000,000	50,000,000	
一般事業費	8,500,000	6,834,124	1,665,876	
会報発行費	800,000	569,270	230,730	
管理費	58,750,000	55,568,018	3,181,982	
人件費	47,300,000	44,530,039	2,769,961	

科目	57年度予算額	56年度決算額	増減	摘要
報酬・給与	円 43,830,000	円 41,339,150	円 2,490,850	
福利厚生費	3,470,000	3,190,889	279,111	
退職給与資金会計繰入金	1,200,000	1,200,000	0	
事務局費	10,250,000	9,837,979	412,021	
会議費	1,300,000	621,123	678,877	
旅費	1,200,000	1,095,000	105,000	
需要費	1,000,000	1,008,406	△ 8,406	
役務費	1,200,000	1,346,975	△ 146,975	
備品費	100,000	53,200	46,800	
借損料	1,700,000	1,871,917	△ 171,917	
案内所費	2,300,000	2,298,844	1,156	
負担金	700,000	748,000	△ 48,000	
交際費	350,000	355,460	△ 5,460	
雑費	400,000	449,054	△ 49,054	
観光情報センター運営費	200,000	185,630	14,370	日観協委託 ロードマップ
観光コーナー管理運営費	3,659,000	3,689,712	△ 30,712	
借入金返済金	15,000,000	15,000,000	0	
予備費	391,000	0	391,000	
合計	398,000,000	336,694,986	61,305,014	

あとがき

○道観連が昭和37年社団法人となったとき，その母体となったのは昭和21年４月に結成された北海道観光連盟である。つまり通算すると36年の歴史になる。

法人として創立20周年を記念して発刊されるものだが，編集するにあたり，そのことを念頭においていたことはいうまでもない。

○残念なことに，旧道観連時代の記録はほとんど残されていないため，結成当時やその後の事情を知る榆金，内田，清水，三浦の各氏による座談会，鈴木一男氏の手記で概要を語っていただいた。清水氏が当時作成したポスター，総会の記念写真など提供されたこと，道観連結成を報じた新聞記事を札幌市立図書館で発見したことは大きな収獲だった。

○観光が，政治・経済・社会環境の変化に影響されることから，その大きな動きを知るため，「戦後の観光関係年表」をつくってみた。これは月刊観光＜㈳日本観光協会＞，日本交通公社70年史，北海道年鑑＜北海道新聞社＞などから，参考と思われる事項を抜き出したものである。道観連もこうした時代の移り変わりとともに事業を進めてきたことになる。

○社団法人として創立以来20年の動きは，「20年の事業活動」としてまとめた。これは各年度の事業報告書，機関紙，事務局日誌などから集録したものであり，かなり詳細にわたっているが，いわば道観連の年譜であり，〝道観連20年の歩み〟そのものである。

○本誌を作成するにあたり，いろいろな方からアドバイスやご協力をいただき，感謝に堪えない。編集は事務局で担当したが，資料不足や不慣れのせいもあり，説明不十分な箇所などもあったことをお許しいただきたい。

北海道観光連盟
創立二十周年記念に寄せて

笹谷城俊作

祝吟

設立志享已廿年
創基大道今猶伝
夢成歓溢国際化
祝福隆隆頌盛宴

設立の志を享けて已に廿年
創基の大道今猶を伝う
夢は成り歓び溢る国際化
祝福せん隆々たる盛宴を頌えん

（巻頭「祝吟」の説明）

社団法人
北海道観光連盟20周年記念誌

発　行　日　昭和57年10月26日
編集・発行　(社)北海道観光連盟
札幌市中央区北1条西2丁目
経済センタービル
電話(011)231—0941